

## (別添 2)

# 温暖化対策推進に関する市民アンケート調査結果 (2019年度)

### 1 調査の概要

#### (1) 目的

地球温暖化対策・エネルギー施策を進めていくためには、市民による取組が重要であることから、地球温暖化対策やエネルギー施策に対する市民の認識や、温室効果ガス排出量やエネルギー使用量を削減するための省エネ・節電行動の状況を継続的に把握していくため、市民アンケートを実施しています。

#### (2) 調査内容

- ① 地球温暖化に関する認識と適応策の実施状況
- ② 家庭における温暖化対策の認識と実施状況
- ③ 自動車に関する温暖化対策の認識と実施状況
- ④ 温暖化対策に関連する情報の認識と取組実施状況

#### (3) 調査対象・調査方法

住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民3,000人あてにアンケート調査票を郵送し、返送された回答を集計

#### (4) 調査期間

令和2年1月21日～2月21日

#### (5) 有効回答数 (回答率)

1,063名 (回収率35.5%)

#### (6) 回答者の属性

区分	実数	比率(%)
<b>【性別】</b>		
男性	487	45.8
女性	585	55.0
無回答	21	2.0
<b>【年齢】</b>		
18歳～29歳	105	9.9
30歳～39歳	130	12.2
40歳～49歳	172	16.2
50歳～59歳	178	16.7
60歳～69歳	244	23.0
70歳以上	214	20.1
無回答	20	1.9

区分	実数	比率(%)
<b>【居住区】</b>		
中央区	144	13.5
北区	129	12.1
東区	131	12.3
白石区	114	10.7
厚別区	72	6.8
豊平区	115	10.8
清田区	67	6.3
南区	80	7.5
西区	113	10.6
手稲区	77	7.2
無回答	21	2.0

区分	実数	比率(%)	区分	実数	比率(%)
<b>【出身】</b>			<b>【住居形態】</b>		
札幌	396	37.3	戸建住宅（持ち家）	447	42.1
北海道 （札幌を除く）	518	48.7	戸建住宅（賃貸）	42	4.0
北海道以外	129	12.1	集合住宅（持ち家）	232	21.8
無回答	20	1.9	集合住宅（賃貸）	313	29.4
<b>【職業】</b>			その他	6	0.6
会社役員	42	4.0	無回答	23	2.2
会社員	328	30.9	<b>【住居建築時期】</b>		
公務員	57	5.4	2016（平成28）年以降	65	6.1
自営業	47	4.4	2011～2015 （平成23～27）年	92	8.7
パート・アルバイト	144	13.5	2006～2010 （平成18～22）年	84	7.9
主婦・主夫	185	17.4	2001～2005 （平成13～17）年	101	9.5
学生	33	3.1	1996～2000 （平成8～12）年	96	9.0
無職	171	16.1	1991～1995 （平成3～7）年	127	11.9
その他	32	3.0	1981～1990 （昭和56～平成2）年	235	22.1
無回答	24	2.3	1971～1980 （昭和46～55）年	120	11.3
<b>【同居家族】</b>			1970（昭和45）年以前	25	2.4
配偶者	684	64.3	わからない	90	8.5
乳幼児 （0～2歳程度）	53	5.0	無回答	28	2.6
就学前児童 （3～5歳程度）	66	6.2	<b>【世帯年収】</b>		
小学生 （6～12歳程度）	107	10.1	250万円未満	191	18.0
中学生 （13～15歳程度）	58	5.5	250～500万円未満	385	36.2
高校生 （16～18歳程度）	58	5.5	500～750万円未満	231	21.7
大学（院）・専門学校生	44	4.1	750～1000万円未満	112	10.5
65歳以上の方	97	9.1	1000万円以上	90	8.5
上記以外の方	232	21.8	無回答	54	5.1
いない	169	15.9			
無回答	23	2.2			

### (7) 集計・分析上の注意事項

報告書内の図表において、各設問の有効回答数は、無回答を含め「N」で表記している。また、図表中の構成比（％）は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100％になっていない場合がある。

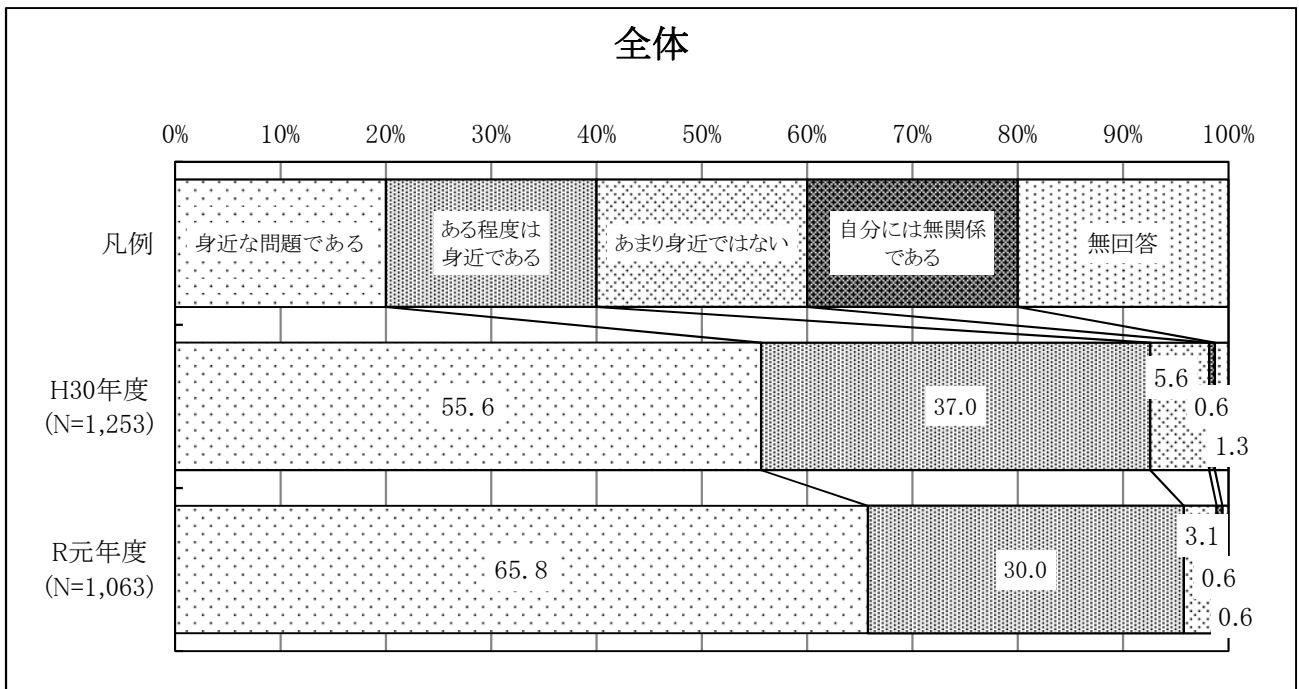
## 2 調査の結果

### (1) 地球温暖化に関する認識と適応策の実施状況

#### ■ 気候変動に関する認識

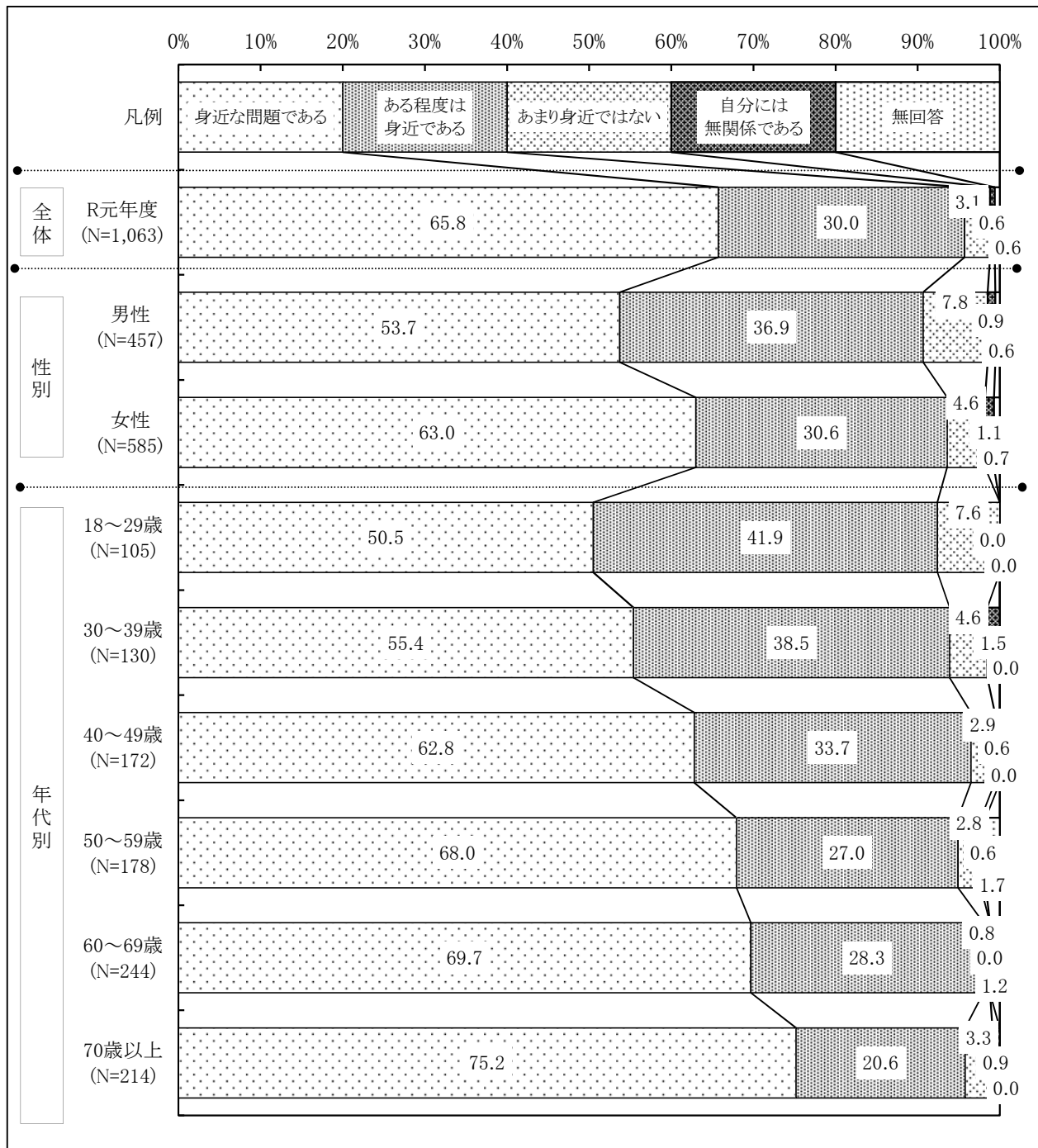
【問1】 「地球温暖化による気候変動」を身近な問題だと思っ  
ていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 「身近な問題である」は平成30年度が55.6%、令和元年度が65.8%であり、令和元年度のほうが10.2ポイント高くなっている。



【性別】「身近な問題である」は、男性が53.7%、女性が63.0%であり、女性のほうが9.3ポイント高くなっている。

【年代別】すべての年代で半数以上が「身近な問題である」と感じており、年代が上がるにつれて多くなっている。

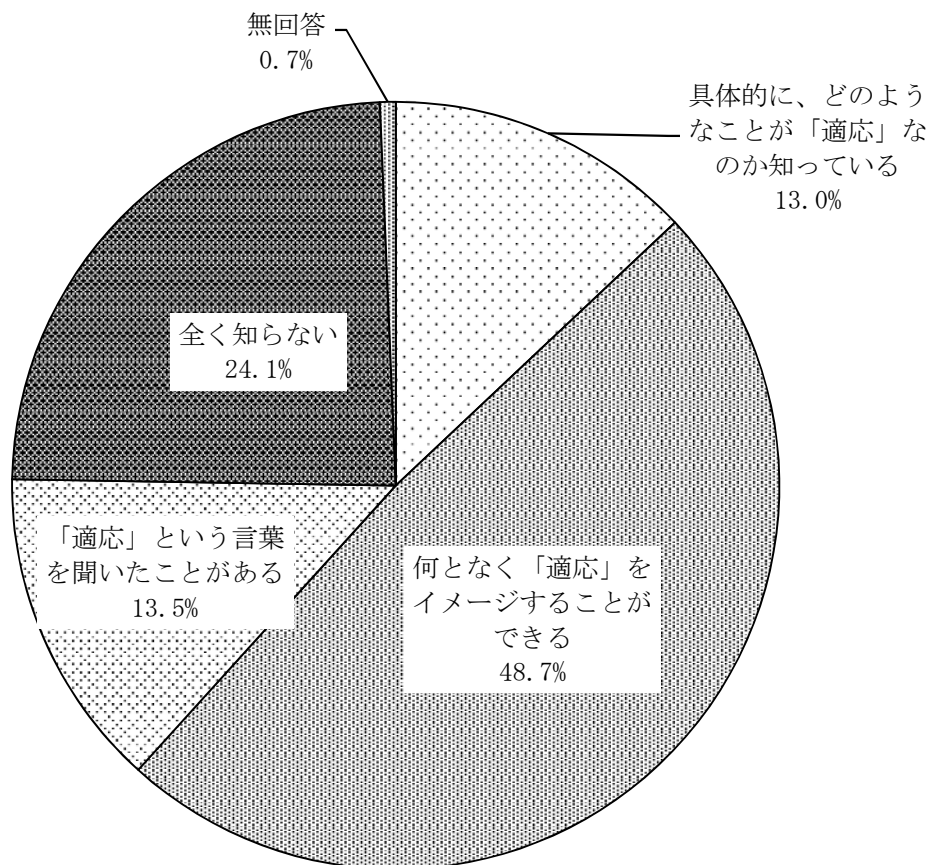


## ■気候変動の影響への適応の認知度

【問2】 「気候変動の影響への適応」について知っていますか。  
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

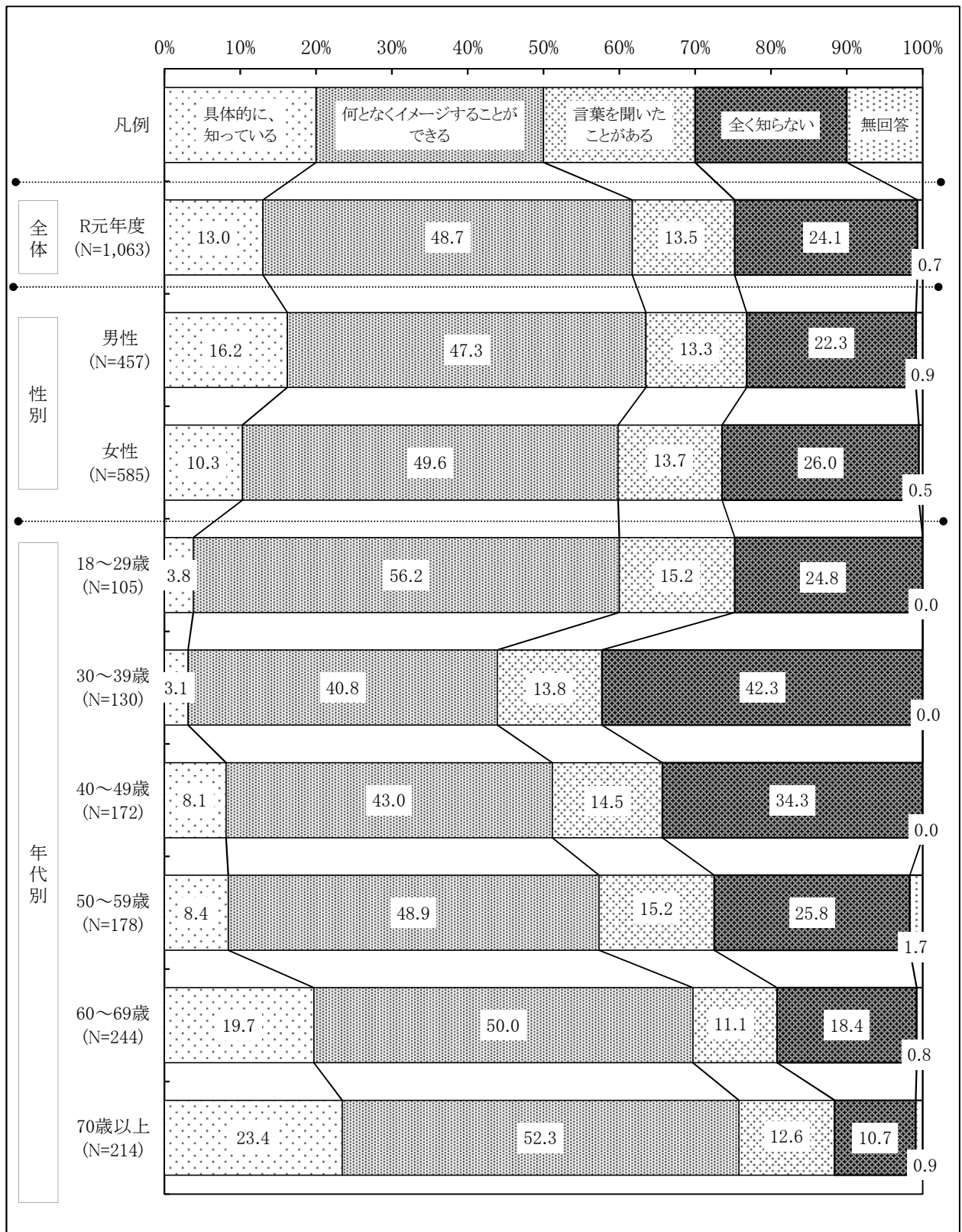
【全体】『具体的に、どのようなことが「適応」なのか知っている』と『なんとなく「適応」をイメージすることができる』を合わせて、61.7%の人が気候変動の影響への適応について知っている。

R元年度(N=1,063)



【性別】 男女で大きな差は見られない。

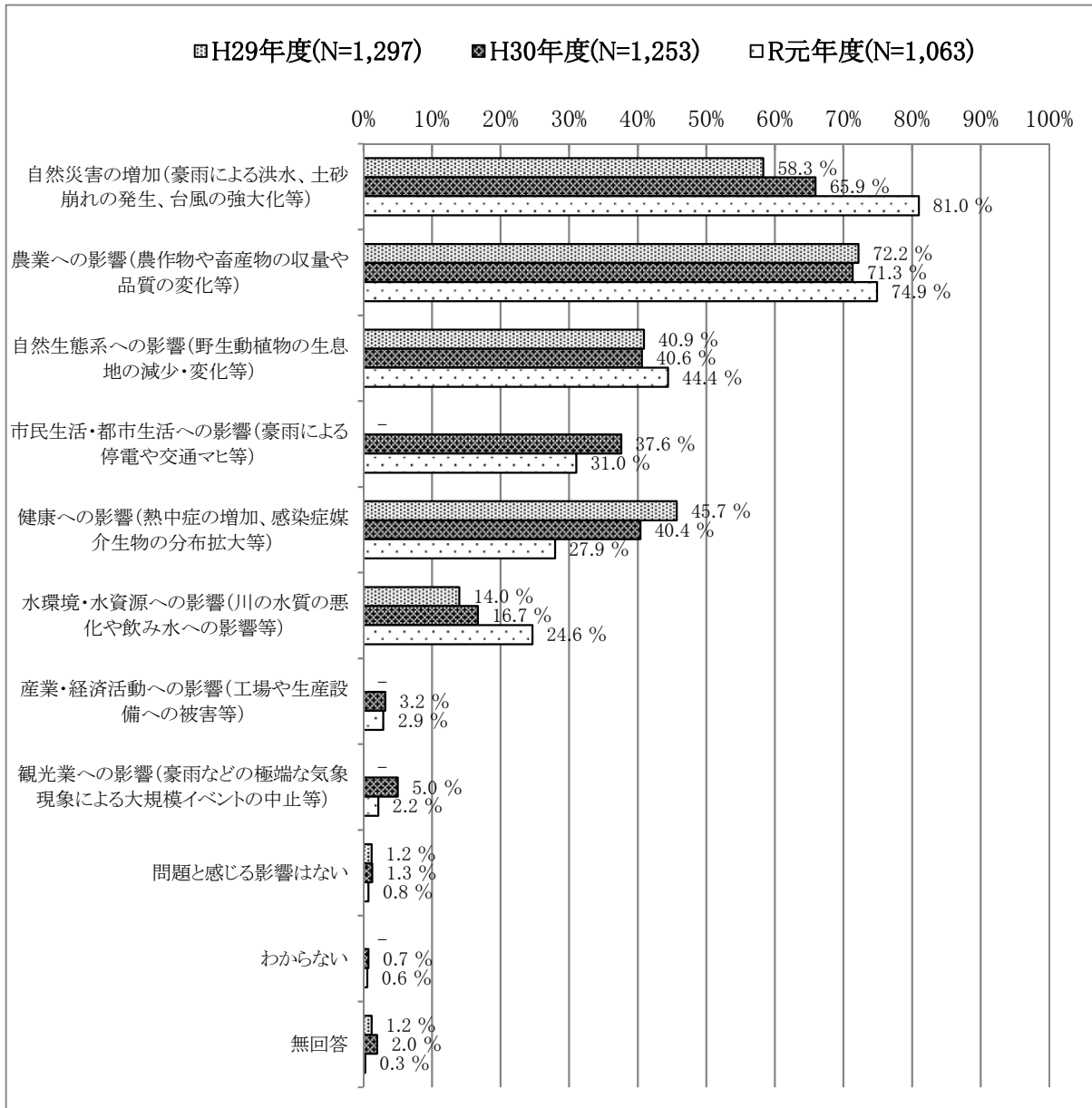
【年代別】 年代が上がるにつれて、適応の認知度が高くなる傾向が見られる。



## ■問題と感ずる気候変動の影響

【問3】 地球温暖化による気候変動について、どのような影響を問題と感ずますか。  
あてはまるものに3つまで○をつけてください。

【全体】「自然災害の増加」や「農業への影響」を問題と感ずている人が多い。年度別では、「自然災害の増加」と「水環境・水資源への影響」が増加傾向、「健康への影響」が減少傾向で推移している。



※「市民生活・都市生活への影響」、「観光業への影響」、「産業・経済活動への影響」は30年度以降の設問のため、29年度以前との比較なし

【性別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「自然災害の増加」は、年代が上がるにつれて問題と感じている人が多くなっている。

	サンプル数	自然災害の増加 (豪雨による洪水、土砂崩れの発生、台風の強化化等)	農業への影響 (農作物の収穫量や品質の低下等)	野生動物の生息地の減少・変化等	市民生活・都市生活への影響 (豪雨による停電や交通マヒ等)	健康への影響 (熱中症の増加、感染症媒介生物の分布拡大等)	水環境・水資源への影響 (川の水質の悪化や飲み水への影響等)	産業・経済活動への影響 (工場や生産設備への被害等)	観光業への影響 (豪雨などの極端な気象現象による大規模イベントの中止等)	問題と感じる影響はない	わからない	無回答
全体	1,063	81.0	74.9	44.4	31.0	27.9	24.6	2.9	2.2	0.8	0.6	0.3
《性別》												
男性	457	82.1	72.0	43.5	33.7	24.5	21.0	3.7	3.9	1.1	0.7	0.2
女性	585	80.2	77.6	44.8	28.4	30.8	27.4	2.2	0.9	0.5	0.5	0.3
《年代別》												
18～29歳	105	70.5	70.5	56.2	26.7	34.3	23.8	3.8	4.8	0.0	1.0	0.0
30～39歳	130	74.6	75.4	52.3	26.9	30.0	24.6	1.5	2.3	0.8	0.8	0.0
40～49歳	172	79.1	77.9	40.7	25.6	37.2	24.4	1.7	2.9	0.0	0.6	0.0
50～59歳	178	83.1	74.2	45.5	30.9	24.7	19.7	3.9	1.7	2.2	0.6	1.1
60～69歳	244	84.4	77.9	39.8	32.0	24.2	27.9	2.0	1.2	0.4	0.4	0.4
70歳以上	214	86.4	72.9	40.2	36.9	23.8	25.7	4.2	1.9	0.9	0.5	0.0

対象者全体と比較し 10%以上高い

対象者全体と比較し 10%以上低い

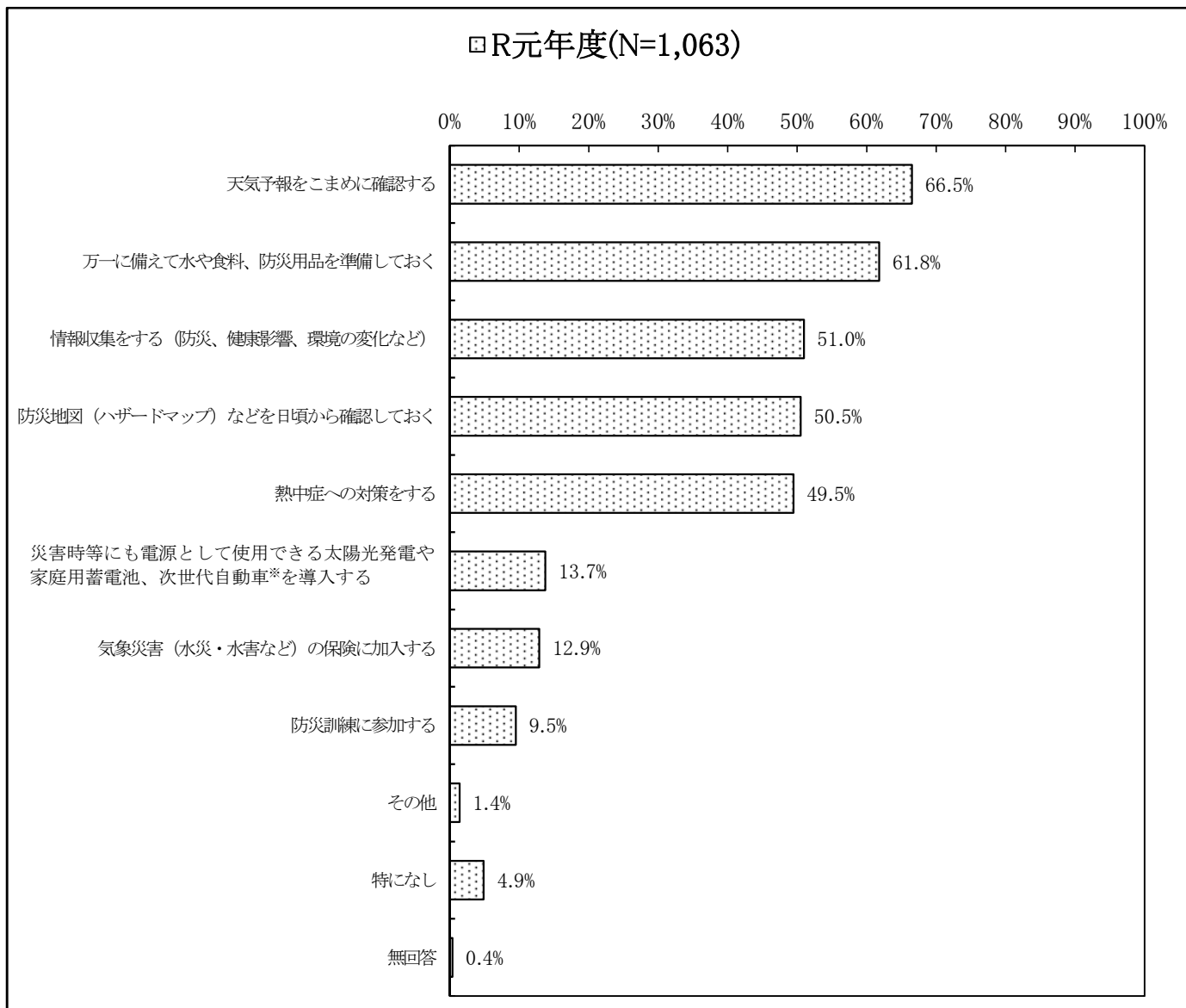
単位 % (サンプル数を除く)



## ■個人で取り組んでいる適応策

【問4】 「気候変動の影響への適応」について、個人として、どのような対策に取り組んでいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

【全体】「天気予報をこまめに確認する」、「万一に備えて水や食料、防災用品を準備しておく」、「情報収集をする」、「防災地図などを日頃から確認しておく」は、50%以上の人が取り組んでいる。



※ 次世代自動車：燃料電池自動車（FCV）、電気自動車（EV）、プラグインハイブリッド自動車（PHV）、ハイブリッド自動車（HV）など

【性別】「熱中症への対策をする」は、男性が36.1%、女性が59.7%であり、女性のほうが23.6ポイント高くなっている。

【年代別】「防災地図などを日頃から確認しておく」については、年代が上がるにつれて取り組んでいる人が多くなっている。

	サンプル数	天気予報をこまめに確認する	万が一に備えて水や食料、防災用品を準備しておく	情報収集をする(防災、健康影響、環境の変化など)	防災地図(ハザードマップ)などを日頃から確認しておく	熱中症への対策をする	家庭用蓄電池、次世代自動車を導入する	災害時等にも電源として使用できる太陽光発電や	気象災害(水災・水害など)の保険に加入する	防災訓練に参加する	その他	特になし	無回答
全体	1,063	66.5	61.8	51.0	50.5	49.5	13.7	12.9	9.5	1.4	4.9	0.4	
《性別》													
男性	457	60.8	57.5	54.7	48.8	36.1	15.1	14.2	11.2	1.8	6.8	0.4	
女性	585	70.9	65.1	47.9	51.8	59.7	12.5	12.1	8.2	1.0	3.4	0.3	
《年代別》													
18～29歳	105	59.0	46.7	47.6	24.8	56.2	7.6	5.7	6.7	1.0	7.6	0.0	
30～39歳	130	60.8	59.2	45.4	36.9	60.0	17.7	13.8	3.1	0.8	6.9	0.0	
40～49歳	172	65.1	64.0	47.7	47.1	51.2	11.6	13.4	7.6	1.7	5.2	0.0	
50～59歳	178	61.2	62.9	52.8	50.6	46.6	15.7	10.1	7.3	1.1	7.3	1.1	
60～69歳	244	70.9	61.5	53.7	60.7	45.5	14.3	15.2	11.9	1.2	1.6	0.8	
70歳以上	214	74.8	69.2	53.7	63.1	44.4	13.6	15.9	15.9	1.9	3.7	0.0	

■ 対象者全体と比較し 10%以上高い

■ 対象者全体と比較し 10%以上低い

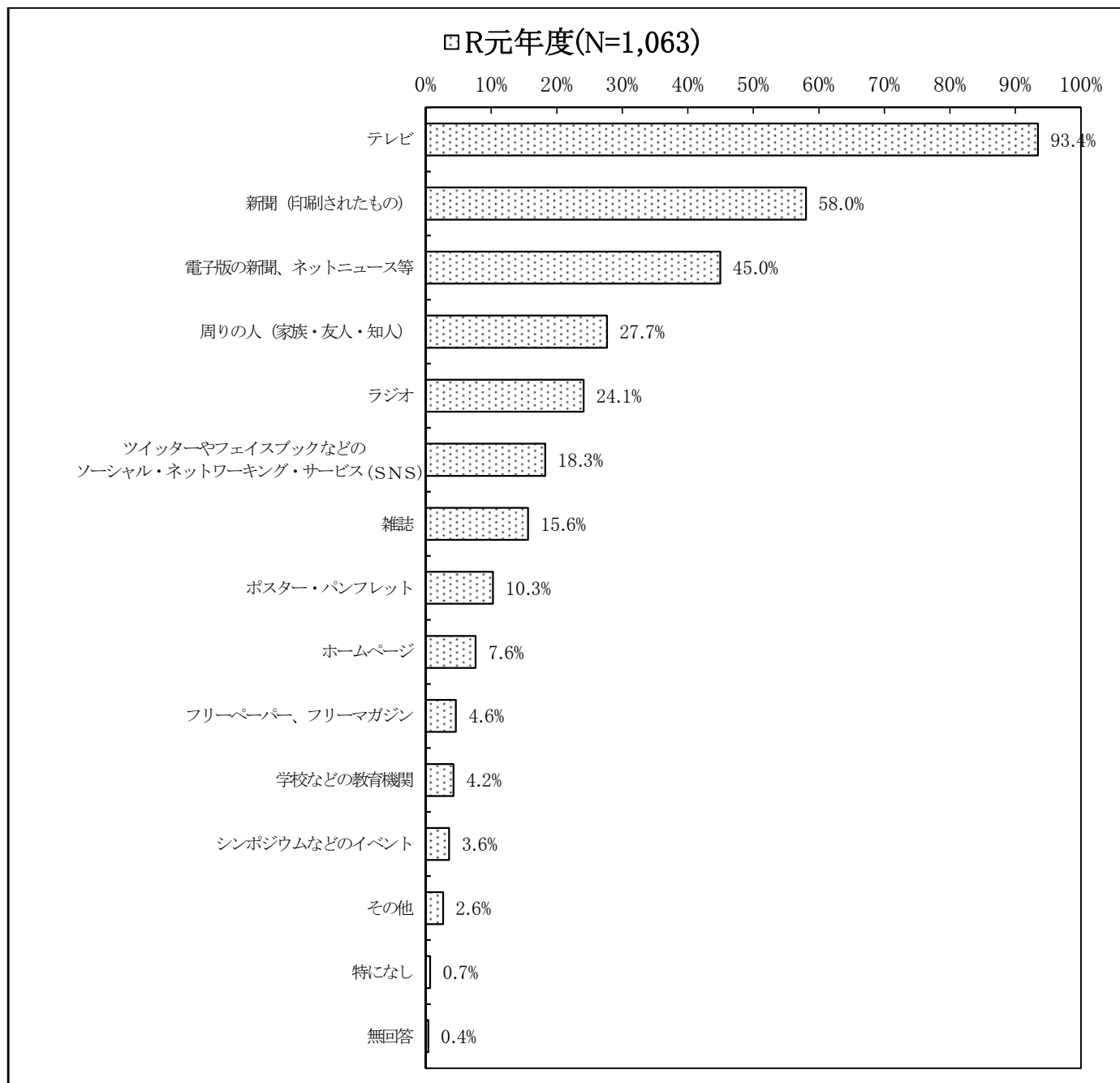
単位 % (サンプル数を除く)

## ■地球温暖化や気候変動に関する知識や情報の入手先

【問5】 地球温暖化や気候変動に関する知識や情報<sup>\*</sup>をどこから得ていますか。  
あてはまるものすべてに○をつけてください。

※地球温暖化対策に関する国内外の動向、地球温暖化による気候変動の影響、  
温室効果ガスの削減方法、気候変動の影響への適応対策など

【全体】「テレビ（93.4%）」、「新聞（印刷されたもの）（58.0%）」、「電子版の新聞、ネットニュース等（45.0%）」から知識や情報を得ている人が多い。



【性別】「周りの人（家族・友人・知人）」は男性が19.0%、女性が34.5%であり、女性のほうが15.5ポイント高くなっている。

【年代別】他の年代と比べて、18～39歳はソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）から、40～59歳はネットニュース等から、60歳以上は新聞（印刷されたもの）から情報を得ている人が多い。

	サンプル数	テレビ	新聞（印刷されたもの）	電子版の新聞、ネットニュース等	周りの人（家族・友人・知人）	ラジオ	ツイッターやフェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	雑誌	ポスター・パンフレット	ホームページ	フリーペーパー、フリーマガジン	学校などの教育機関	シンポジウムなどのイベント	その他	特になし	無回答
全体	1,063	93.4	58.0	45.0	27.7	24.1	18.3	15.6	10.3	7.6	4.6	4.2	3.6	2.6	0.7	0.4
《性別》																
男性	457	90.8	62.8	49.7	19.0	27.6	17.3	17.3	10.5	10.7	3.3	4.6	5.0	3.1	1.1	0.2
女性	585	95.4	53.3	42.1	34.5	20.9	19.3	14.0	9.7	5.1	5.6	4.1	2.6	2.2	0.3	0.5
《年代別》																
18～29歳	105	90.5	23.8	41.9	32.4	15.2	51.4	2.9	6.7	3.8	1.9	17.1	1.9	1.9	0.0	0.0
30～39歳	130	90.8	26.9	51.5	26.2	14.6	33.1	5.4	9.2	6.9	6.2	5.4	3.1	1.5	2.3	0.0
40～49歳	172	92.4	40.1	58.1	26.7	17.4	21.5	11.0	8.7	9.9	5.8	5.2	1.2	1.2	1.2	0.0
50～59歳	178	89.9	58.4	60.7	20.8	21.9	12.4	15.7	7.3	10.7	5.1	3.4	5.1	3.9	1.1	0.6
60～69歳	244	95.9	75.0	43.4	27.0	29.5	8.6	23.8	9.0	8.2	4.9	1.6	3.3	1.6	0.0	0.4
70歳以上	214	97.2	85.5	22.9	33.6	34.1	7.0	21.5	17.3	5.1	3.3	0.5	6.1	5.1	0.0	0.9

対象者全体と比較し 10%以上高い

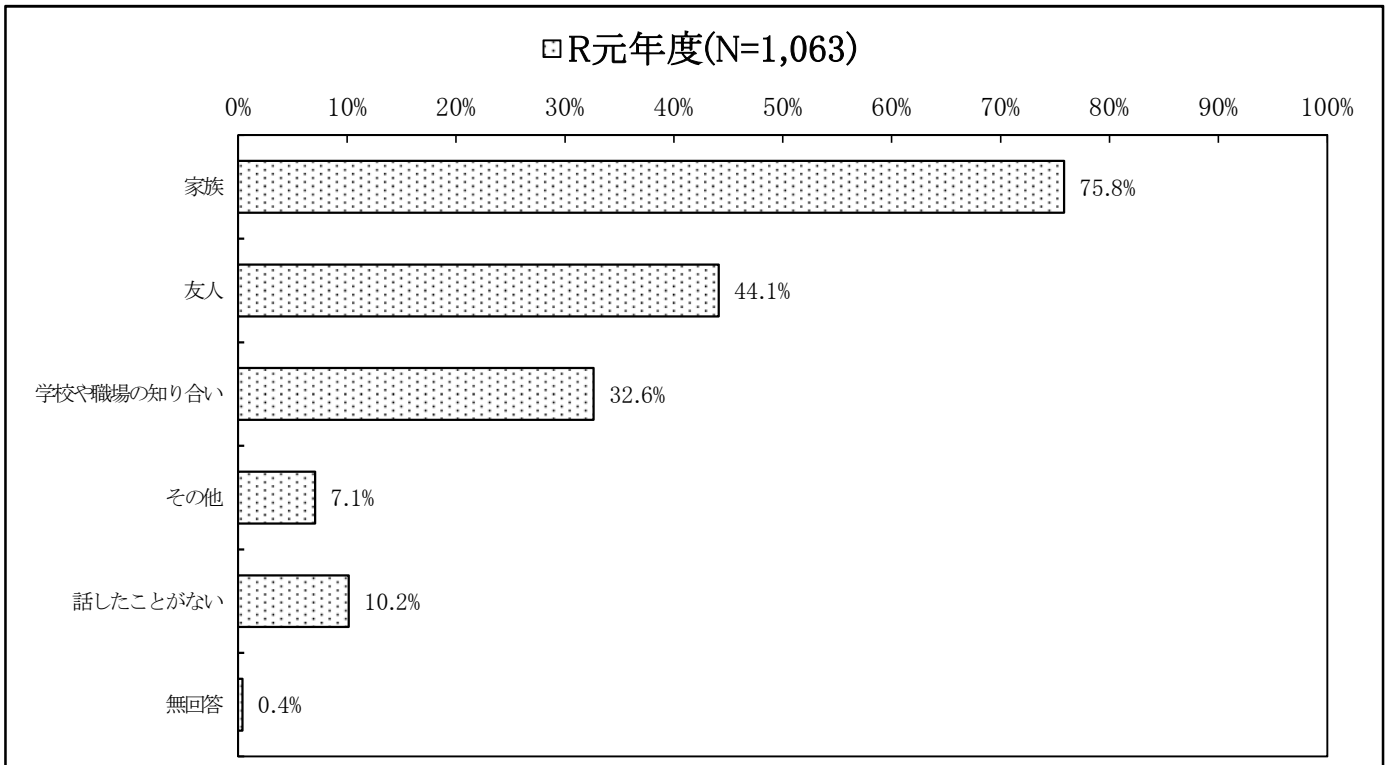
対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 %（サンプル数を除く）

【問6】 地球温暖化や気候変動に関する知識や情報<sup>\*</sup>について、周囲のどのような人と話をしますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

※地球温暖化対策に関する国内外の動向、地球温暖化による気候変動の影響、温室効果ガスの削減方法、気候変動の影響への適応対策など



【全体】地球温暖化や気候変動について、家族と話をする人が最も多い。



【性別】男女では大きな差は見られない。

【年代別】60歳以上は友人と話す人が多く、40～59歳は学校や職場の知り合いと話す人が多い。30～49歳は友人と話す人が少なく、18～29歳は家族と話す人が少ない。

	サンプル数	家族	友人	学校や職場の知り合い	その他	話したことがない	無回答
全体	1,063	75.8	44.1	32.6	7.1	10.2	0.4
《性別》							
男性	457	71.6	41.4	33.9	7.2	13.6	0.2
女性	585	78.6	46.2	32.1	6.7	7.5	0.5
《年代別》							
18～29歳	105	58.1	35.2	32.4	4.8	20.0	0.0
30～39歳	130	73.1	27.7	38.5	3.8	17.7	0.0
40～49歳	172	76.2	32.0	44.8	4.1	9.9	0.0
50～59歳	178	71.9	39.3	48.3	5.1	11.2	0.6
60～69歳	244	77.9	54.5	29.9	8.6	6.6	0.4
70歳以上	214	85.5	60.3	10.7	12.1	4.2	0.9

 対象者全体と比較し 10%以上高い  
 対象者全体と比較し 10%以上低い

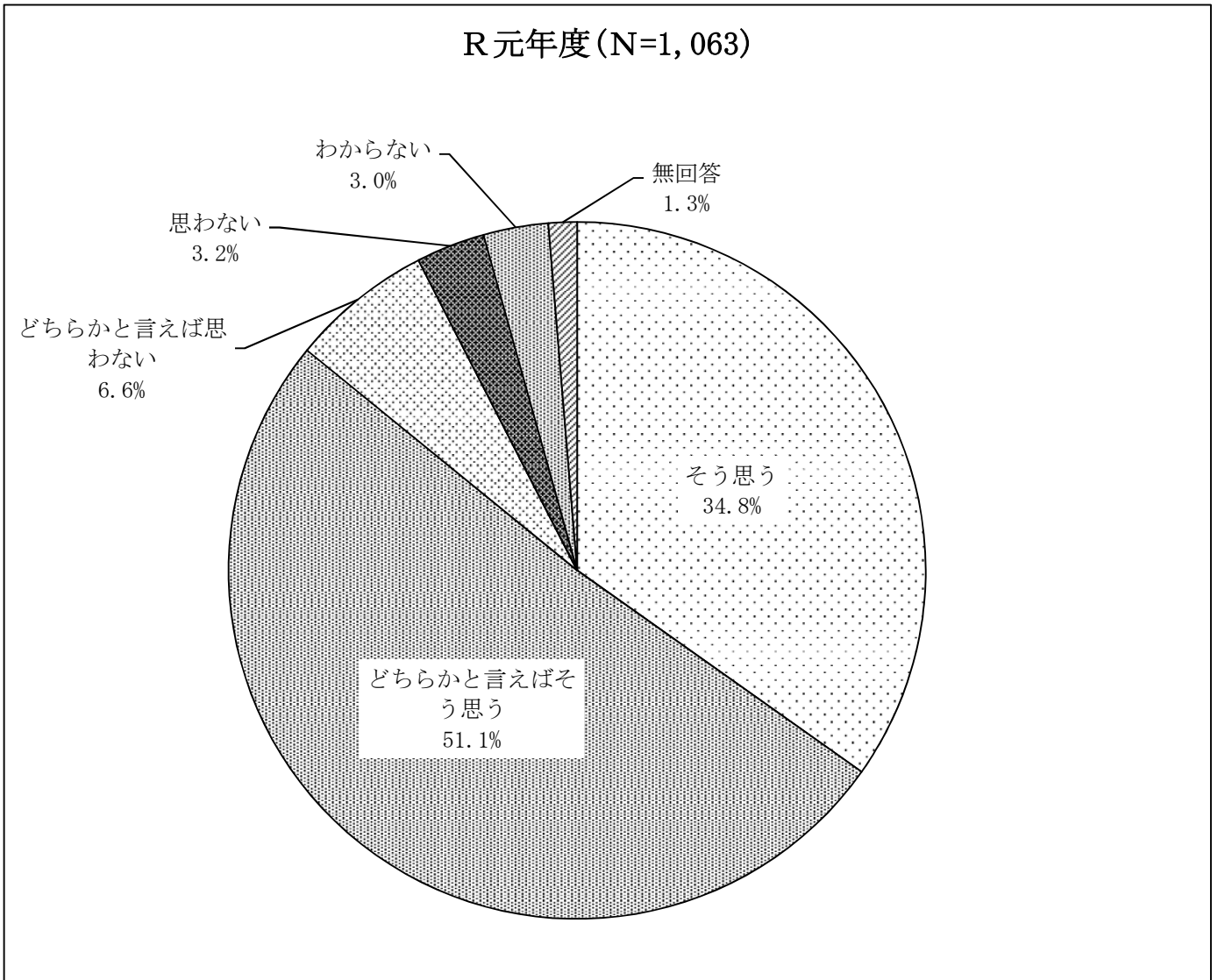
単位 % (サンプル数を除く)

## (2) 家庭における温暖化対策の認識と実施状況

### ■生活習慣の転換に関する認識

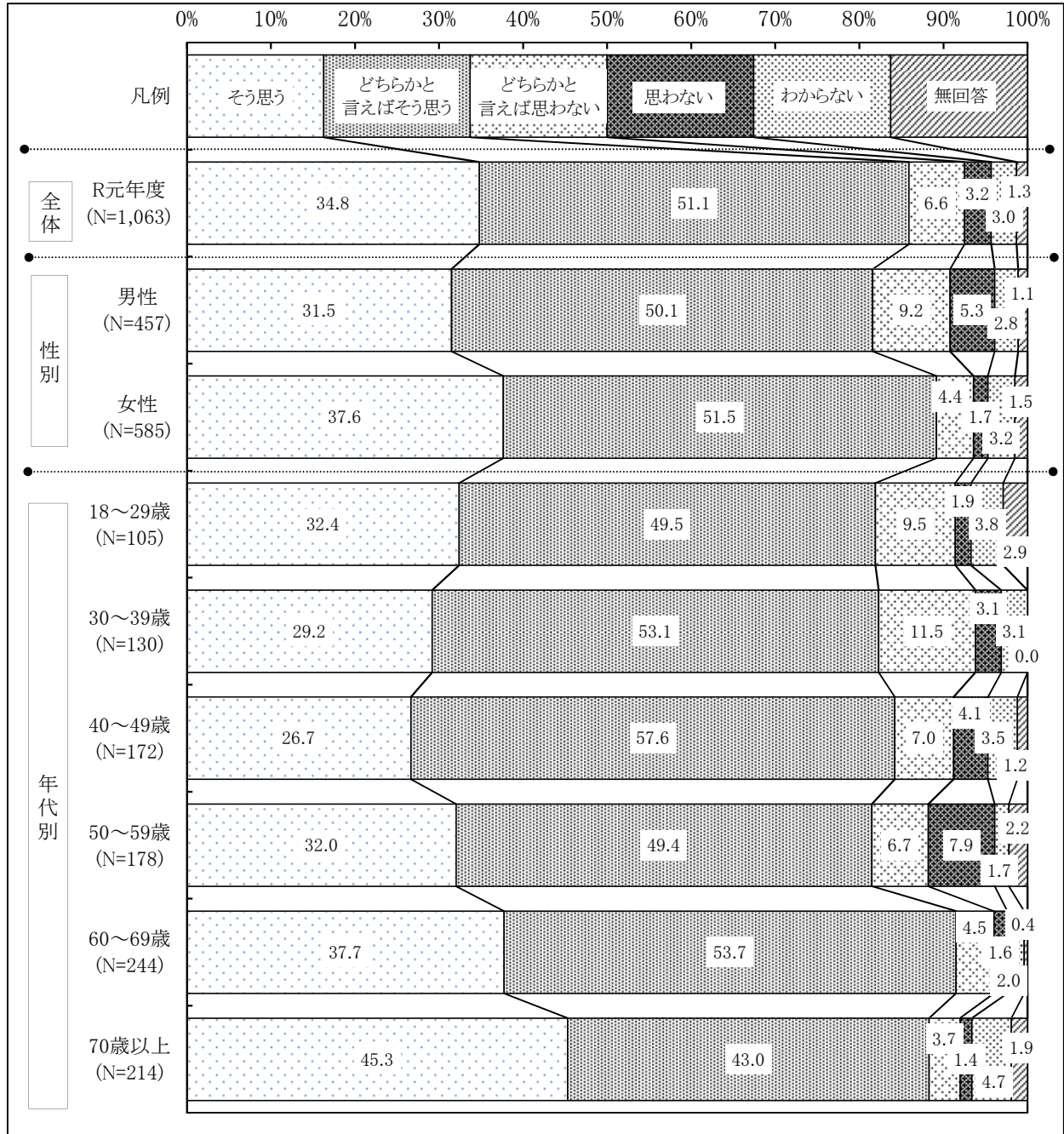
【問7】 地球温暖化や気候変動の進行を食い止めるために、自身の暮らしや習慣を変えていかなければならないと思いますか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせて、85.9%の人が温暖化や気候変動の進行を食い止めるために、自身の暮らしや習慣を変えていかなければならないと思っている。



【性別】男女では大きな差はみられない。

【年代別】「そう思う」は40～49歳が26.7%と最も低く、70歳以上が45.3%と最も高くなっている。



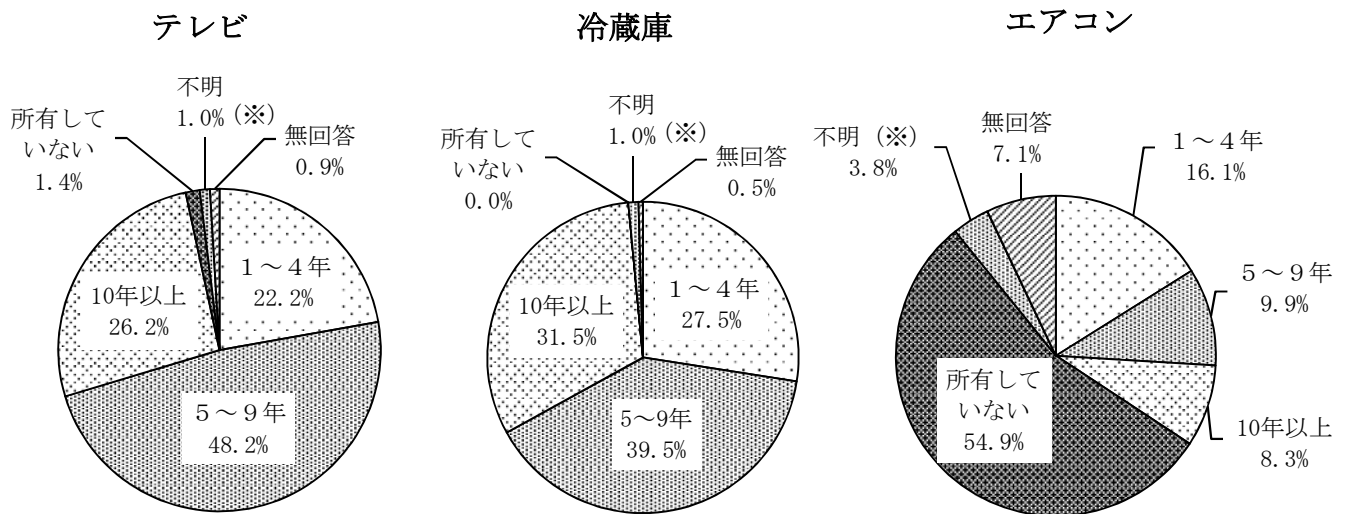


## ■家電製品の使用年数

【問8】 ご家庭にある家電製品は、何年くらい使用していますか。  
最も使用している「テレビ」「冷蔵庫」「エアコン」について、それぞれあてはまるものに  
1つだけ○をつけてください。

【全体】 テレビと冷蔵庫の約3割が10年以上使用されている。54.9%の人がエアコンを所有していない。

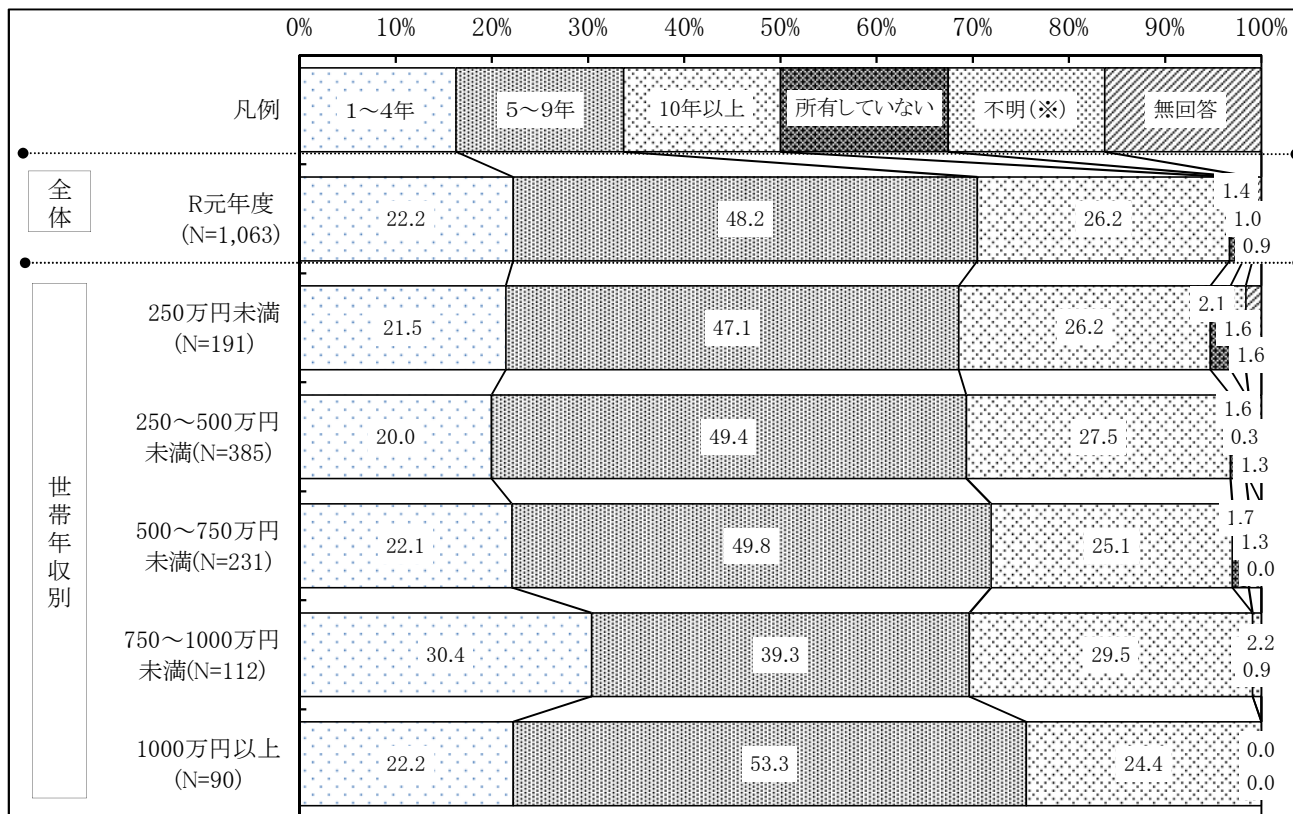
R元年度(N=1,063)



※最初からついていたなど

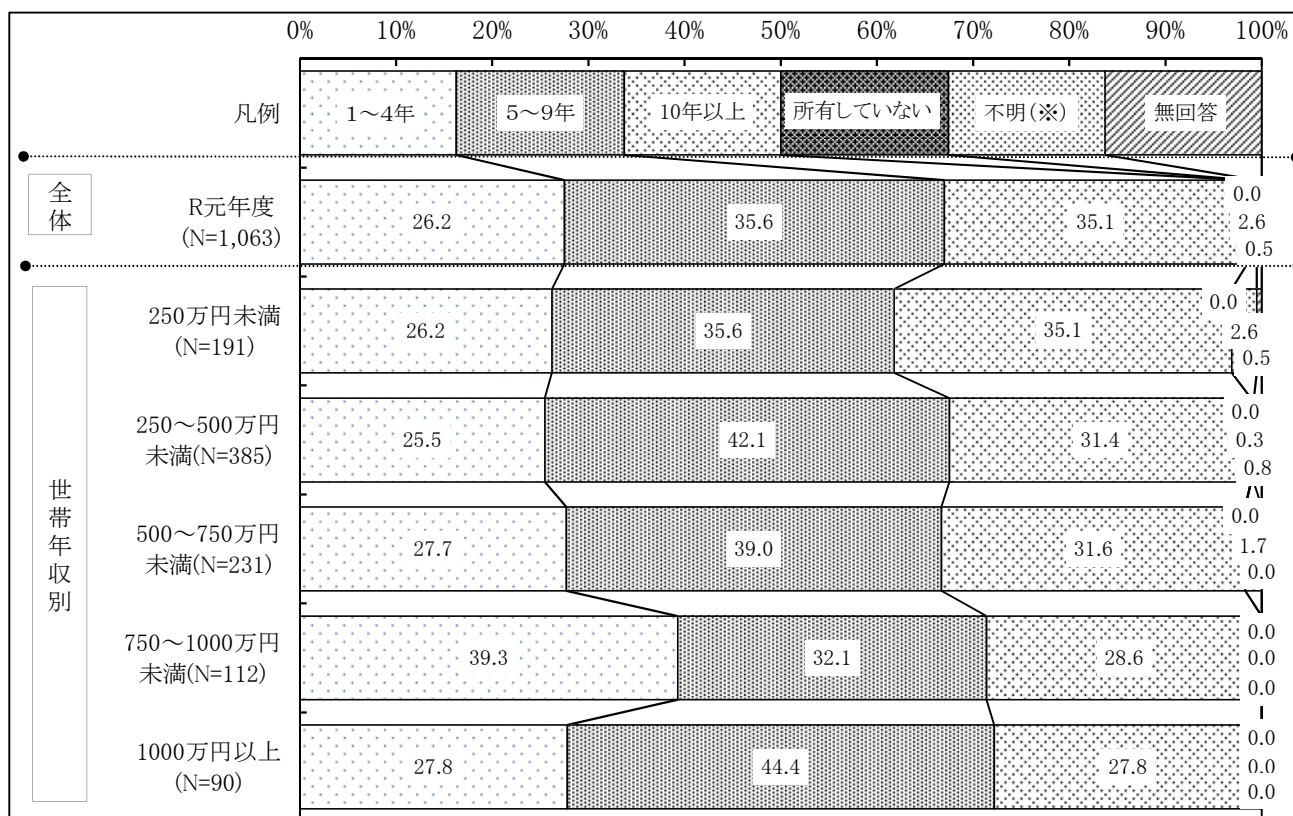
【世帯年収別】テレビと冷蔵庫については大きな差は見られない。エアコンについては世帯年収が高いほど所有率が高くなっている。

### テレビ



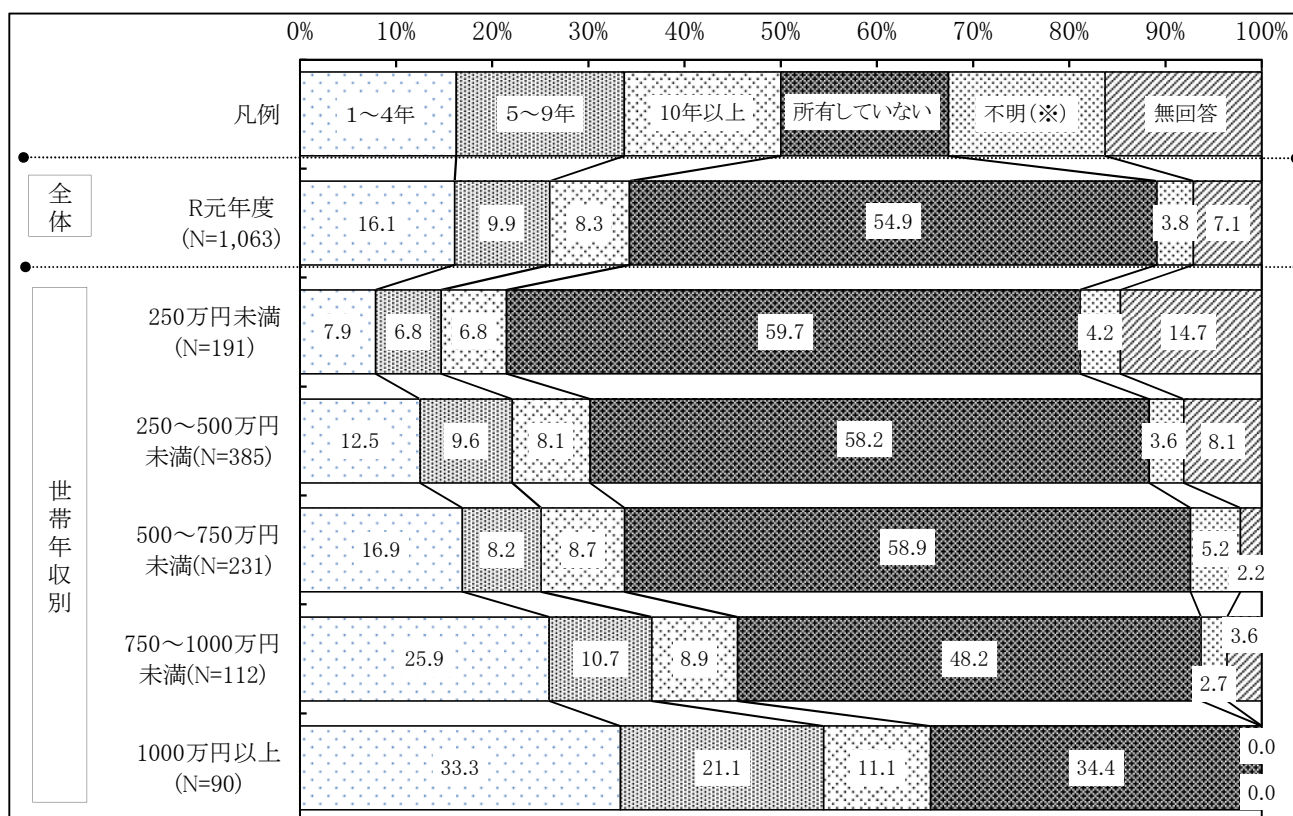
※最初からついていたなど

## 冷蔵庫



※最初からついていたなど

## エアコン



※最初からついていたなど

## ■家電製品の今後の購入時期

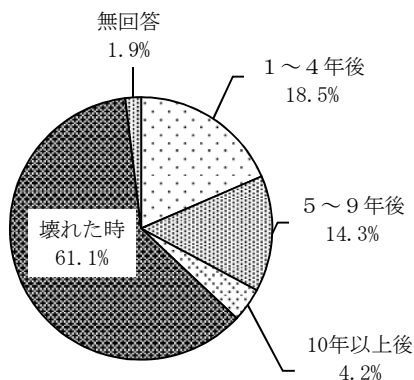
《問8で「1～4年」、「5～9年」または「10年以上」と回答した方にお聞きします》

- 【問9】 ご家庭にある家電製品は、いつ頃買い替えを予定していますか。  
最も使用している「テレビ」「冷蔵庫」「エアコン」について、それぞれあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

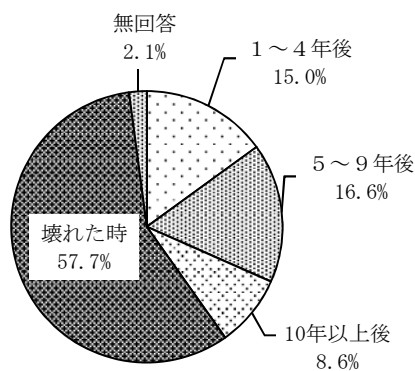
【全体】 テレビ、冷蔵庫、エアコンすべてにおいて、約60%の人が「壊れた時」に買い替えたいと思っている。

家電製品の買い替え時期  
R元年度

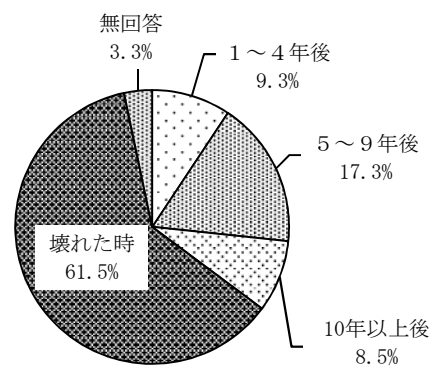
テレビ(N=1,027)



冷蔵庫(N=1,047)



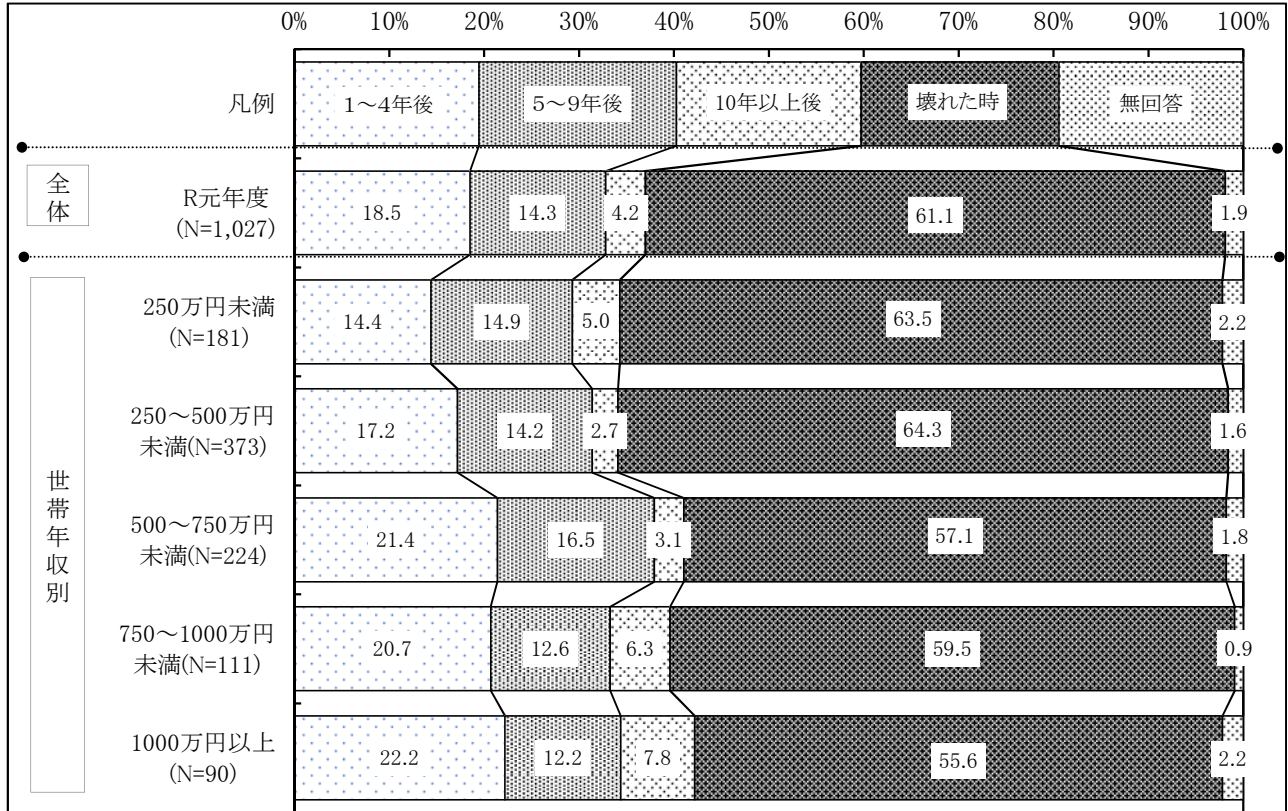
エアコン(N=364)





【世帯年収別】世帯年収に関わらず、「壊れた時」に買い替えたいと思っている。

テレビ

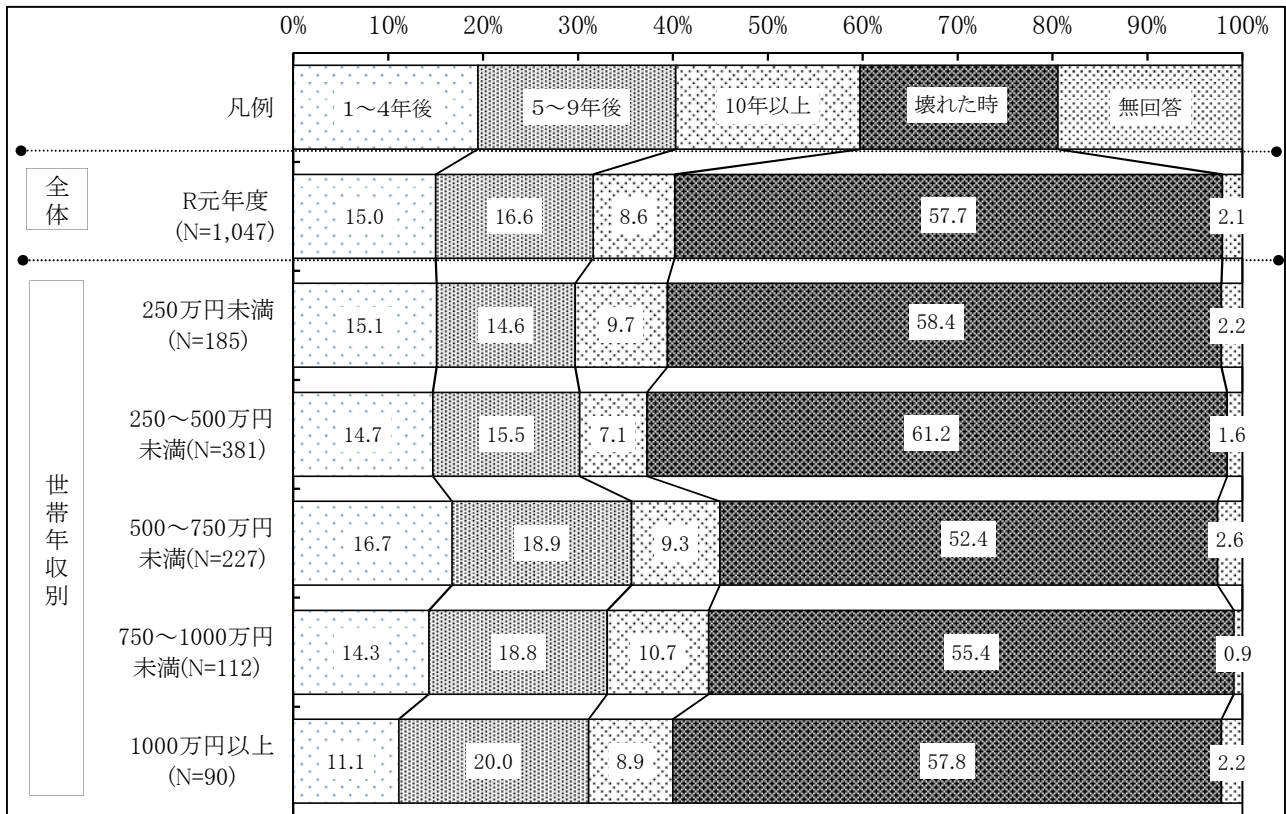


	回答者数	問9 買い替え予定 【ア 最も使用しているテレビ】					計	
		1~4年後	5~9年後	10年以上後	壊れた時	無回答		
全体	1,027	18.5	14.3	4.2	61.1	1.9	100.0	
【ア 最も使用しているテレビ】 問8 所有年数	1~4年	236	8.5	20.3	8.1	59.7	3.4	100.0
	5~9年	512	20.3	15.6	3.5	58.4	2.1	100.0
	10年以上	279	23.7	6.8	2.2	67.0	0.4	100.0
	所有していない	-	-	-	-	-	-	-
	不明	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-

対象者全体と比較し 10%以上高い  
 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

# 冷蔵庫

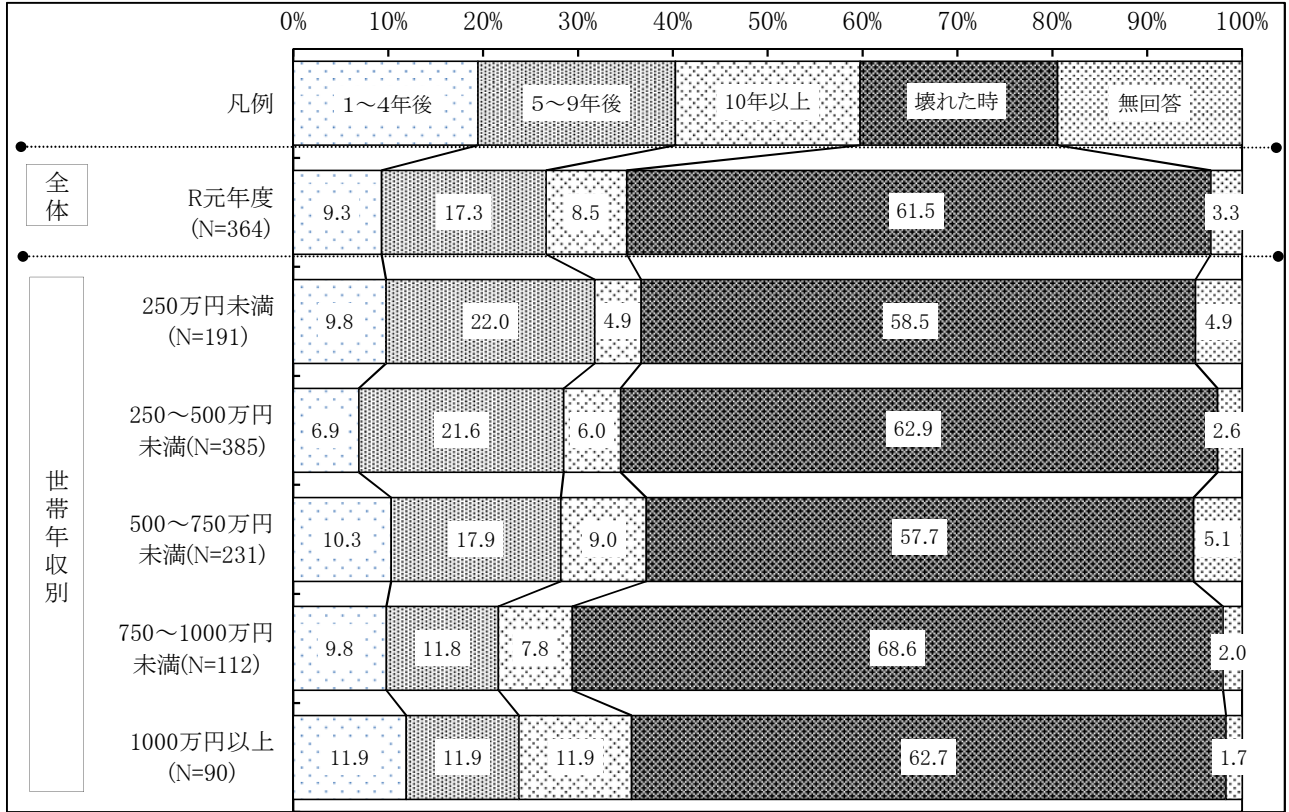


	回答者数	問9 買い替え予定【イ 最も使用している冷蔵庫】					計	
		1~4年後	5~9年後	10年以上後	壊れた時	無回答		
全体	1,047	15.0	16.6	8.6	57.7	2.1	100.0	
て「問 いイ8 る最 蔵所 庫も 【使 用年 数し	1~4年	292	4.1	17.8	18.2	56.2	3.8	100.0
	5~9年	420	15.7	22.1	5.5	54.5	2.1	100.0
	10年以上	335	23.6	8.7	4.2	63.0	0.6	100.0
	所有していない	-	-	-	-	-	-	-
	不明	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	

対象者全体と比較し 10%以上高い  
 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

# エアコン



	回答者数	問9 買い替え予定 【ウ 最も使用しているエアコン】					計	
		1~4年後	5~9年後	10年以上	壊れた時	無回答		
全体	1,027	18.5	14.3	4.2	61.1	1.9	100.0	
【問8】 最も使用しているエアコンの有無	1~4年	236	8.5	20.3	8.1	59.7	3.4	100.0
	5~9年	512	20.3	15.6	3.5	58.4	2.1	100.0
	10年以上	279	23.7	6.8	2.2	67.0	0.4	100.0
	所有していない	-	-	-	-	-	-	-
	不明	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-

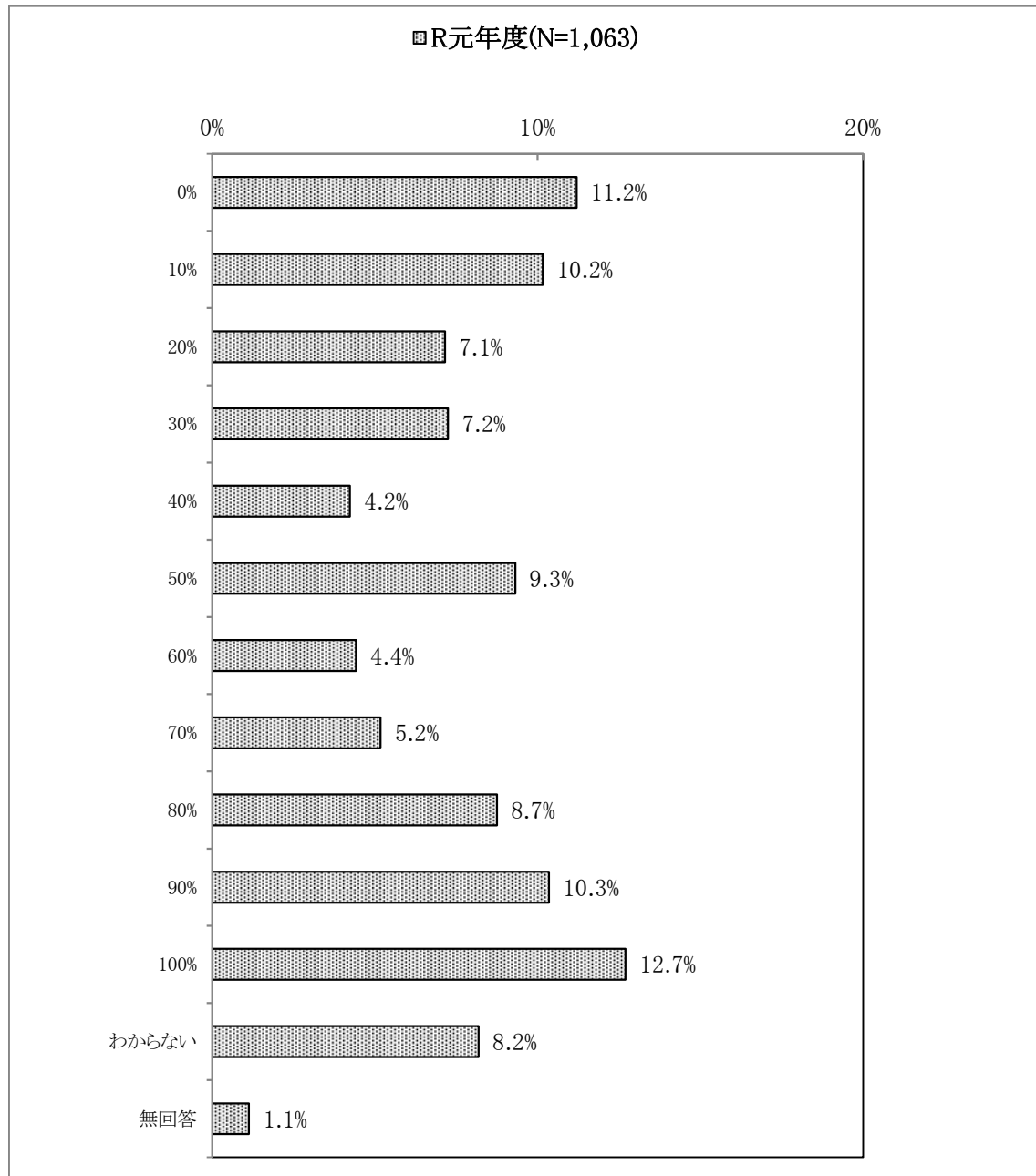
対象者全体と比較し 10%以上高い  
 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

## ■LED照明の導入状況

【問10】 ご家庭の居室や台所、トイレ、お風呂場などの照明は、どの程度LED化されていますか。最も近いものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 家庭におけるLED照明の導入状況は、「100%」が12.7%、「0%」が11.2%となっている。





【住居形態別】「100%」は戸建（持家）が15.4%と最も高く、集合（賃貸）が8.3%と最も低い。

【建築時期別】「100%」は2016年以降が52.3%と最も高い。

	サンプル数	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	わからない	無回答
全体	1,063	11.2	10.2	7.1	7.2	4.2	9.3	4.4	5.2	8.7	10.3	12.7	8.2	1.1
《住居形態》														
戸建(持家)	447	9.2	9.6	5.8	10.1	4.3	10.3	4.9	5.8	9.6	10.7	15.4	2.9	1.3
戸建(賃貸)	42	4.8	14.3	9.5	2.4	2.4	4.8	2.4	9.5	9.5	4.8	14.3	19.0	2.4
集合(持家)	232	8.6	10.3	7.8	6.9	5.6	10.3	5.6	4.7	11.2	12.5	12.9	2.2	1.3
集合(賃貸)	313	17.9	9.9	8.3	4.2	3.2	7.7	3.5	3.5	6.1	9.3	8.3	17.9	0.3
《建築時期》														
1970(昭和 45)年以前	25	12.0	16.0	12.0	4.0	4.0	0.0	4.0	4.0	12.0	20.0	12.0	0.0	0.0
1971～1980 (昭和 46～55)年	120	9.2	6.7	10.0	11.7	3.3	10.8	7.5	6.7	7.5	15.0	5.8	5.0	0.8
1981～1990 (昭和 56～平成2)年	235	12.3	14.5	8.1	9.8	3.0	8.5	3.4	3.8	6.8	10.2	12.8	5.1	1.7
1991～1995 (平成3～7)年	127	9.4	10.2	6.3	9.4	5.5	16.5	8.7	4.7	7.9	7.1	9.4	3.9	0.8
1996～2000 (平成8～12)年	96	8.3	7.3	7.3	5.2	8.3	8.3	6.3	7.3	11.5	13.5	12.5	1.0	3.1
2001～2005 (平成 13～17)年	101	14.9	8.9	5.0	6.9	5.0	11.9	3.0	9.9	7.9	10.9	6.9	8.9	0.0
2006～2010 (平成 18～22)年	84	17.9	11.9	3.6	9.5	6.0	4.8	3.6	2.4	14.3	9.5	3.6	11.9	1.2
2011～2015 (平成 23～27)年	92	9.8	6.5	9.8	4.3	2.2	4.3	3.3	4.3	14.1	12.0	18.5	10.9	0.0
2016(平成 28)年以降	65	4.6	1.5	3.1	0.0	1.5	4.6	0.0	1.5	6.2	9.2	52.3	13.8	1.5

対象者全体と比較し 10%以上高い

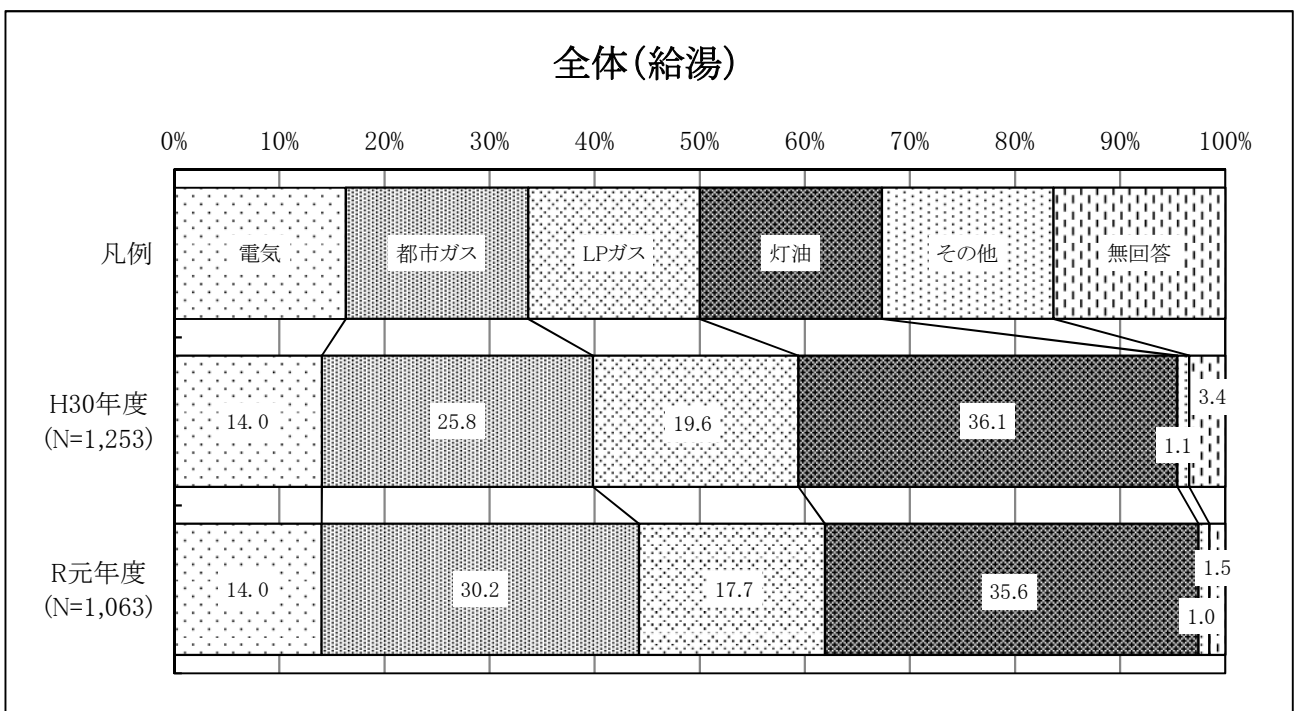
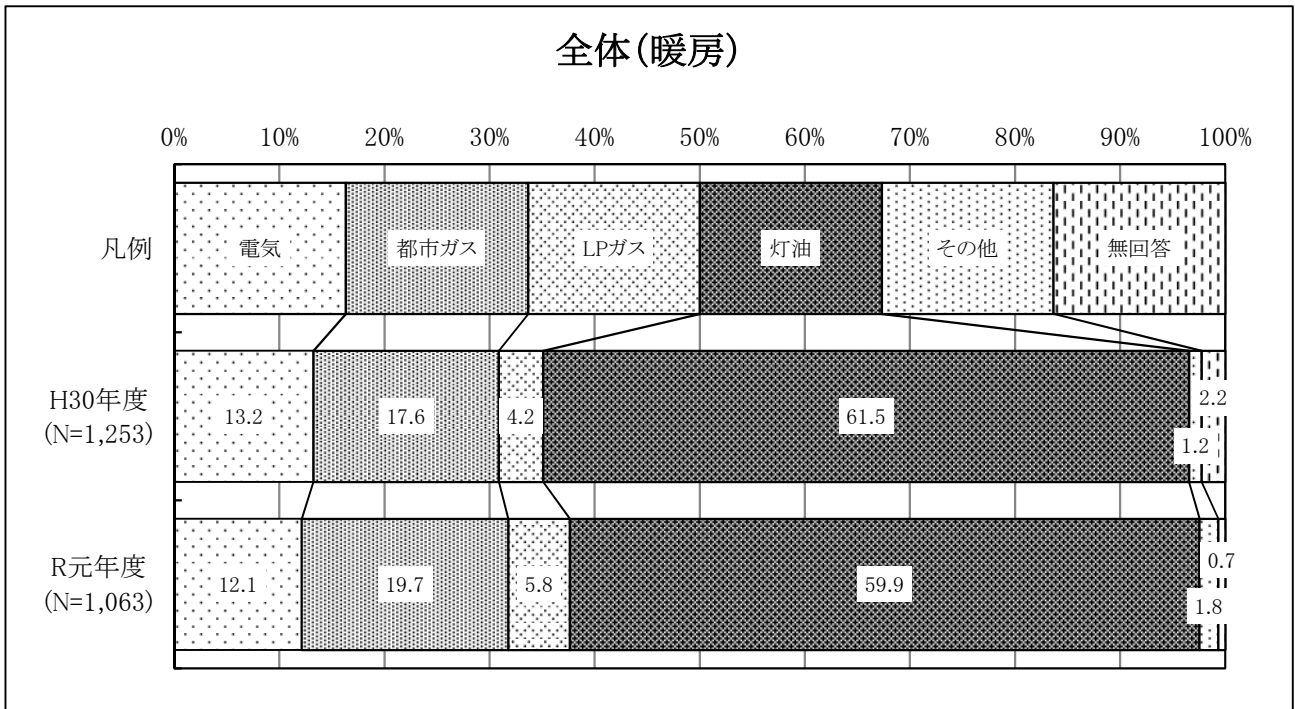
対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

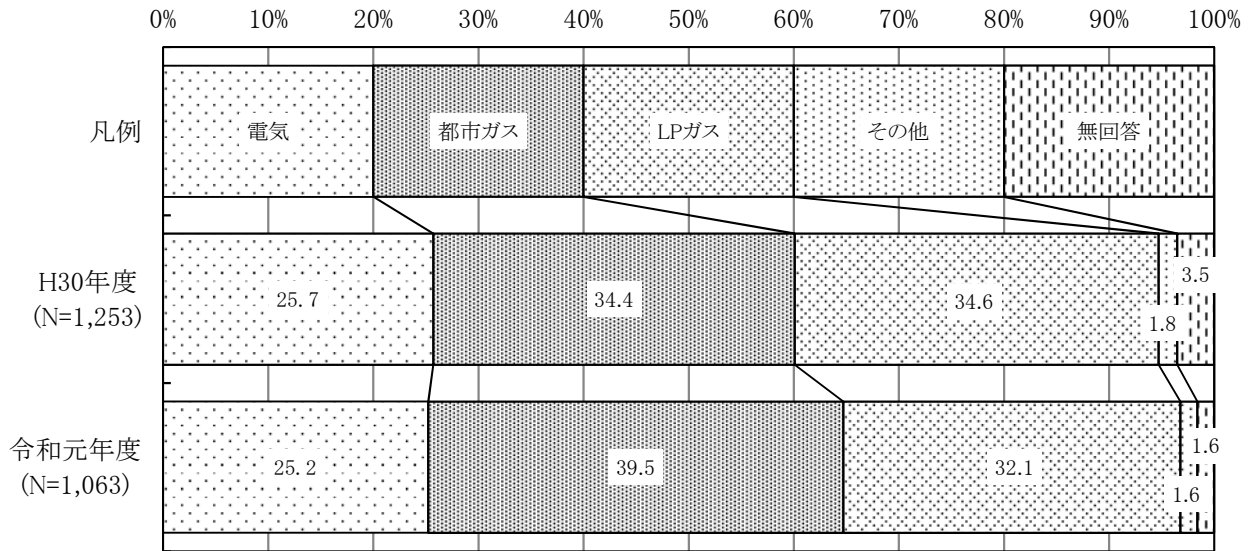
## ■家庭で使用しているエネルギー・燃料

【問11】 あなたのご家庭では、用途ごとにどのようなエネルギー・燃料を最も多く使っていますか。各用途について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 家庭で多く使用しているエネルギー・燃料は、暖房が「灯油」(59.9%)、給湯が「灯油」(35.6%)である。調理用コンロは、「都市ガス」(39.5%)と「LPガス」(32.1%)がほぼ同じくらいの割合で使用されている。

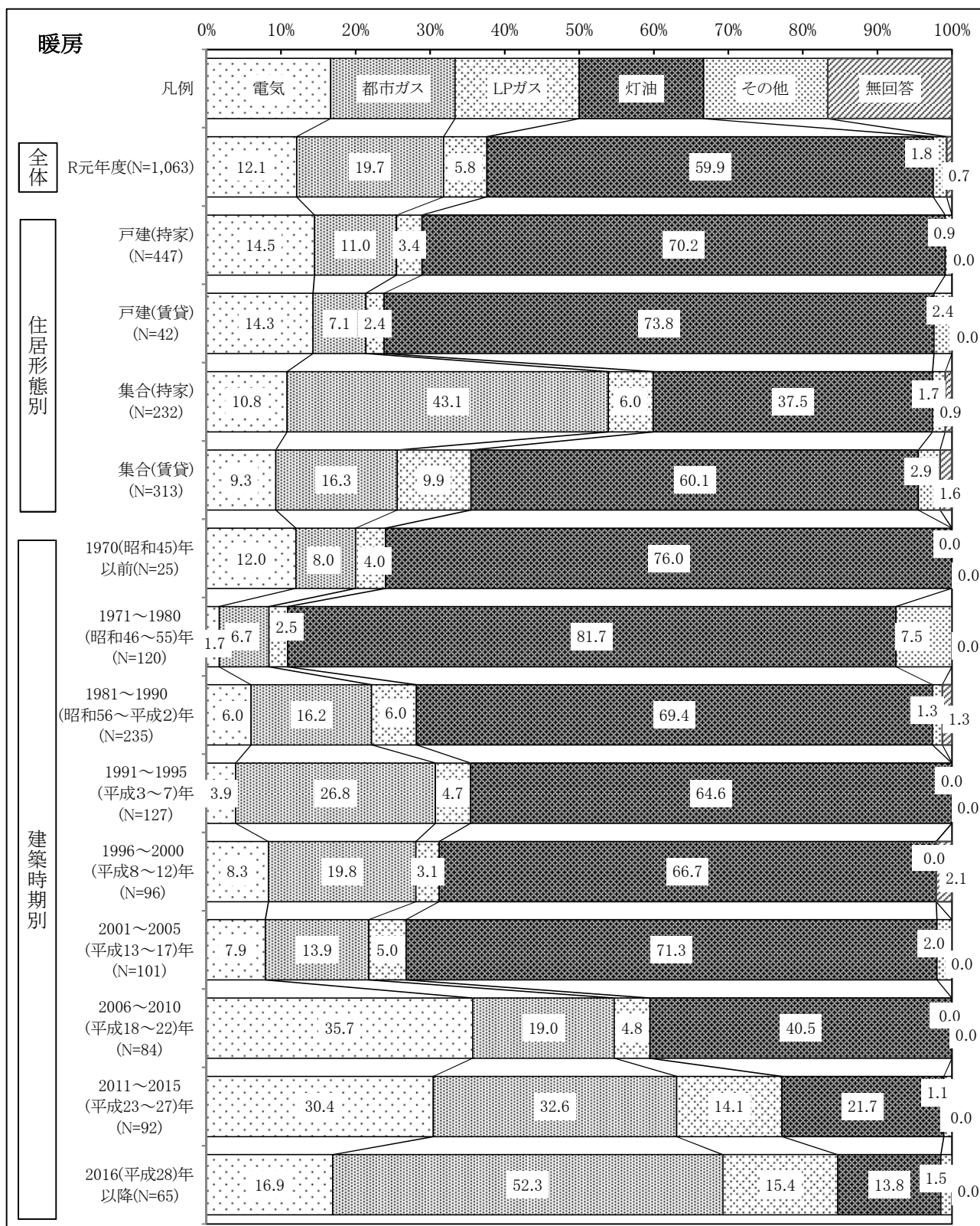


# 全体(調理用コンロ)



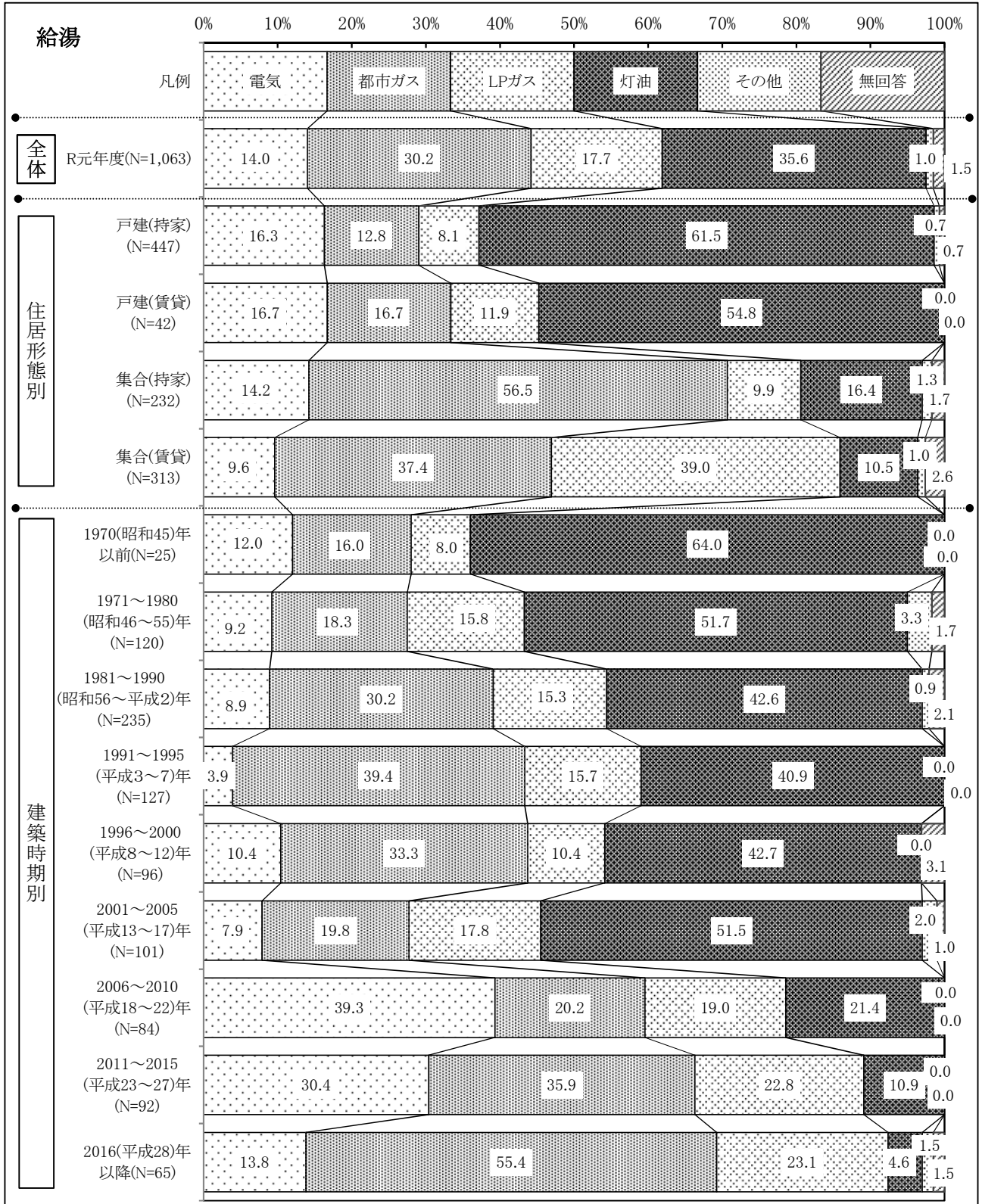
【住居形態別（暖房）】集合（持家）は「都市ガス」が最も多く使用されており、他の形態は「灯油」が最も多く使用されている。

【建築時期別（暖房）】2010年以前は「灯油」、2011年以降は「都市ガス」が最も多く使用されている。



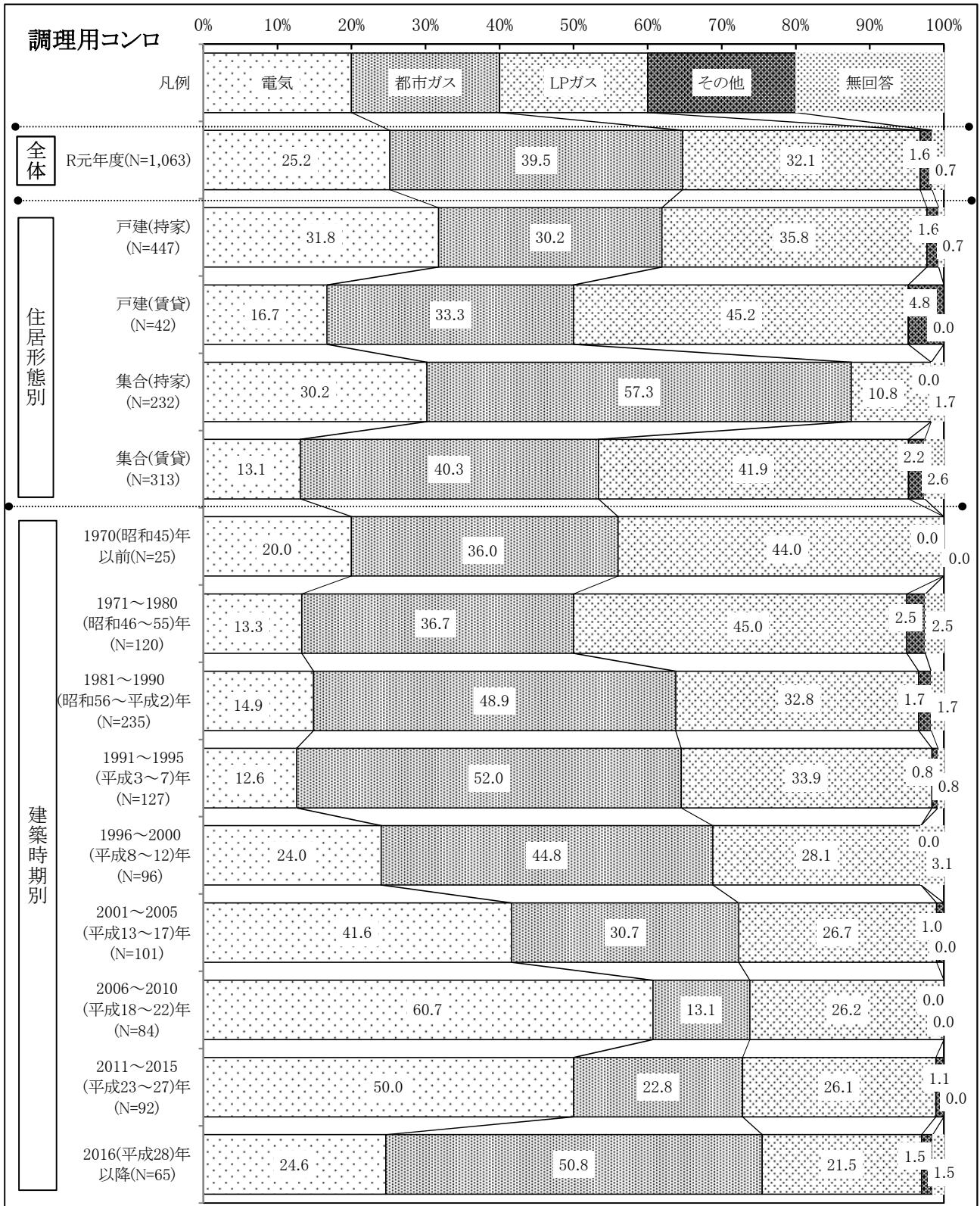
【住居形態別（給湯）】戸建（持家）と戸建（賃貸）は「灯油」、集合（持家）は「都市ガス」、集合（賃貸）は「LPガス」が最も多く使用されている。

【建築時期別（給湯）】2005年以前は「灯油」、2006～2010年は「電気」、2011年以降は「都市ガス」が最も多く使用されている。



【住居形態別（調理用コンロ）】戸建（持家）と戸建（賃貸）、集合（賃貸）は「LPガス」、集合（持家）は「都市ガス」が最も多く使用されている。

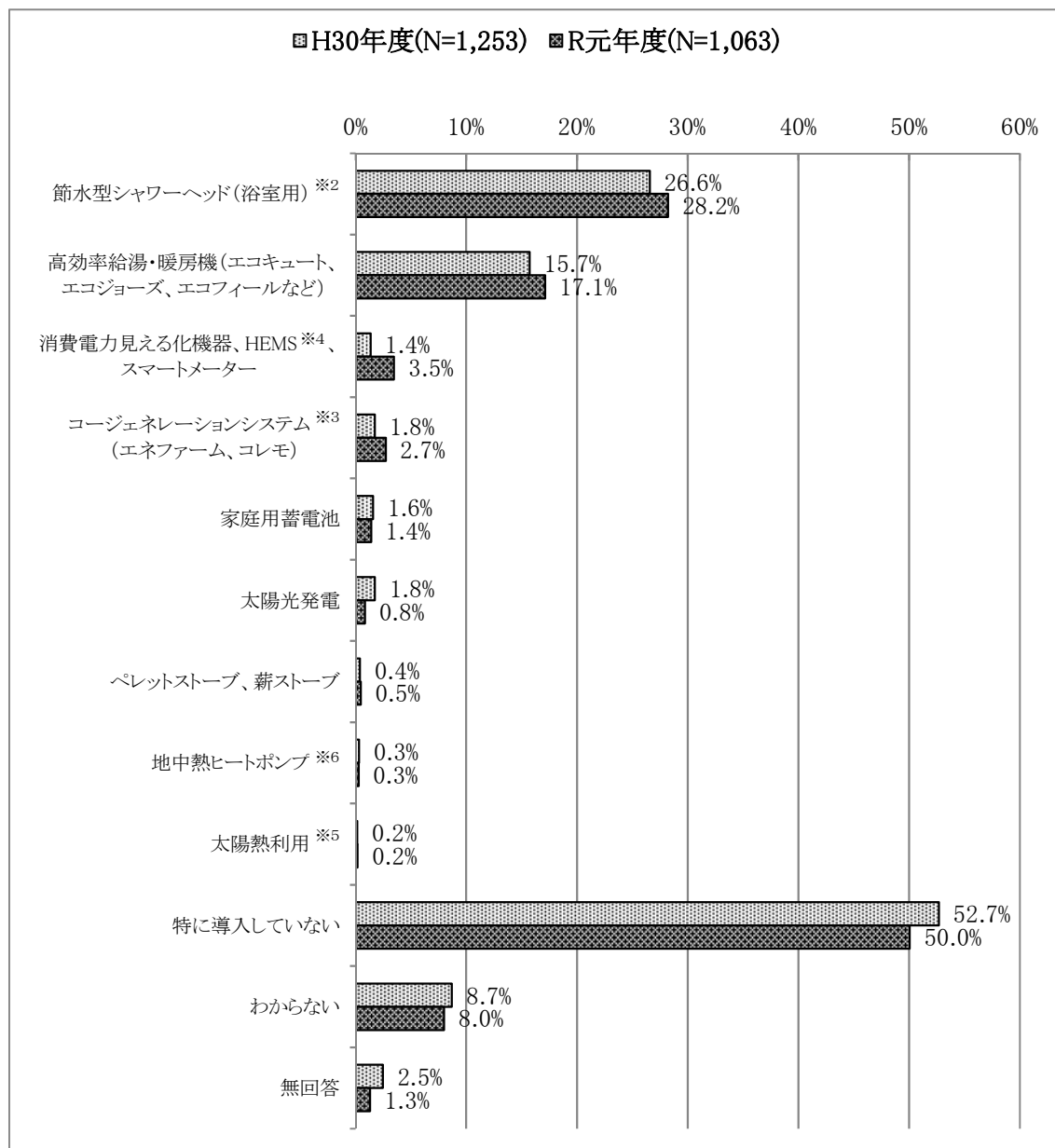
【建築時期別（調理用コンロ）】1980年以前は「LPガス」、1981～2000年は「都市ガス」、2001～2015年は「電気」、2016年以降は「都市ガス」が最も多く使用されている。



## ■省エネ・再エネ機器の導入状況

【問12】 あなたのお住まいでは、どのような省エネルギー機器や再生可能エネルギー機器※<sup>1</sup>を導入していますか。  
あてはまるものすべてに○をつけてください。

【全体】 「特に導入していない」が50.0%で最も高く、ついで「節水型シャワーヘッド（浴室用）」（28.2%）、「高効率給湯・暖房機（エコキュート、エコジョーズ、エコフィールなど）」（17.1%）の順となっている。



- ※<sup>1</sup> 再生可能エネルギー機器：太陽光や風力など、永続的に利用できるエネルギーを活用した機器の総称。
- ※<sup>2</sup> 節水型シャワーヘッド：シャワーヘッドの穴を従来よりも小さくする等により、少量の水でも勢いの強い水を出せるもの。
- ※<sup>3</sup> コージェネレーション：都市ガス・LPガスを燃料として、電気と給湯・暖房用の熱を一緒に作るシステム。
- ※<sup>4</sup> HEMS：Home Energy Management Systemの略。家庭で使うエネルギーを節約するための管理システム。
- ※<sup>5</sup> 太陽熱利用：太陽熱集熱器で太陽の熱エネルギーを集め、水や空気を暖めて給湯・暖房に使用するシステム。
- ※<sup>6</sup> 地中熱ヒートポンプ：地中の冷温熱を利用した給湯・暖房システム



【住居形態別】 持家の方が賃貸よりも、省エネ・再エネ機器の導入が多い傾向にある。

【建築時期別】 建築時期が新しくなるにつれて、省エネ・再エネ機器の導入が多い傾向にある。

【世帯年収別】 世帯年収が高くなるにつれて、省エネ・再エネ機器の導入が多い傾向にある。

	サンプル数	節水型シャワーヘッド(浴室用)	高効率給湯・暖房機 (エコキュート、エコジョーズ、エコフィールなど)	消費電力見える化機器、HEMS、 スマートメーター	コージェネレーションシステム (エネファーム、コレモ)	家庭用蓄電池	太陽光発電	ペレットストーブ、薪ストーブ	地中熱ヒートポンプ	太陽熱利用	特に導入していない	わからない	無回答
全体	1,063	28.2	17.1	3.5	2.7	1.4	0.8	0.5	0.3	0.2	50.0	8.0	1.3
《住居形態》													
戸建(持家)	447	31.8	22.1	3.1	3.1	1.1	1.3	0.9	0.2	0.2	48.3	3.1	0.9
戸建(賃貸)	42	26.2	4.8	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	50.0	14.3	4.8
集合(持家)	232	35.8	25.0	5.2	3.9	2.2	0.9	0.4	0.4	0.4	40.1	6.9	1.7
集合(賃貸)	313	18.8	5.8	1.3	1.9	1.3	-	-	-	-	59.7	14.4	1.0
《建築時期》													
1970(昭和 45)年以前	25	24.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0
1971～1980 (昭和 46～55)年	120	29.2	7.5	2.5	1.7	1.7	0.0	0.8	0.0	0.0	59.2	3.3	1.7
1981～1990 (昭和 56～平成2)年	235	31.1	9.8	4.3	1.7	0.9	0.0	0.9	0.0	0.4	54.9	4.7	1.7
1991～1995 (平成3～7)年	127	30.7	17.3	1.6	1.6	2.4	0.8	0.0	0.0	0.0	53.5	3.1	1.6
1996～2000 (平成8～12)年	96	31.3	15.6	4.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	46.9	6.3	3.1
2001～2005 (平成 13～17)年	101	28.7	12.9	1.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	52.5	6.9	2.0
2006～2010 (平成 18～22)年	84	25.0	20.2	1.2	2.4	-	2.4	1.2	-	-	48.8	9.5	-
2011～2015 (平成 23～27)年	92	31.5	43.5	6.5	6.5	2.2	4.3	0.0	2.2	0.0	34.8	8.7	0.0
2016(平成 28)年以降	65	24.6	46.2	9.2	13.8	3.1	1.5	0.0	0.0	1.5	27.7	13.8	0.0
《世帯年収》													
250万円未満	191	21.3	8.6	0.8	0.8	1.2	0.0	0.4	0.0	0.0	59.4	11.9	4.1
250～500万円未満	385	25.8	11.5	1.1	2.0	1.1	1.1	0.9	0.7	0.2	57.7	7.0	1.5
500～750万円未満	231	26.6	20.3	1.1	1.1	1.8	4.1	0.0	0.4	0.4	51.3	8.1	1.8
750～1000万円未満	112	35.2	31.7	2.8	4.2	3.5	2.1	0.0	0.0	0.0	35.2	7.7	0.0
1000万円以上	90	34.1	24.2	2.2	2.2	2.2	3.3	0.0	0.0	0.0	42.9	6.6	1.1

対象者全体と比較し 10%以上高い

対象者全体と比較し 10%以上低い

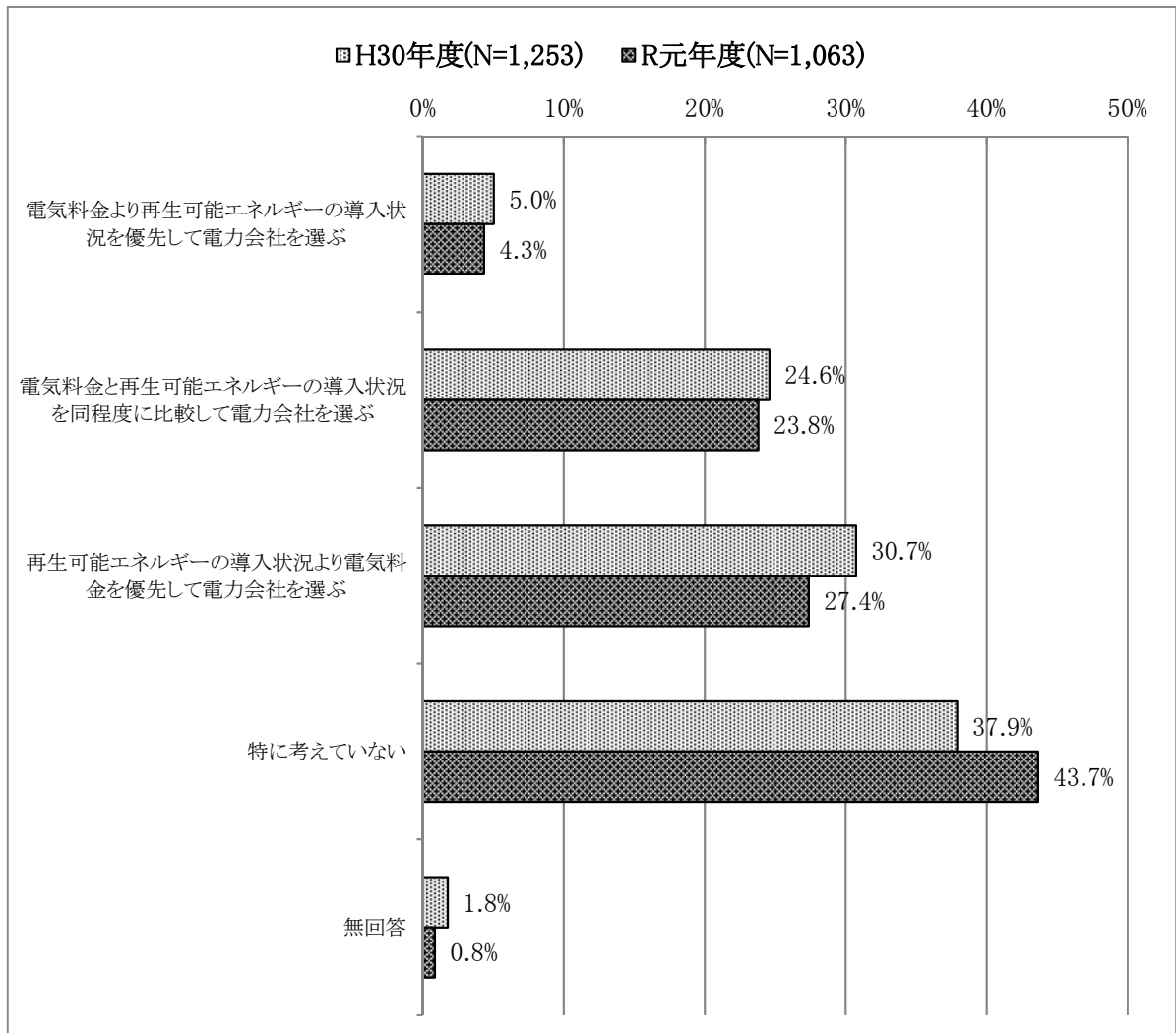
単位 % (サンプル数を除く)



## ■電力会社の再エネ導入に対する認識

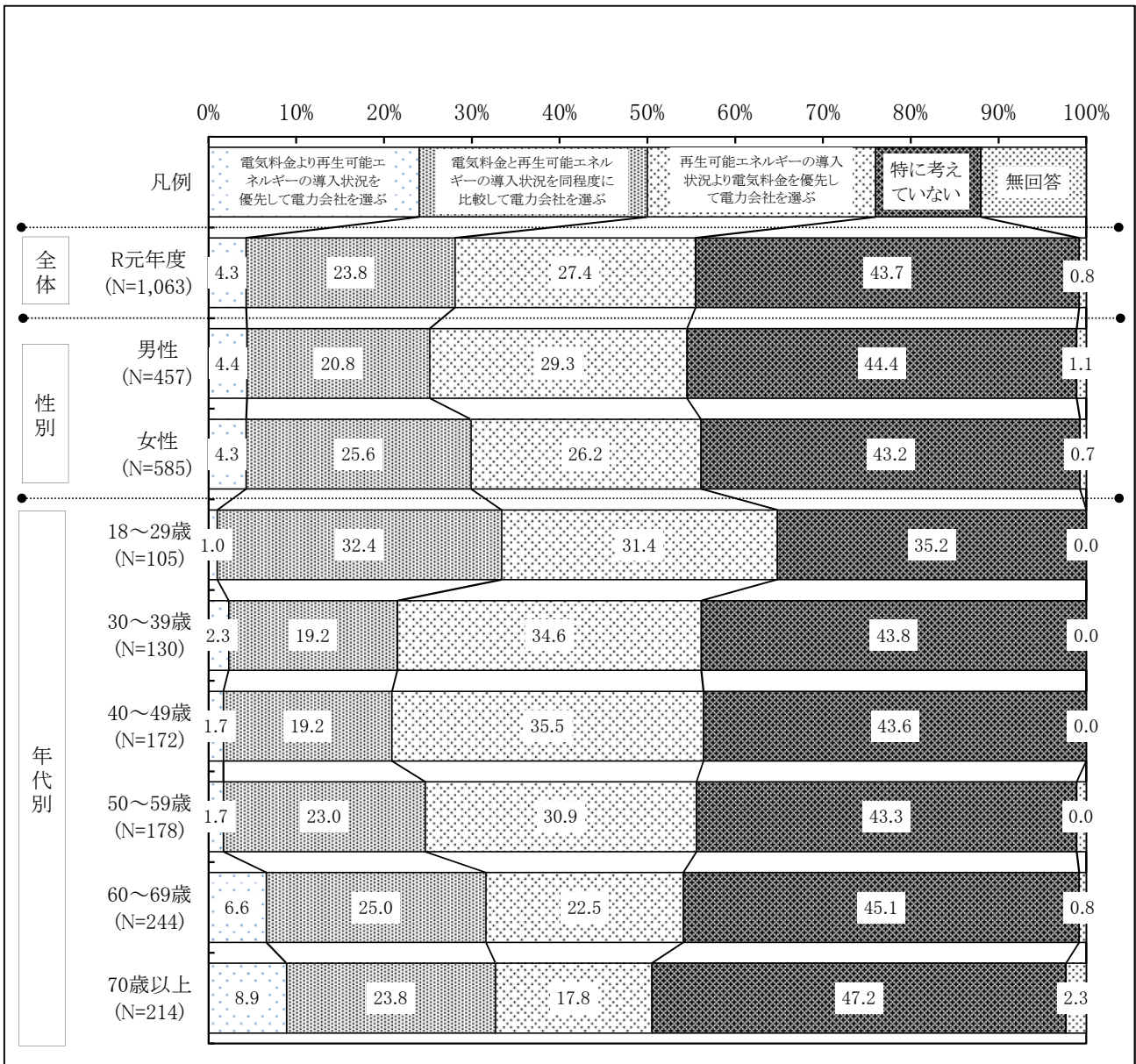
- 【問13】 あなたが電力会社を選ぶとき、電力会社による再生可能エネルギーの導入状況をどのように考えますか。  
あなたの考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 「特に考えていない」が43.7%で最も多い。



【性別】男女に大きな差は見られない。

【年代別】年代が上がるにつれて「特に考えていない」人が多くなる傾向となっている。

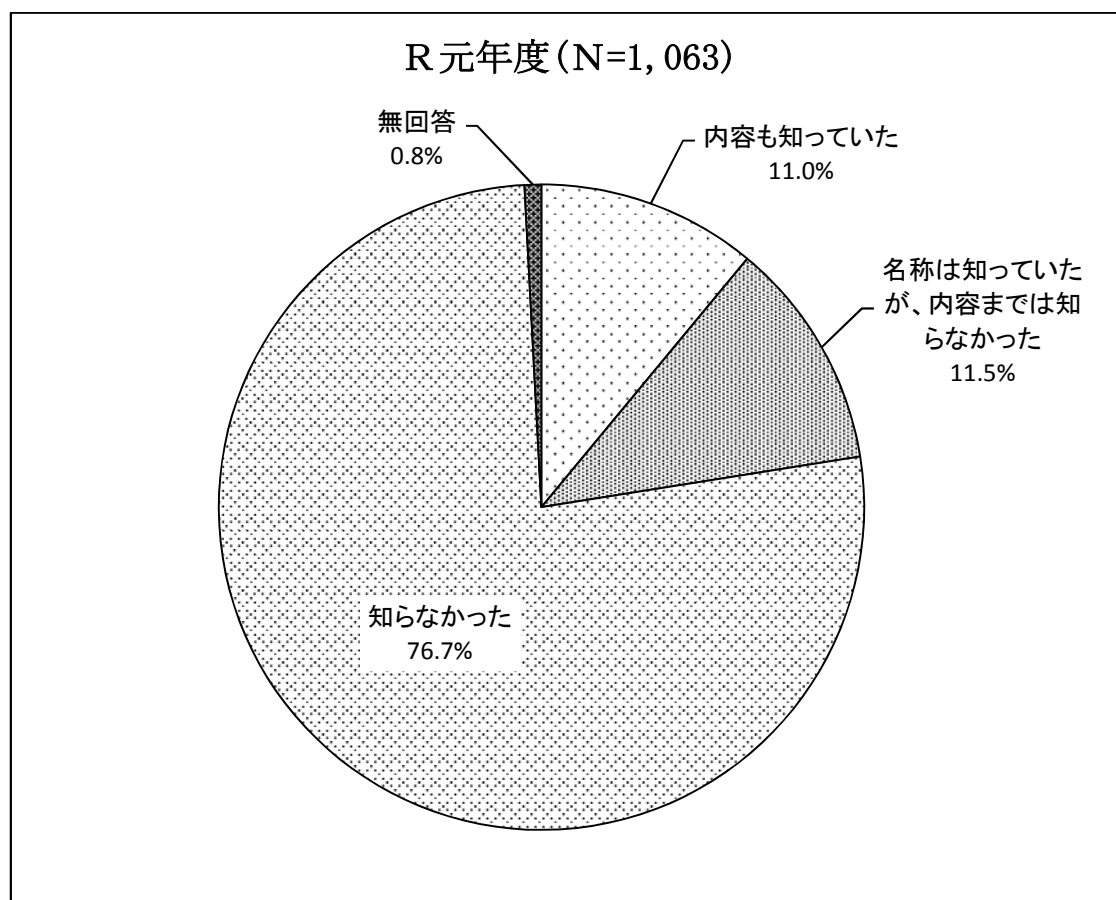


## ■ ZEH：ゼッチの認知度について

【問14】 「住まいの断熱性能と省エネ性能を高め、加えて太陽光発電などでエネルギーを創ることにより、年間の消費エネルギー量の収支を実質ゼロにする住宅を『ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH：ゼッチ）』といいます。」

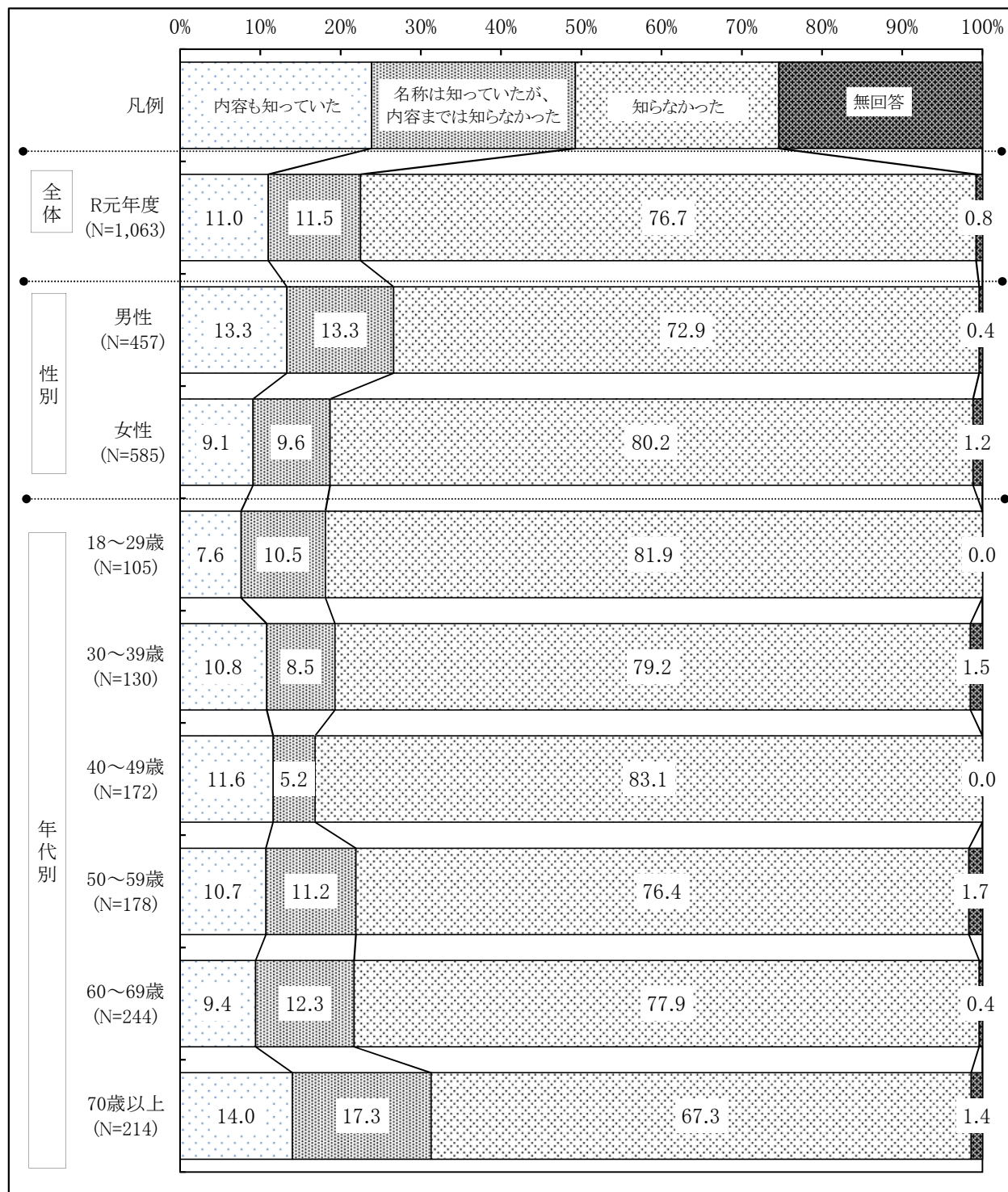
あなたは、ZEHについて知っていましたか。  
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 ZEHを「知らなかった」人は76.7%となっている。



【性別】女性のほうが「知らなかった」人が多い。

【年代別】他の年代に比べて、70歳以上の認知度が高くなっている。

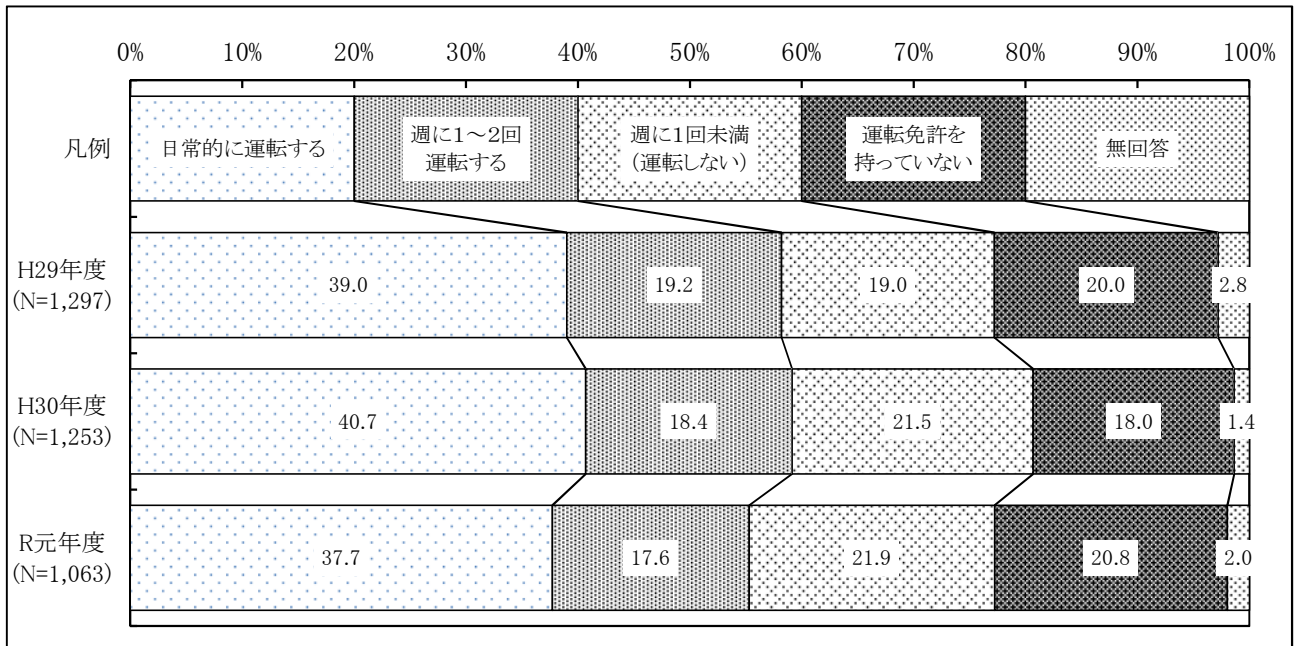


### (3) 自動車に関する温暖化対策の認識と実施状況

#### ■自動車の運転頻度

【問15】 あなたは、どれくらいの頻度で自動車を運転しますか。  
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

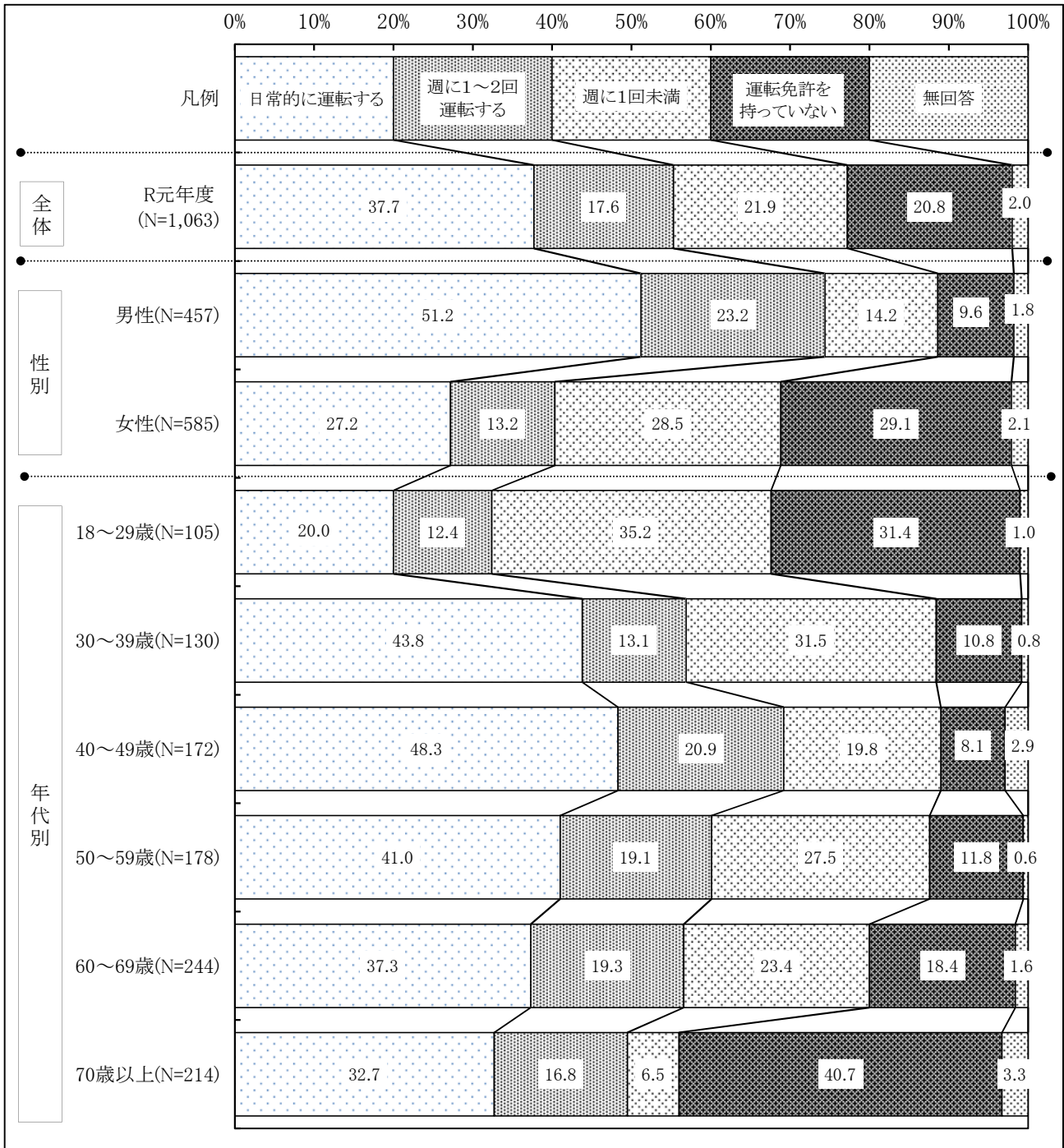
【全体】 「日常的に運転する」が37.7%と最も多くなっている。



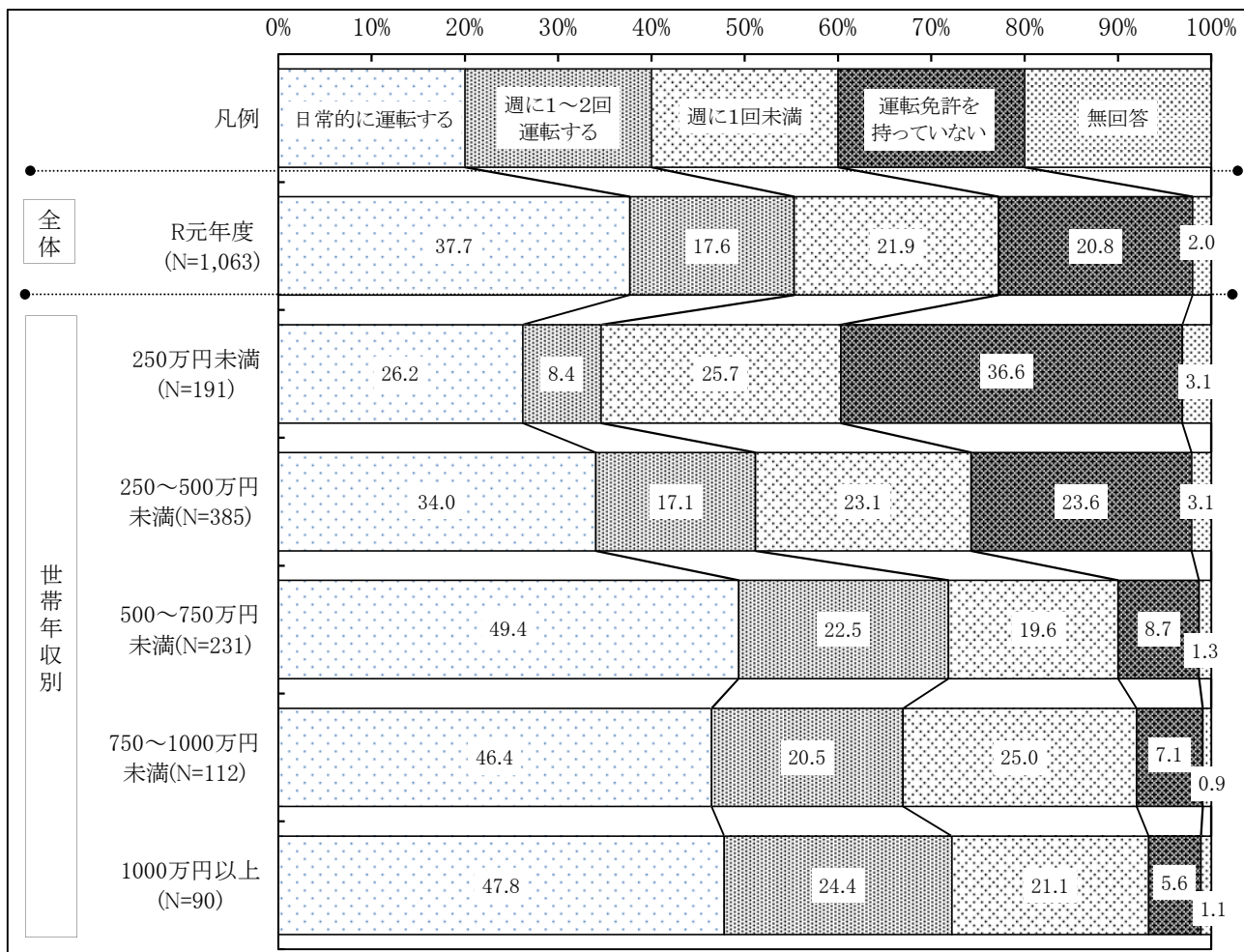


【性別】「日常的に運転する」は男性（51.2%）、女性（27.2%）であり、男性の方が24ポイント高くなっている。

【年代別】「日常的に運転する」は40～49歳（48.3%）が最も高く、次いで30～39歳（43.8%）、50～59歳（41.0%）の順となっている。



【世帯年収別】「日常的に運転する」は500万円以上で約50%となっている。

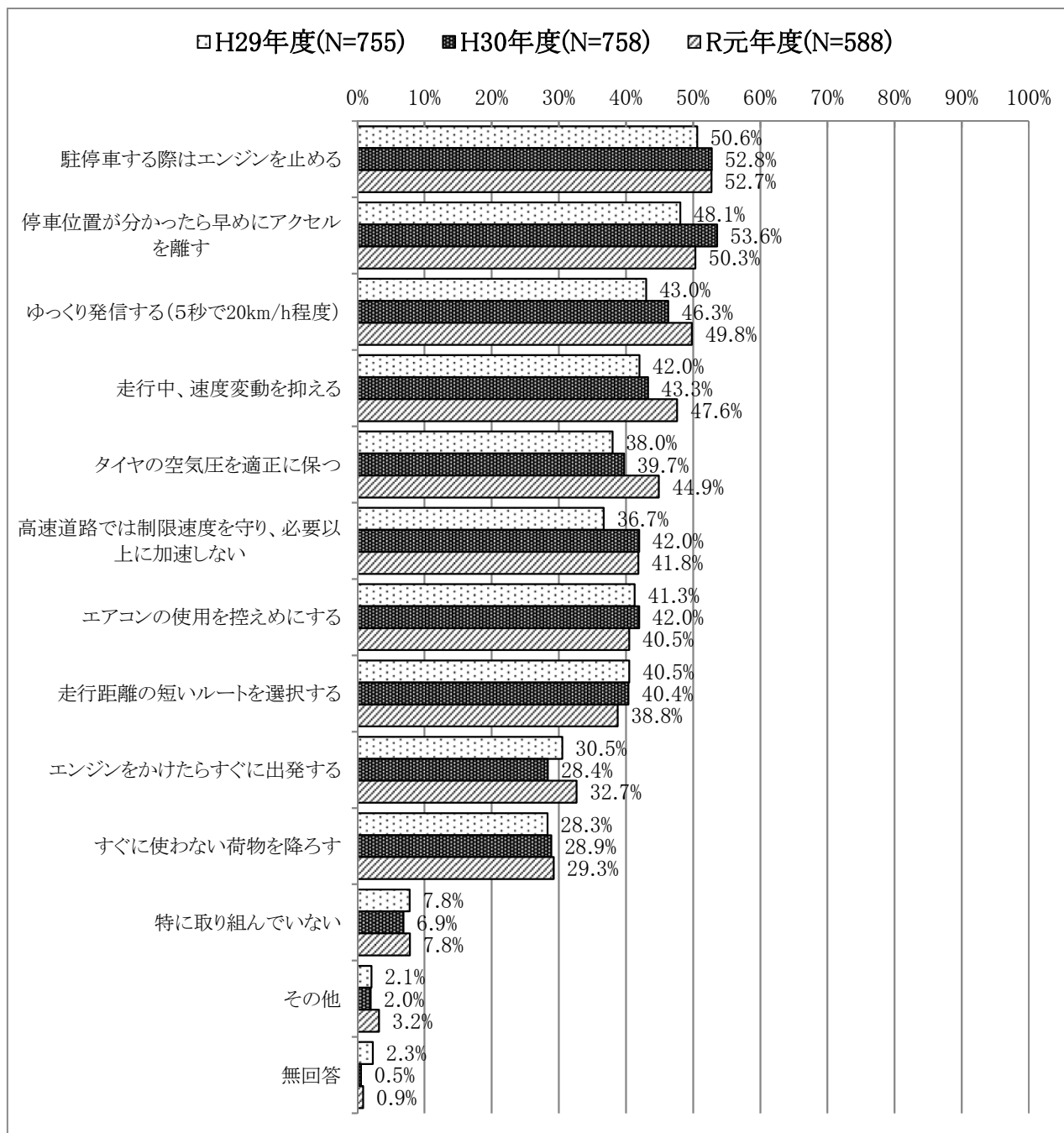


## ■実践しているエコドライブの取組

《問15で「1 日常的に運転する」または「2 週に1～2回」に○をつけた方にお聞きします》

【問16-1】 あなたが運転する際に実施しているエコドライブの取組はありますか。  
あてはまるものすべてに○をつけてください。

【全体】 実施しているエコドライブの取組は、「駐停車する際はエンジンを止める」が52.7%と最も高く、次いで「停車位置が分かったら早めにアクセルを離す」（50.3%）、「ゆっくり発進する（5秒で20km/h程度）」（49.8%）の順になっている。





【性別】 「タイヤの空気圧を適正に保つ」は男性のほうが取り組んでいる。

【年代別】 実施しているエコドライブの取組は、年代が上がるにつれて全般的に割合が高くなる傾向にある。

	サンプル数	駐停車する際はエンジンを止める	停車位置が分かたら早めにアクセルを離す	ゆっくり発信する (5秒で20km/h程度)	走行中、速度変動を抑える	タイヤの空気圧を適正に保つ	高速道路では制限速度を守り、必要以上に加速しない	エアコンの使用を控えるにする	走行距離の短いルートを選択する	エンジンをかけたらすぐに出発する	すぐに使わない荷物を降ろす	特に取り組んでいない	その他	無回答
全体	588	52.7	50.3	49.8	47.6	44.9	41.8	40.5	38.8	32.7	29.3	7.8	3.2	0.9
《性別》														
男性	340	49.4	49.4	49.1	46.2	50.6	41.5	40.0	39.1	29.1	28.2	9.7	2.4	0.9
女性	236	57.6	52.1	50.8	48.7	35.6	42.4	41.1	39.0	36.9	30.9	5.5	4.2	0.8
《年代別》														
18～29歳	34	64.7	70.6	47.1	35.3	29.4	35.3	35.3	50.0	32.4	26.5	5.9	2.9	0.0
30～39歳	74	50.0	45.9	35.1	45.9	41.9	28.4	35.1	39.2	32.4	18.9	9.5	0.0	0.0
40～49歳	119	46.2	54.6	52.1	47.9	39.5	31.9	37.8	31.9	24.4	31.9	8.4	2.5	0.0
50～59歳	107	48.6	41.1	42.1	43.0	33.6	34.6	32.7	34.6	32.7	22.4	13.1	2.8	1.9
60～69歳	138	51.4	53.6	50.7	51.4	45.7	49.3	39.9	40.6	35.5	29.0	7.2	3.6	2.2
70歳以上	106	65.1	48.1	65.1	50.9	67.0	62.3	56.6	46.2	37.7	41.5	2.8	5.7	0.0

対象者全体と比較し 10%以上高い

対象者全体と比較し 10%以上低い

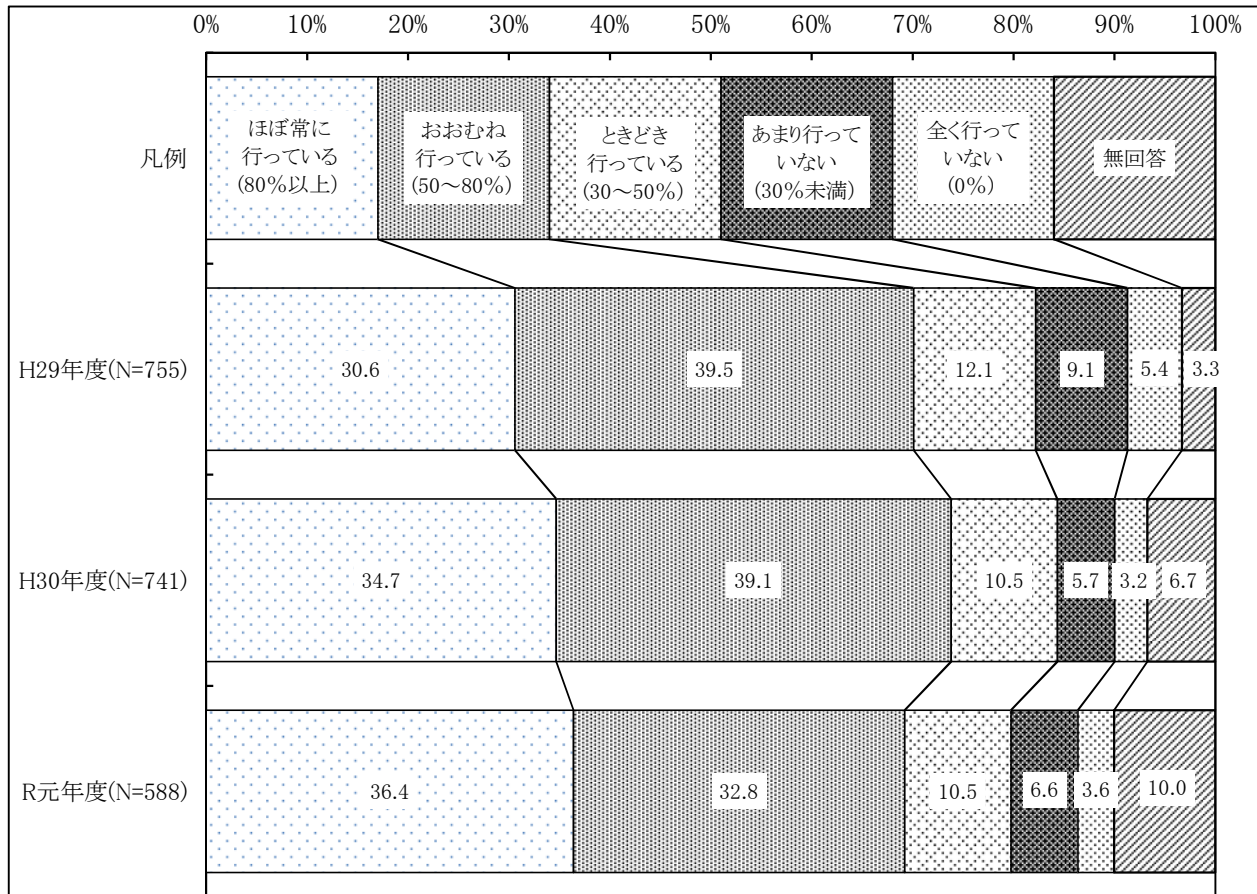
単位 % (サンプル数を除く)

## ■実践しているエコドライブの頻度

《引き続き、問15で「1 日常的に運転する」または「2 週に1～2回」に○をつけた方にお聞きします》

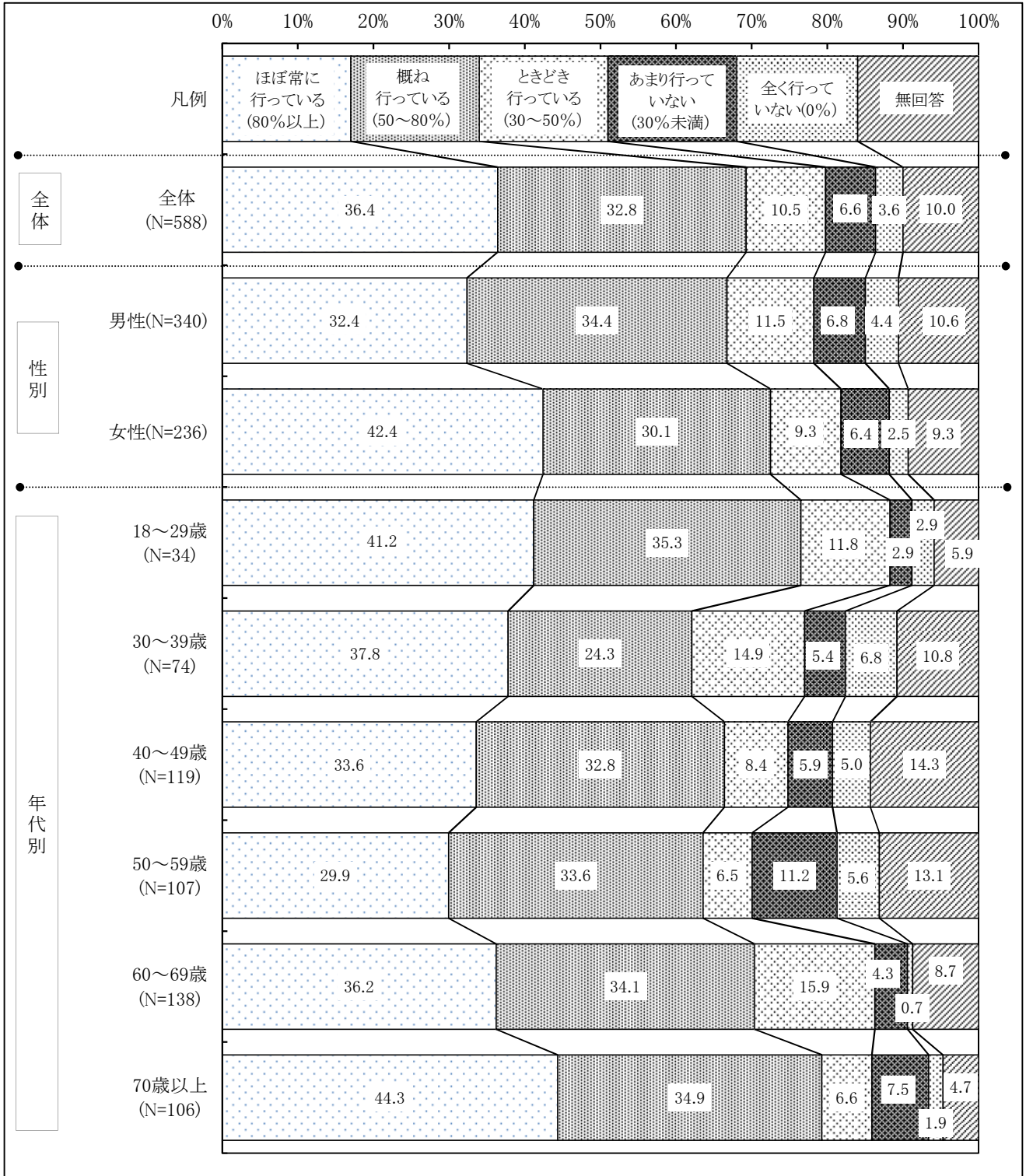
【問16-2】 あなたが運転する際に実施しているエコドライブの頻度はどのくらいですか。  
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】「ほぼ常に行っている（80%以上）」が36.4%となっている。



【性別】「ほぼ常に行っている（80%以上）」は男性（32.4%）、女性（42.4%）であり、女性のほうが10ポイント高い。

【年代別】「ほぼ常に行っている（80%以上）」は70歳以上が44.3%と最も高く、次いで18～29歳（41.2%）、30～39歳（37.8%）の順となっている。

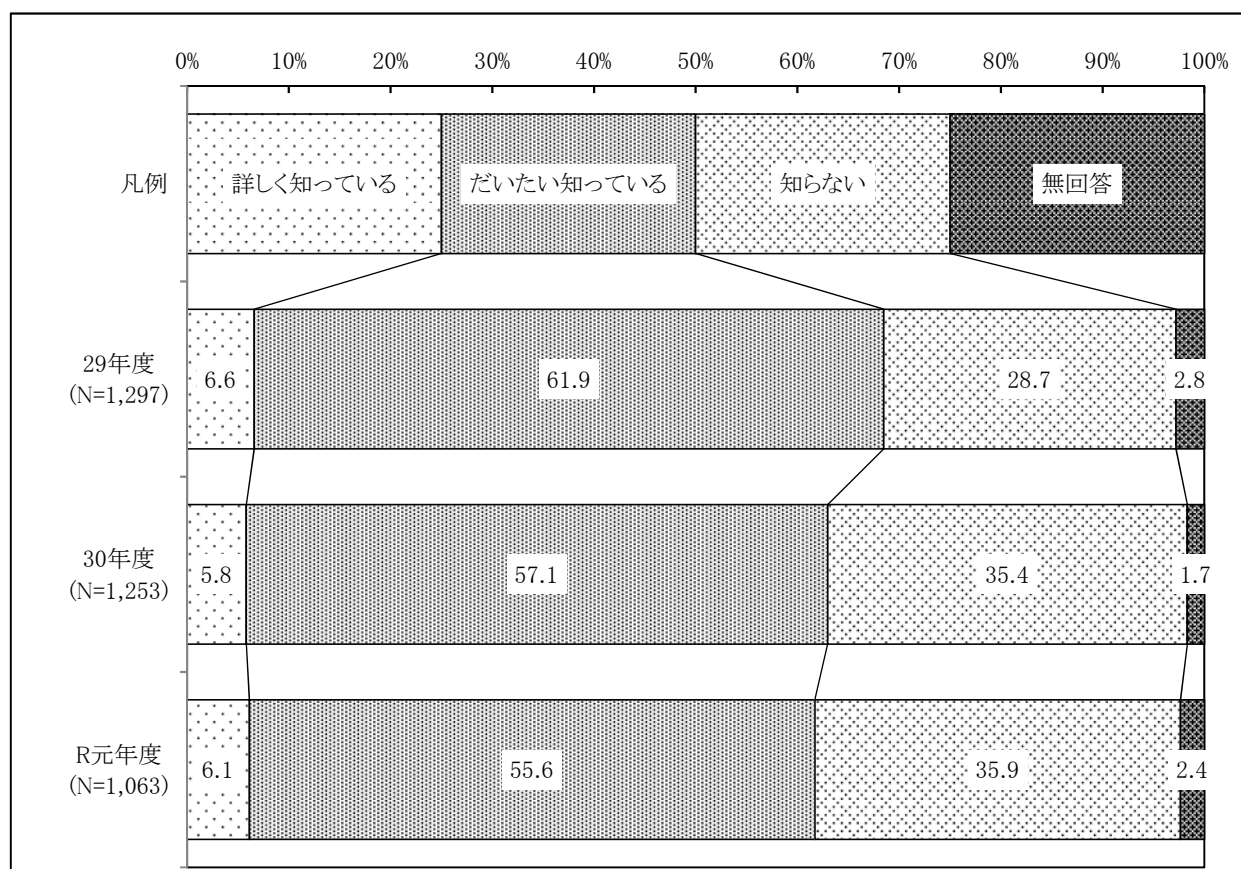


## ■燃料電池自動車（FCV）の認知度

【問17】 「水素と酸素の化学反応によって発電した電気でモーターを回して走る自動車のことを燃料電池自動車（FCV：Fuel Cell Vehicle）といいます。燃料となる水素は、再生可能エネルギーから製造可能であることから、燃料電池自動車（FCV）は燃料製造から利用まで温室効果ガス（二酸化炭素など）を発生しない「究極のエコカー」として期待されています。」

あなたは、燃料電池自動車（FCV）について知っていますか。  
 あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

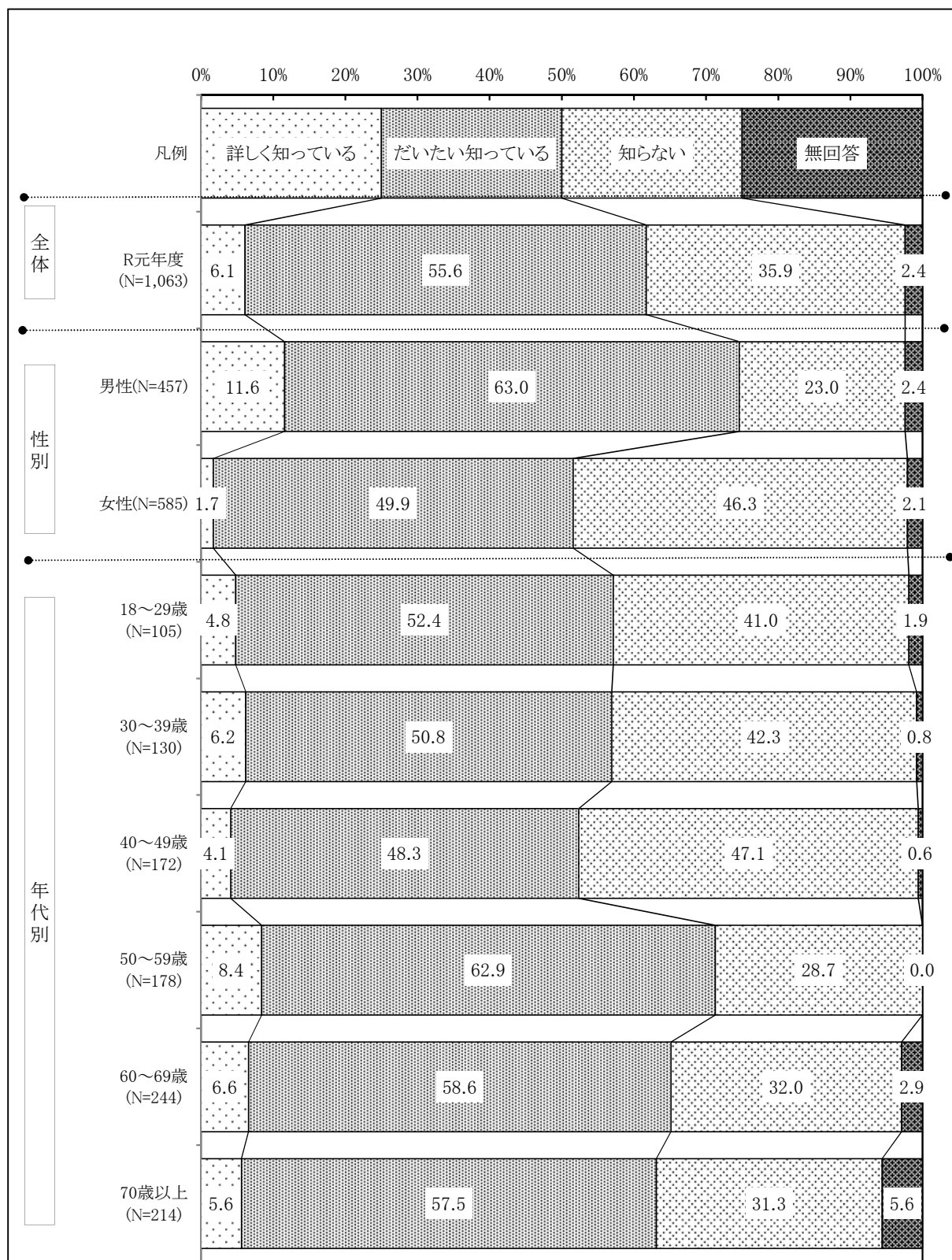
【全体】「詳しく知っている」と「だいたい知っている」を合わせて61.7%の人が燃料電池自動車（FCV）について知っている。





【性別】「知らない」は男性が23.0%、女性が46.3%であり、女性のほうが23.3ポイント高くなっている。

【年代別】「知らない」は49歳以下で40%以上となっている。



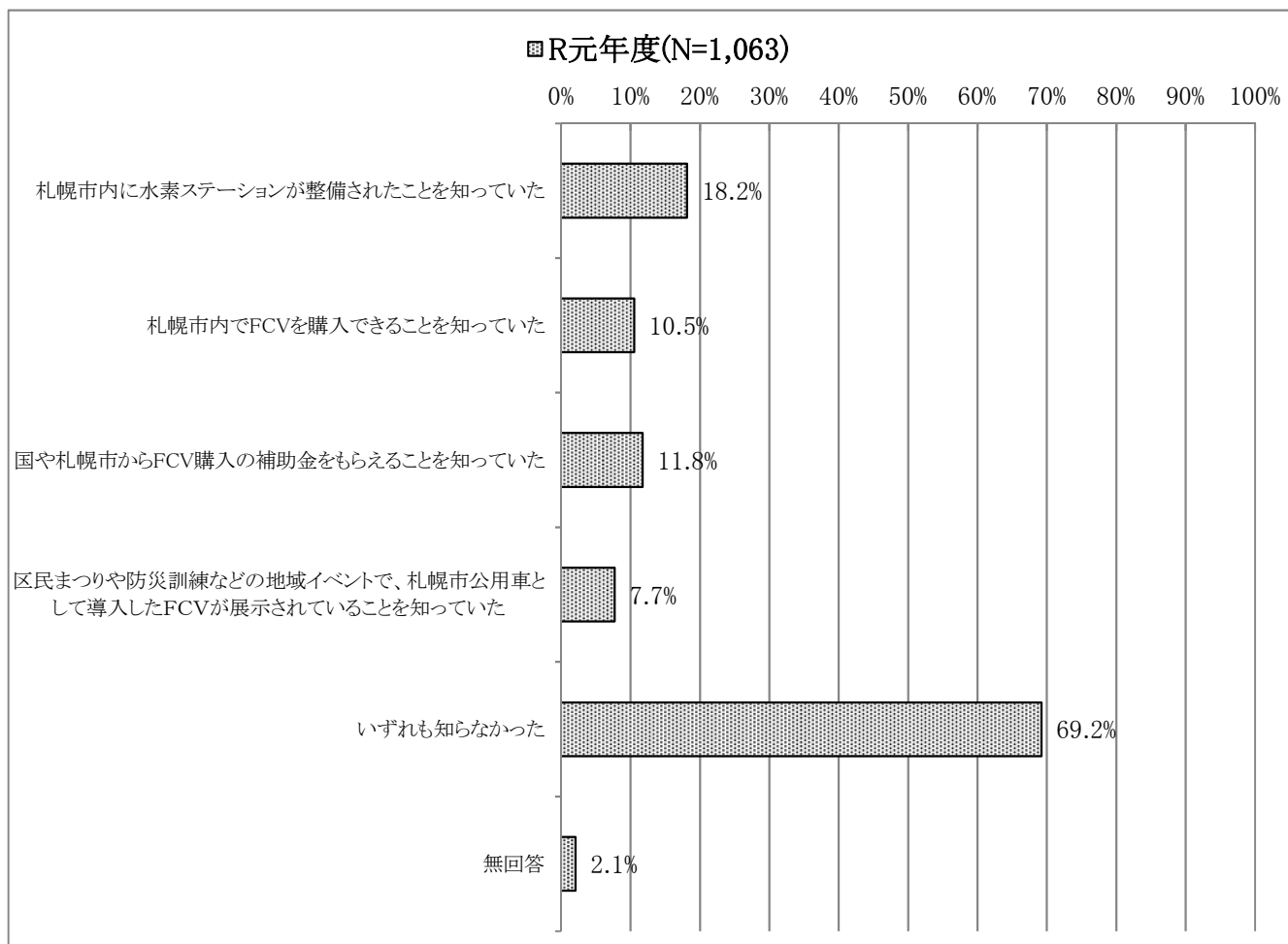
## ■燃料電池自動車（FCV）や水素ステーションに関する認知度

【問18】 「燃料電池自動車（FCV）へ水素を充填するための設備を水素ステーションといいます。平成30（2018）年3月、札幌市豊平区にて市内1か所目の水素ステーションの営業が開始されたことから、札幌市内においてFCVを購入し、水素を充填できるようになりました。また、FCVの購入にあたっては、国や札幌市から補助金をもらうことができます\*。」  
 ※令和元年度現在。補助申請が受付予定額に達し次第、受付終了。

あなたは、札幌市内における燃料電池自動車（FCV）や水素ステーションの動向について知っていましたか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

【全体】札幌市内における燃料電池自動車（FCV）や水素ステーションの動向について、「いずれも知らなかった」が69.2%と最も高い。



【性別】 「いずれも知らなかった」は男性が61.7%、女性が76.2%であり、女性のほうが14.5ポイント高い。

【年代別】 「いずれも知らなかった」は30～39歳、40～49歳で80%以上となっている。

	サンプル数	札幌市内に水素ステーションが整備されたことを知っていた	札幌市内でFCVを購入できていることを知っていた	国や札幌市からFCV購入の補助金をもらえることを知っていた	区民まつりや防災訓練などの地域イベントで、札幌市公用車として導入したFCVが展示されていることを知っていた	いずれも知らなかった	無回答
全体	1,063	18.2	10.5	11.8	7.7	69.2	2.1
《性別》							
男性	457	23.0	14.2	17.7	10.5	61.7	1.8
女性	585	13.5	6.8	7.0	5	76.2	2.2
《世代別》							
18～29歳	105	21.0	10.5	8.6	4.8	68.6	1.9
30～39歳	130	10.8	3.8	6.2	4.6	80.8	0.8
40～49歳	172	11.6	7.6	7.6	4.7	82.0	0.6
50～59歳	178	15.2	5.1	11.2	6.2	74.2	0.0
60～69歳	244	19.7	13.9	12.3	8.2	64.8	2.0
70歳以上	214	25.2	15.4	19.6	13.1	56.1	5.6

■ 対象者全体と比較し 10%以上高い  
 ■ 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)



## (4) 温暖化対策に関連する情報の認識と実施状況

### ■「SDGs」の認知度

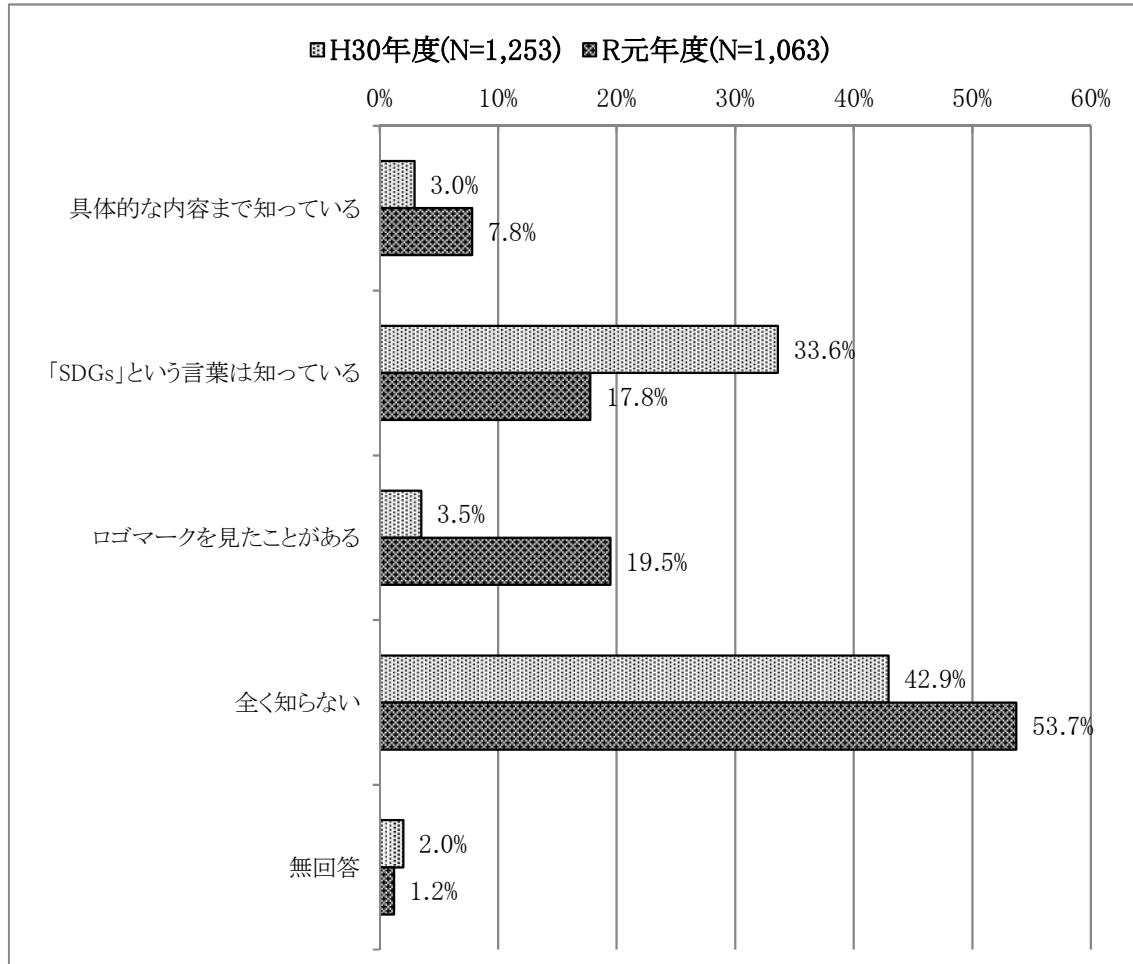
【問19】 「地球温暖化をはじめとした環境問題や様々な社会問題を解決するため、2015年9月、国連において、2030年までに下記のロゴマークに示す目標の達成に向けて世界全体で取り組む『持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）』が採択されました。」

あなたは、持続可能な開発目標（SDGs）について知っていますか。  
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

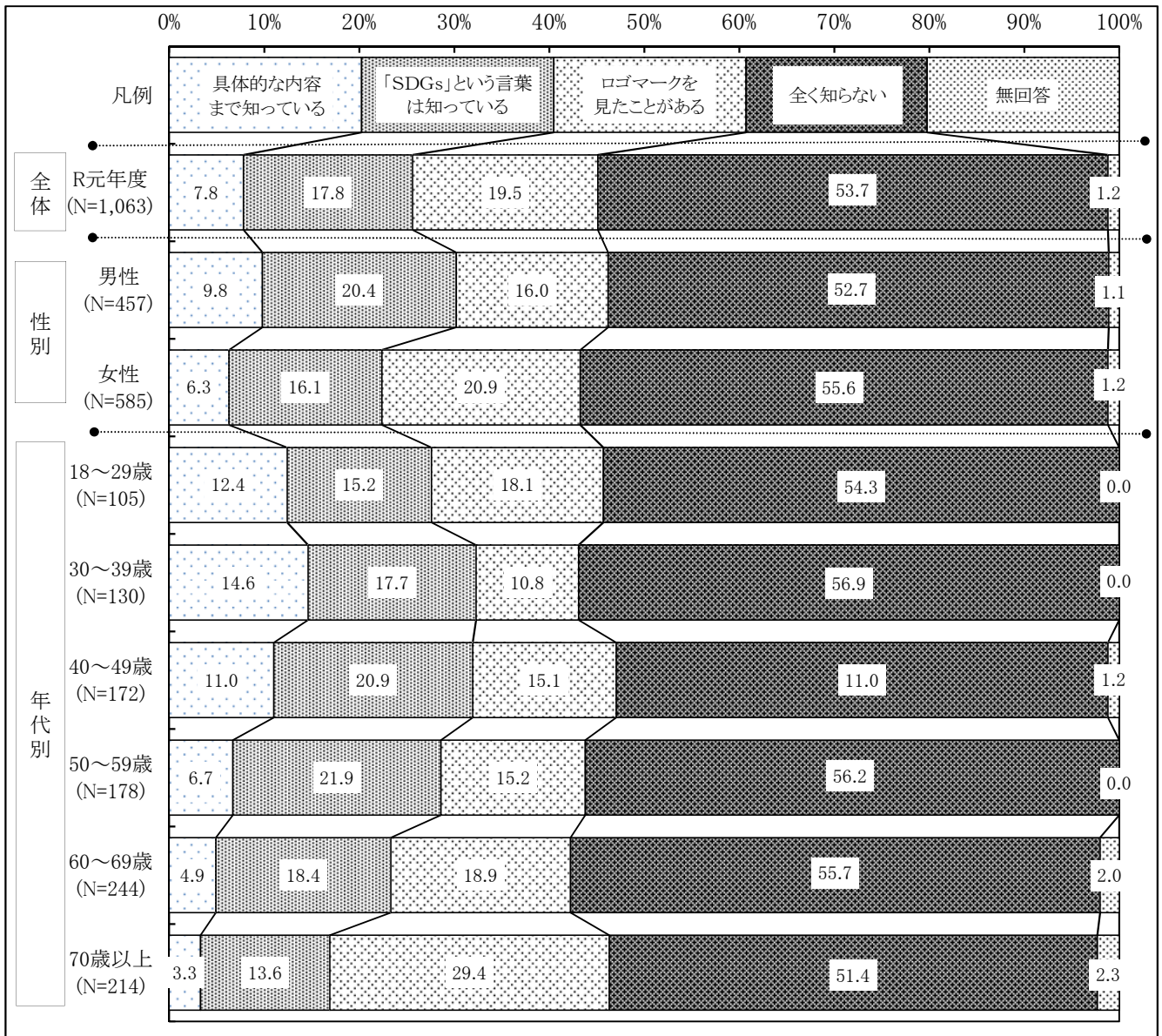


【全体】持続可能な開発目標（SDGs）について「全く知らない」（53.7%）が最も高く、次いで「ロゴマークを見たことがある」（19.5%）、「SDGsという言葉は知っている」（17.8%）の順となっている。



【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】若い年代ほど「具体的な内容まで知っている」傾向にある。



## ■フェアトレードの認知度

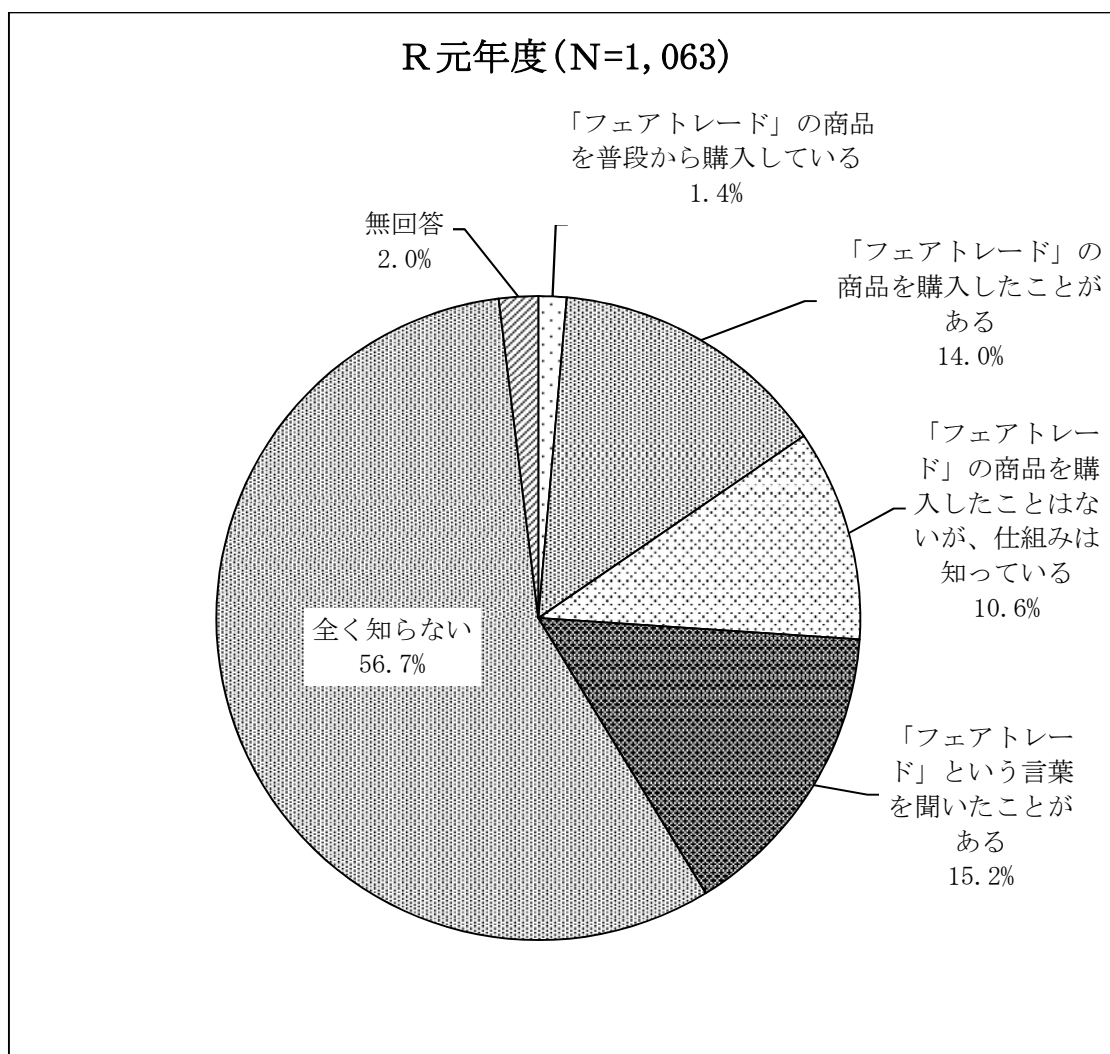
【問20】 「発展途上国の所得や環境など、持続可能な生活を確保するため、コーヒーやカカオ豆などの開発途上国の生産物に対して適正な価格を支払う『フェアトレード』という仕組みがあり、貧困の撲滅、児童労働の根絶などを通じて、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも貢献するものです。

また、開発途上国の生産者・労働者の自立や生活改善を図るだけでなく、環境破壊をしない持続可能な生産技術や原料を使うことを原則とするなど、環境保護にも配慮して行われています。

札幌市はフェアトレードの取組を推進しており、2019年6月には全国5都市目の『フェアトレードタウン』にも認定されています。」

あなたは、「フェアトレード」の商品を購入したことがありますか。  
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

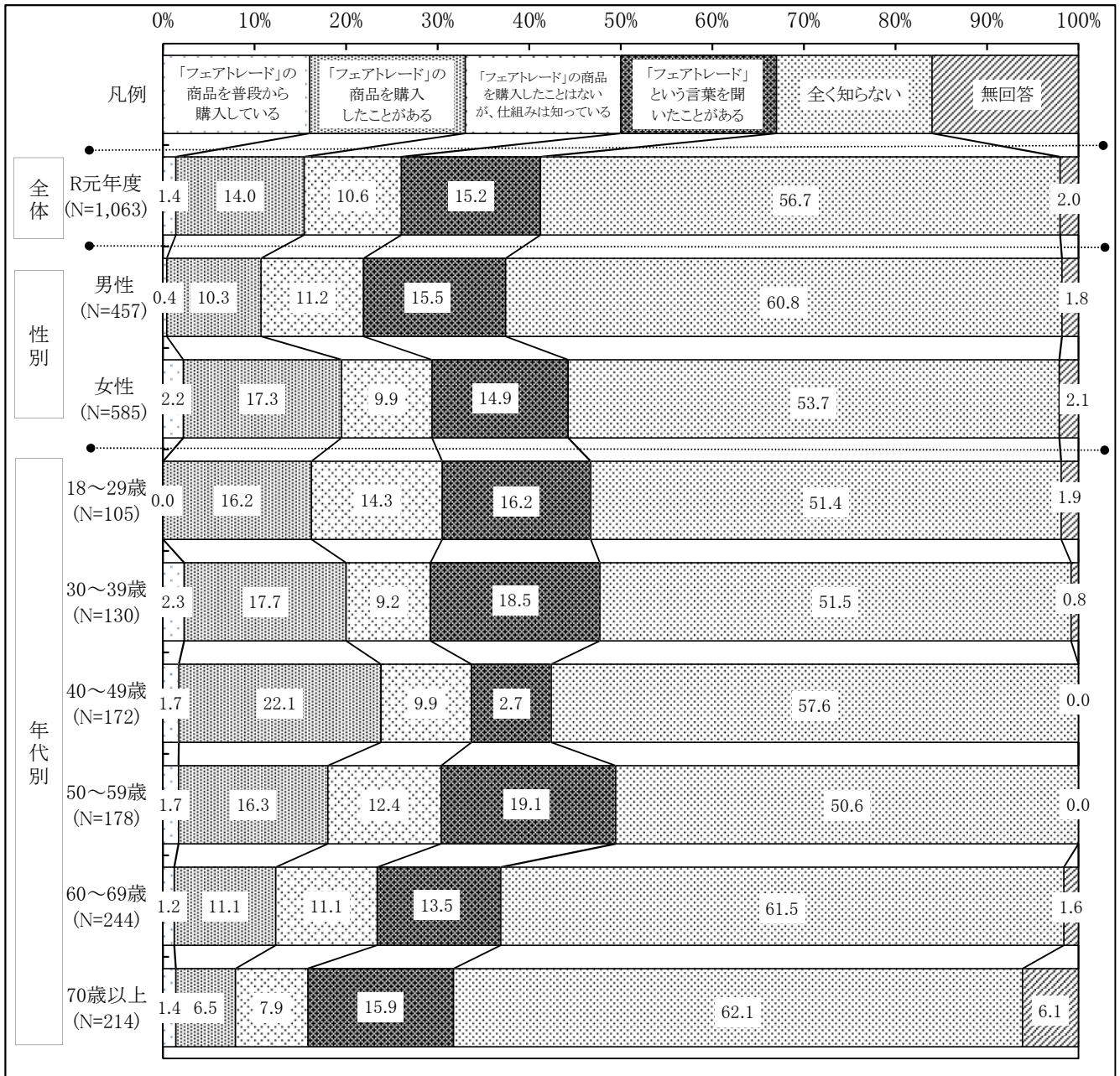
【全体】「フェアトレードの商品を普段から購入している」と「フェアトレードの商品を購入したことがある」を合わせて、15.4%の人がフェアトレードの商品を購入したことがある。



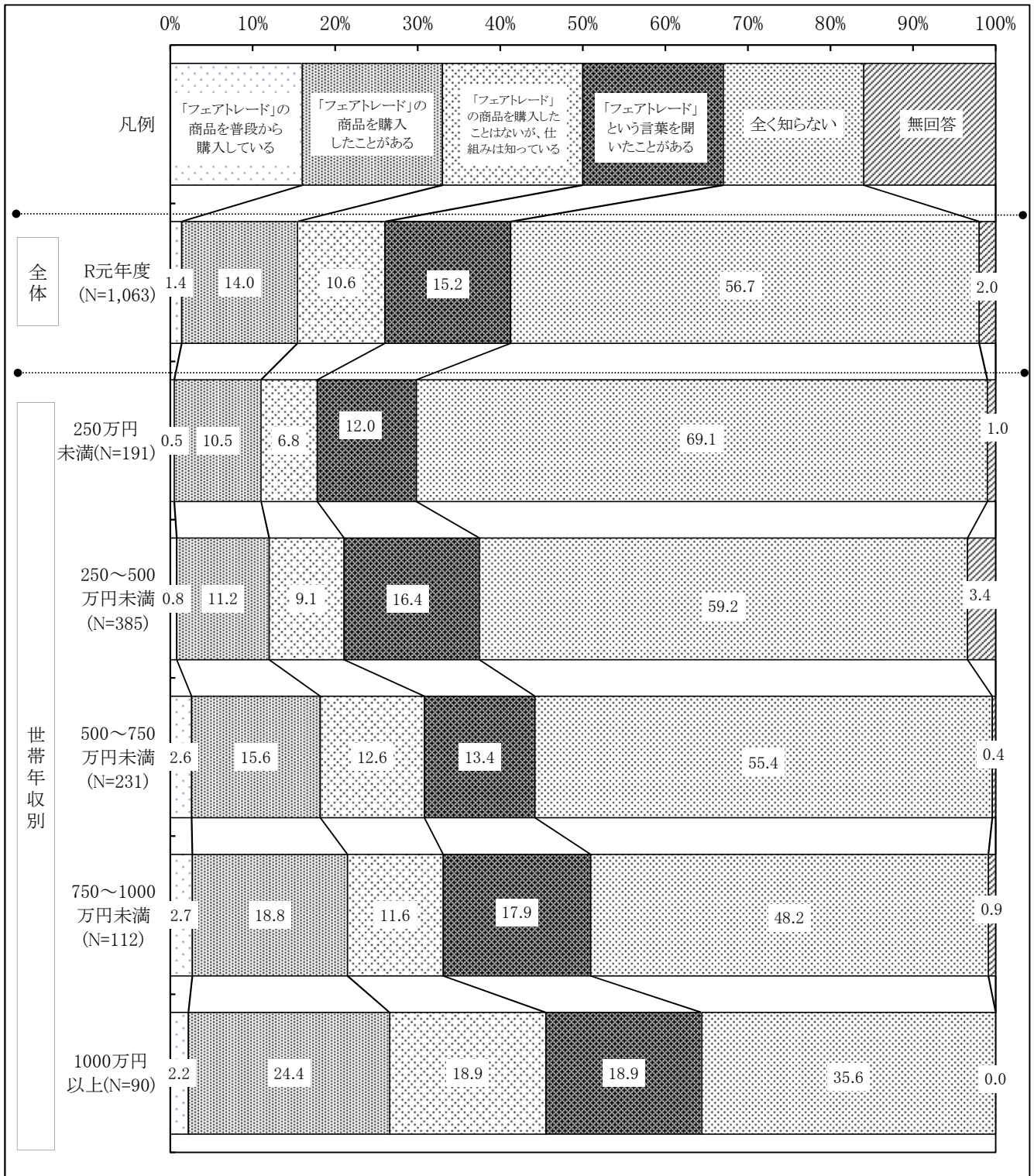


【性別】「フェアトレードの商品を普段から購入している」と「フェアトレードの商品を購入したことがある」を合わせると、男性が10.7%、女性が19.5%であり、女性のほうが8.8ポイント高い。

【年代別】「フェアトレードの商品を普段から購入している」と「フェアトレードの商品を購入したことがある」を合わせると、40～49歳が23.8ポイントと最も高い。



【世帯年収別】世帯年収が高くなるにつれ、フェアトレード商品を購入したことがある人や認知度が高くなる傾向にある。





## ■持続可能な都市の実現に向けた取組の実践状況

【問21】 「札幌市では、環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、『第2次札幌市環境基本計画』を平成30年3月に策定し、持続可能な開発目標（SDGs）の視点を取り入れながら、「持続可能な都市」の実現に向けた取組を進めています。

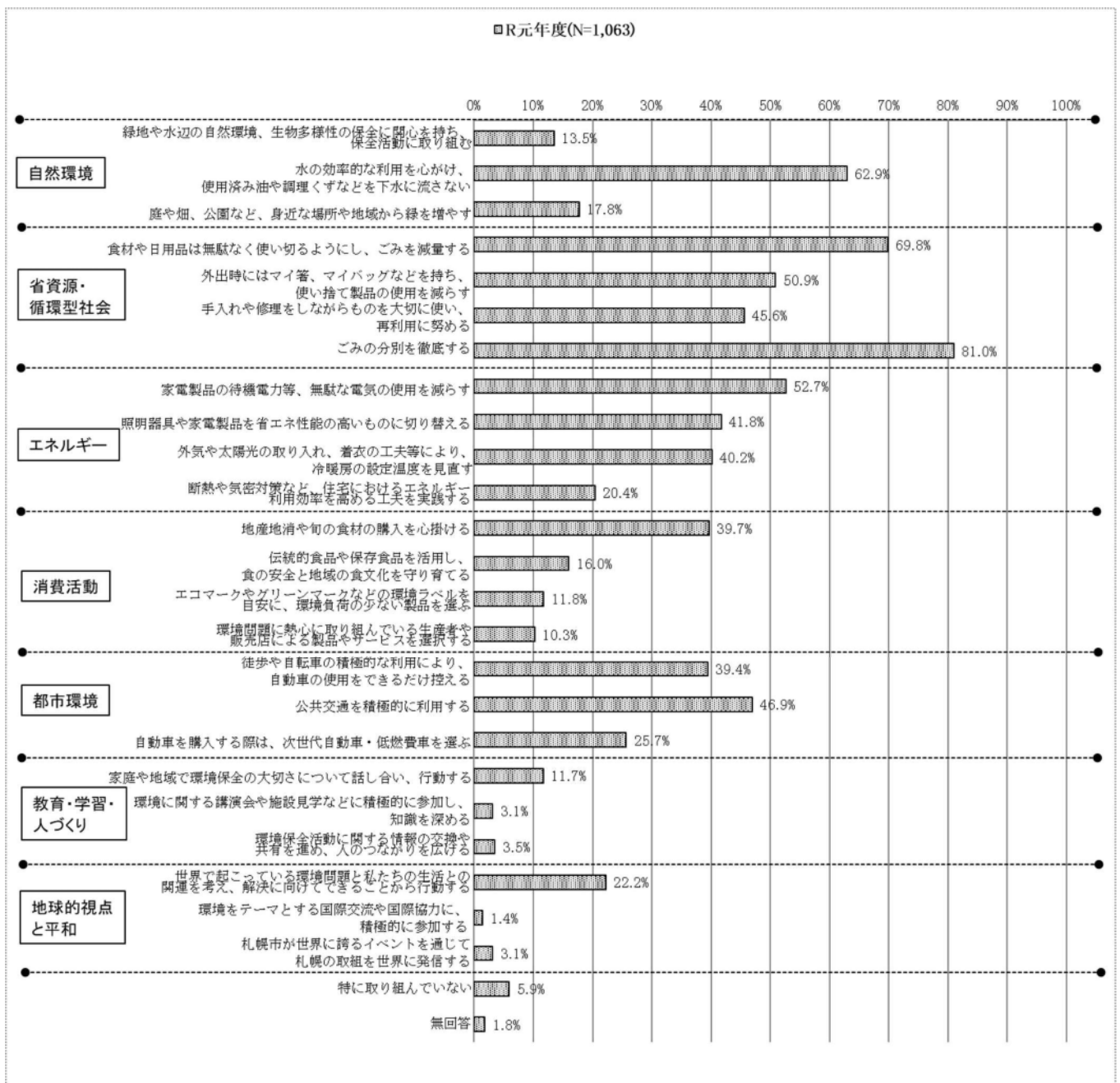
《持続可能な都市とは》 ※第2次札幌市環境基本計画より

自然の恵みが守られ、食糧やモノ、エネルギーなどが将来にわたって確保されるとともに、人々の暮らしも楽しく、健康的なものであり続ける都市

あなたは、「持続可能な都市」を実現するために「第2次札幌市環境基本計画」で示す“地球を守るためのプロジェクト・札幌行動～市民行動編”を実践していますか。

以下の取組の中で、あてはまるものすべてに○をつけてください。

【全体】ごみの減量や分別など、「省資源・循環型社会」に関する取り組みの実践が進んでいる。



【性別】「水の効率的な利用を心がけ、使用済み油や調理くずなどを下水に流さない」「外出時にはマイ箸、マイバッグなどを持ち、使い捨て製品の使用を減らす」は、男性に比べて女性の方が取り組んでいる人の割合が高い。

【年代別】年代が高くなるにつれ、取り組んでいる割合が高くなる傾向にある。

	サンプル数	自然環境			省資源・循環型社会			
		緑地や水辺の自然環境、生物多様性	水の効率的な利用を心がけ、使用済み油や調理くずなどを下水に流さない	庭や畑、公園など、身近な場所や地域から緑を増やす	食材や日用品は無駄なく使い切るようにし、ごみを減量する	外出時にはマイ箸、マイバッグなどを持ち、使い捨て製品の使用を減らす	手入れや修理をしながらものを大切に使い、再利用に努める	ごみの分別を徹底する
全体	1,063	13.5	62.9	17.8	69.8	50.9	45.6	81.0
《性別》								
男性	457	14.9	51.0	16.4	65.4	39.4	46.6	81.0
女性	585	12.1	71.6	18.6	72.8	59.1	44.1	80.7
《年代別》								
18～29歳	105	14.3	45.7	9.5	55.2	54.3	39.0	67.6
30～39歳	130	10.8	61.5	8.5	60.8	50.8	35.4	68.5
40～49歳	172	9.3	58.1	11.6	68.0	50.0	40.7	78.5
50～59歳	178	9.6	68.0	13.5	68.5	58.4	48.3	83.1
60～69歳	244	15.2	63.5	20.9	76.6	48.4	45.9	88.9
70歳以上	214	19.6	69.6	31.8	76.2	45.3	54.7	85.5



	サンプル数	エネルギー				消費活動			
		家電製品の待機電力等、無駄な電気の使用を減らす	照明器具や家電製品を省エネ性能の高いものに切り替える	外気や太陽光の取り入れ、着衣の工夫等により、冷暖房の設定温度を見直す	断熱や気密対策など、住宅におけるエネルギー利用効率を高める工夫を実践する	地産地消や旬の食材の購入を心掛ける	伝統的食文化を地域で活用し、食の安全と地域の食文化を守り育てる	環境ラベルやグリーンマークなどの製品を選ぶ	エコマークやグリーンマークなどの製品を選ぶ
全体	1,063	52.7	41.8	40.2	20.4	39.7	16.0	11.8	10.3
《性別》									
男性	457	50.1	44.6	35.4	21.2	31.1	13.3	8.5	8.1
女性	585	54.5	39.0	43.4	19.3	45.8	17.8	13.7	11.5
《年代別》									
18～29歳	105	49.5	25.7	32.4	8.6	23.8	6.7	7.6	1.9
30～39歳	130	47.7	29.2	38.5	17.7	36.2	12.3	6.9	8.5
40～49歳	172	50.6	35.5	38.4	14.5	34.9	9.9	10.5	7.6
50～59歳	178	55.1	46.1	40.4	18.5	41.6	14.0	9.0	7.9
60～69歳	244	46.7	48.8	42.6	23.0	45.5	18.4	14.8	10.7
70歳以上	214	63.6	49.5	43.0	30.4	43.9	25.7	15.0	17.8

■ 対象者全体と比較し 10%以上高い  
 ■ 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

	サンプル数	都市環境			教育・学習・人づくり		
		徒歩や自転車の使用をできるだけ控え	公共交通を積極的に利用する	自動車を購入する際は、次世代自動車・低燃費車を選ぶ	家庭や地域で環境保全の大切さについて話し合い、行動する	環境に関する講演会や施設見学などに積極的に参加し、知識を深める	環境保全活動に関する情報の交換や共有を進め、人々のつながりを広げる
全体	1,063	39.4	46.9	25.7	11.7	3.1	3.5
《性別》							
男性	457	38.7	42.2	29.8	11.4	3.3	4.6
女性	585	39.5	49.9	21.5	11.3	2.7	2.6
《年代別》							
18～29歳	105	38.1	53.3	14.3	7.6	2.9	3.8
30～39歳	130	30.0	36.9	19.2	10.8	0.8	2.3
40～49歳	172	29.7	39.0	29.1	13.4	2.9	1.2
50～59歳	178	37.6	43.8	27.5	10.7	1.7	2.8
60～69歳	244	48.4	45.1	32.4	9.8	2.9	3.7
70歳以上	214	43.5	59.3	21.5	14.5	5.6	6.1

	サンプル数	地球的視点と平和				
		世界の起こっていることから行動する	環境をテーマとする国際交流や国際協力に、積極的に参加する	札幌市が世界に誇るイベントを通じて札幌の取組を世界に発信する	特に取り組んでいない	無回答
全体	1,063	22.2	1.4	3.1	5.9	1.8
《性別》						
男性	457	20.4	2.4	3.1	8.5	1.5
女性	585	22.9	0.7	2.7	3.9	2.1
《年代別》						
18～29歳	105	13.3	2.9	-	5.7	1.9
30～39歳	130	16.9	2.3	3.1	9.2	1.5
40～49歳	172	16.3	0.6	0.6	7.6	-
50～59歳	178	24.2	-	1.7	5.6	-
60～69歳	244	28.3	1.2	4.1	4.9	1.2
70歳以上	214	23.8	2.3	5.6	4.2	5.6

 対象者全体と比較し 10%以上高い  
 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

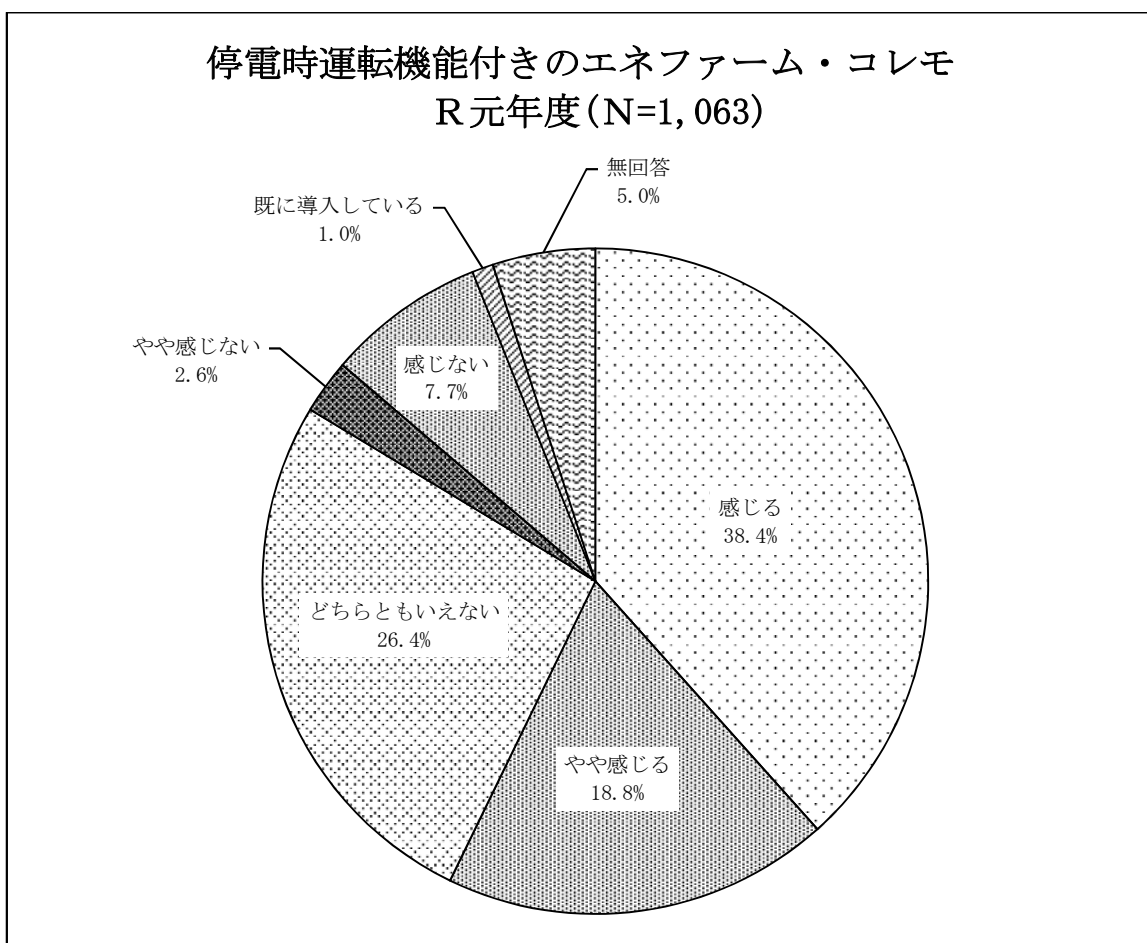
## ■災害対策としての省エネ・再エネ機器導入の意識

【問22】 「札幌市内でも電力供給が一時ストップした、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震や、令和元年9月、10月に関東地方などに甚大な被害をもたらした台風など、近年、日常生活に大きな影響を及ぼす自然災害が頻発しております。」

あなたは、これらの災害を受けて、平常時は地球温暖化対策として、災害時は非常用の電源として活用できる機器等の導入の必要性を感じますか。

下表のアからオまでの機器などについて、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【停電時運転機能付きのエネファーム・コレモ（全体）】「感じる」と「やや感じる」を合わせると、57.2%の人が停電時運転機能付きのエネファーム・コレモの導入の必要性を感じている。





【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、若い世代ほど高くなっている。

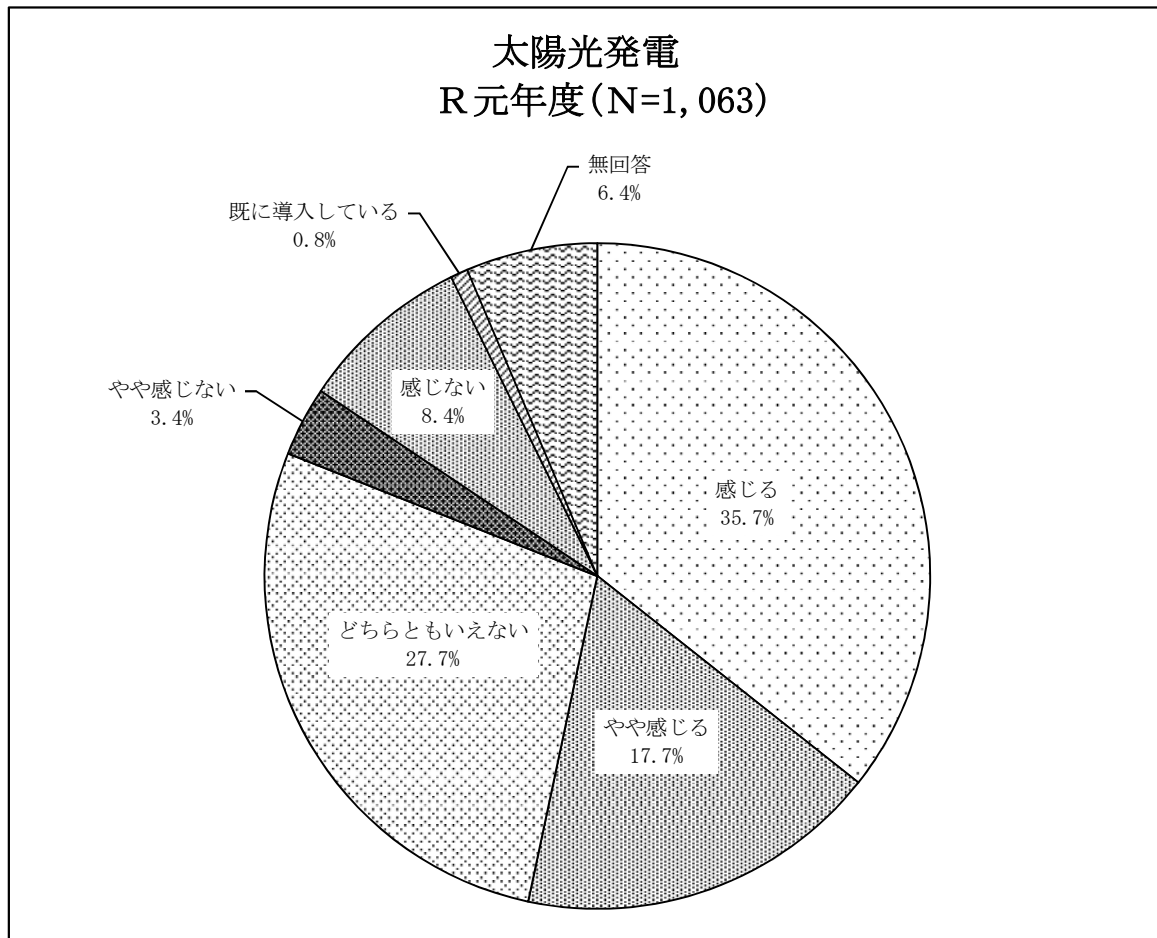
【世帯年収別】「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、750～1,000万円でも最も高くなっている。

	サンプル数	感じる	やや感じる	どちらともいえない	やや感じない	感じない	既に導入している	無回答
全体	1,063	38.4	18.8	26.4	2.6	7.7	1.0	5.0
《性別》								
男性	457	34.4	17.9	26.7	4.8	10.5	1.1	4.6
女性	585	41.9	19.8	26.0	1.0	5.3	0.9	5.1
《年代別》								
18～29歳	105	34.3	33.3	22.9	2.9	4.8	1.0	1.0
30～39歳	130	43.8	19.2	24.6	1.5	6.9	2.3	1.5
40～49歳	172	35.5	22.7	27.3	4.7	8.1	1.2	0.6
50～59歳	178	34.3	21.9	30.9	1.7	7.9	0.6	2.8
60～69歳	244	40.6	14.8	29.5	2.5	8.2	0.0	4.5
70歳以上	214	41.1	11.2	21.0	2.8	7.9	1.4	14.5
《世帯年収別》								
250万円未満	191	38.7	13.1	27.2	1.6	8.4	0.5	10.5
250～500万円未満	385	42.1	17.9	25.5	2.9	7.0	0.3	4.4
500～750万円未満	231	37.7	16.9	30.3	3.9	6.9	2.2	2.2
750～1000万円未満	112	33.9	32.1	23.2	1.8	7.1	0.0	1.8
1000万円以上	90	33.3	25.6	21.1	3.3	8.9	3.3	4.4

 対象者全体と比較し 10%以上高い  
 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

【太陽光発電（全体）】「感じる」と「やや感じる」を合わせると、53.4%の人が太陽光発電の導入の必要性を感じている。







【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、若い世代ほど高い傾向がある。

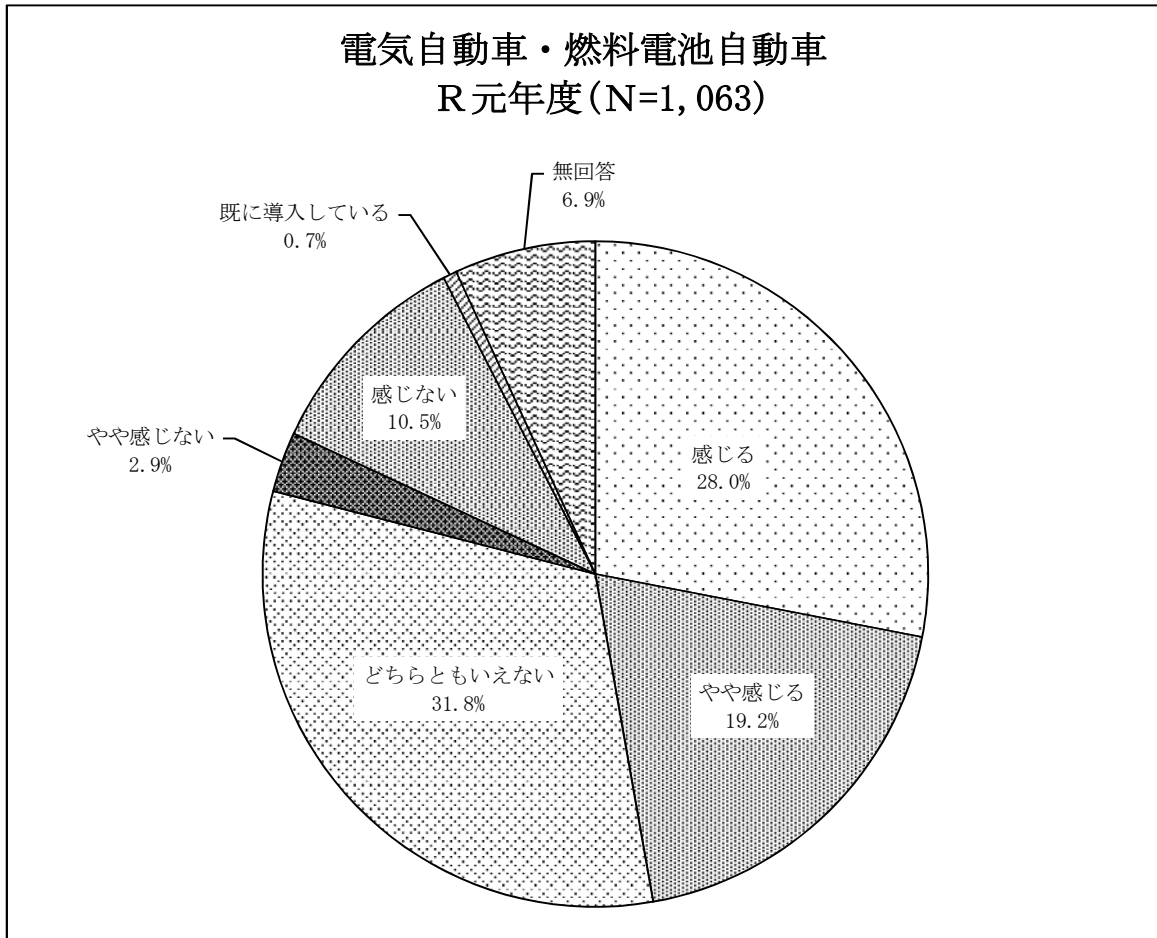
【世帯年収別】世帯年収別で大きな差は見られない。

	サンプル数	感じる	やや感じる	どちらともいえない	やや感じない	感じない	既に導入している	無回答
全体	1,063	35.7	17.7	27.7	3.4	8.4	0.8	6.4
《性別》								
男性	457	31.9	17.3	27.4	5.7	11.2	1.5	5.0
女性	585	38.6	18.3	27.9	1.7	6.0	0.2	7.4
《年代別》								
18～29 歳	105	37.1	28.6	25.7	4.8	3.8	0.0	0.0
30～39 歳	130	43.1	22.3	22.3	3.1	6.9	0.8	1.5
40～49 歳	172	34.9	19.8	27.9	4.1	10.5	1.2	1.7
50～59 歳	178	37.6	18.5	30.3	2.8	7.3	0.0	3.4
60～69 歳	244	36.9	16.4	29.9	3.7	8.2	0.0	4.9
70 歳以上	214	28.5	9.8	26.2	2.8	10.3	2.3	20.1
《世帯年収別》								
250 万円未満	191	35.1	14.7	24.6	2.1	9.9	0.0	13.6
250～500 万円未満	385	37.4	18.7	25.7	2.9	8.1	1.3	6.0
500～750 万円未満	231	36.8	18.2	29.9	5.2	6.5	0.9	2.6
750～1000 万円未満	112	30.4	25.0	30.4	3.6	8.0	0.0	2.7
1000 万円以上	90	36.7	14.4	30.0	5.6	10.0	1.1	2.2

 対象者全体と比較し 10%以上高い  
 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

【電気自動車・燃料電池自動車（全体）】「感じる」と「やや感じる」を合わせて、47.2%の人が電気自動車・燃料電池自動車の導入の必要性を感じている。



【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、若い世代ほど必要性を感じている傾向がある。

【世帯年収別】「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、世帯年収が高いほど高い傾向がある。

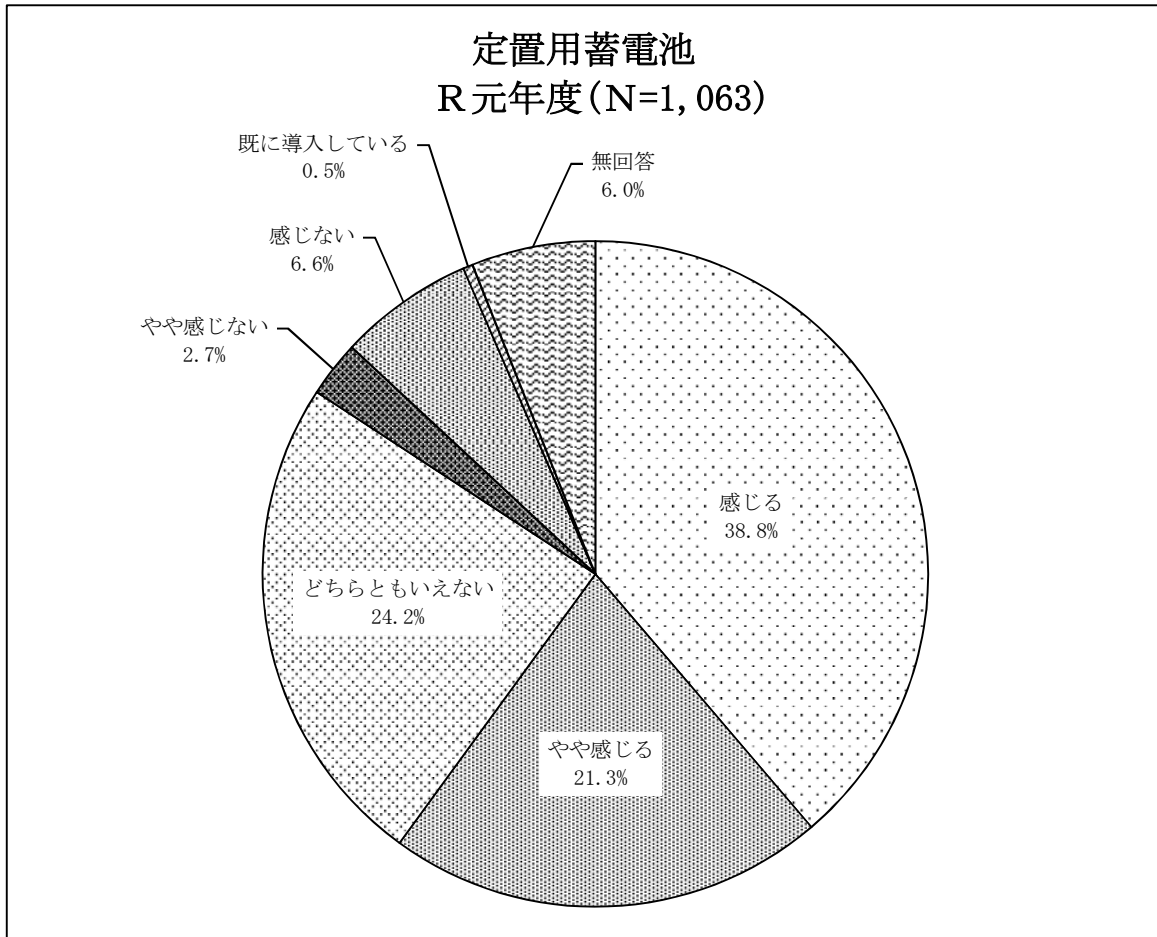
	サンプル数	感じる	やや感じる	どちらともいえない	やや感じない	感じない	既に導入している	無回答
全体	1,063	28.0	19.2	31.8	2.9	10.5	0.7	6.9
《性別》								
男性	457	28.7	19.0	28.9	4.4	13.1	0.7	5.3
女性	585	27.9	19.5	34.0	1.7	8.5	0.5	7.9
《年代別》								
18～29 歳	105	24.8	30.5	37.1	2.9	4.8	0.0	0.0
30～39 歳	130	30.8	20.8	37.7	2.3	7.7	0.0	0.8
40～49 歳	172	27.3	19.8	34.9	6.4	9.3	0.6	1.7
50～59 歳	178	31.5	21.3	31.5	2.8	9.0	1.1	2.8
60～69 歳	244	28.3	20.1	31.1	2.0	12.3	0.4	5.7
70 歳以上	214	25.7	10.7	23.8	1.4	15.4	0.9	22.0
《世帯年収別》								
250 万円未満	191	27.2	11.5	31.4	3.1	14.1	0.0	12.6
250～500 万円未満	385	28.8	18.7	32.5	2.1	10.6	0.5	6.8
500～750 万円未満	231	30.7	20.3	32.5	3.9	10.0	0.0	2.6
750～1000 万円未満	112	25.9	25.9	30.4	2.7	9.8	1.8	3.6
1000 万円以上	90	28.9	30.0	26.7	4.4	4.4	2.2	3.3

対象者全体と比較し 10%以上高い

対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

【定置用蓄電池（全体）】「感じる」と「やや感じる」を合わせて、60.1%の人が定置用蓄電池の導入の必要性を感じている。



【性別】男女で大きな差は見られない。

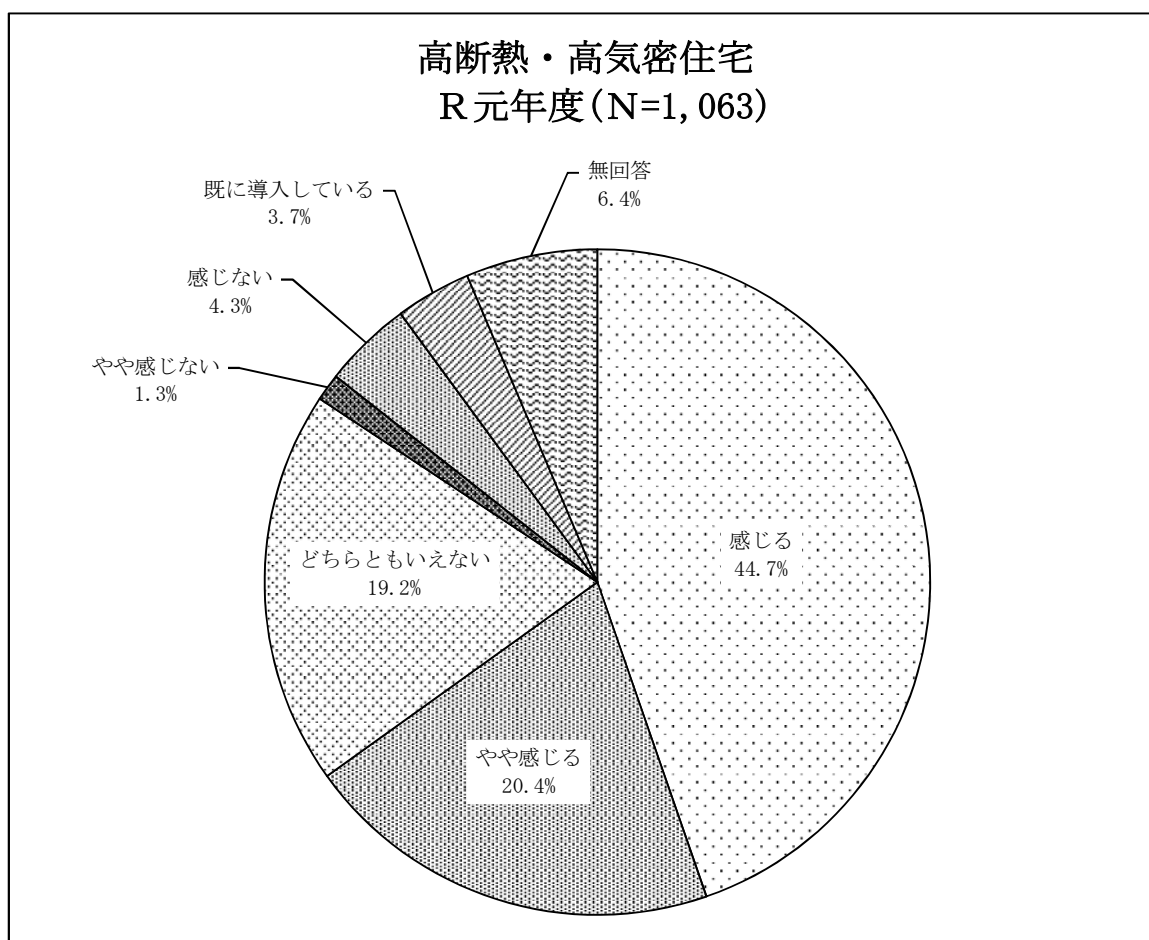
【年代別】「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、若い世代ほど高くなっている。

	サンプル数	感じる	やや感じる	どちらともいえない	やや感じない	感じない	既に導入している	無回答
全体	1,063	38.8	21.3	24.2	2.7	6.6	0.5	6.0
《性別》								
男性	457	34.6	21.2	25.6	4.2	9.4	0.7	4.4
女性	585	42.4	21.4	22.7	1.7	4.4	0.2	7.2
《年代別》								
18～29 歳	105	41.0	32.4	21.0	2.9	1.9	0.0	1.0
30～39 歳	130	43.8	23.8	21.5	3.1	5.4	0.8	1.5
40～49 歳	172	37.2	27.3	23.8	3.5	6.4	0.6	1.2
50～59 歳	178	42.1	21.9	27.0	2.2	3.9	0.0	2.8
60～69 歳	244	38.9	20.5	25.0	2.5	7.8	0.0	5.3
70 歳以上	214	33.2	10.3	23.8	2.8	10.7	0.9	18.2
《世帯年収別》								
250 万円未満	191	40.3	15.2	24.6	3.1	5.2	0.0	11.5
250～500 万円未満	385	40.3	21.6	23.1	1.6	7.5	0.8	5.2
500～750 万円未満	231	39.8	21.2	25.1	5.2	5.6	0.0	3.0
750～1000 万円未満	112	36.6	30.4	20.5	1.8	8.0	0.0	2.7
1000 万円以上	90	34.4	22.2	30.0	3.3	5.6	1.1	3.3

対象者全体と比較し 10%以上高い  
 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

【高断熱・高気密住宅（全体）】「感じる」と「やや感じる」を合わせると、65.1%となっている。





【性別】「感じる」は、男性（37.6%）、女性（50.9%）であり、女性の方が13.3ポイント高くなっている。

【年代別】「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、若い世代ほど高くなっている。

	サンプル数	感じる	やや感じる	どちらともいえない	やや感じない	感じない	既に導入している	無回答
全体	1,063	44.7	20.4	19.2	1.3	4.3	3.7	6.4
《性別》								
男性	457	37.6	23.9	20.1	2.0	6.8	5.3	4.4
女性	585	50.9	17.8	17.8	0.9	2.6	2.4	7.7
《年代別》								
18～29 歳	105	49.5	28.6	17.1	2.9	1.9	0.0	0.0
30～39 歳	130	52.3	22.3	14.6	0.8	5.4	3.1	1.5
40～49 歳	172	45.9	22.7	20.9	1.7	2.9	4.1	1.7
50～59 歳	178	45.5	23.0	20.2	1.1	4.5	3.4	2.2
60～69 歳	244	43.9	21.3	20.1	0.8	4.1	4.1	5.7
70 歳以上	214	39.3	10.7	17.3	1.4	6.5	5.1	19.6
《世帯年収別》								
250 万円未満	191	40.3	13.6	24.1	2.1	5.2	1.0	13.6
250～500 万円未満	385	47.3	19.0	18.2	1.0	5.5	3.6	5.5
500～750 万円未満	231	48.9	22.5	17.7	1.3	3.5	3.9	2.2
750～1000 万円未満	112	39.3	28.6	18.8	1.8	2.7	5.4	3.6
1000 万円以上	90	46.7	24.4	16.7	1.1	0.0	8.9	2.2

■ 対象者全体と比較し 10%以上高い

■ 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 %（サンプル数を除く）